

平成 26 年度

群馬大学大学教育・学生支援機構  
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

# 「平成 26 年度 群馬大学 大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構

機構長 石川 治

本学の大学教育・学生支援機構は、平成 22 年度から主に教養教育の企画・運営を担当する教育基盤センター、学生の大学生活全般を支援する学生支援センター、入試業務と入試広報を担当する学生受入センター、学生及び他の大学構成員の健康支援を主務とする健康支援総合センター、以上の 4 センター体制をとっています。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際教育・研究センターも修学に必須の組織として活動しています。これら全ての組織が大学の基幹的教育業務を担う重要な組織です。

平成 20 年度の中央教育審議会答申では大学卒業生（学士）が身に付けるべきもの（学士力）として、「人類の文化、社会、自然などに関する知識と理解、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、論理思考的能力、倫理観など」さまざまなものが挙げられています。しかし、短い大学生活の期間に全ての能力を過不足なく身に付けることは不可能です。従って、大学教育に求められることは、学生に「学び方を学ばせる」ことです。教育基盤センターが中心となり、平成 24 年度から開講した「学びのリテラシー」は大学教育の根幹であると言えます。

少子高齢化に伴い、現在の 18 歳人口はピーク時の 6 割（120 万人）に減少し、入学定員が大学進学希望者数を上回る「大学全入時代」が到来しました。こうした中で、学ぶ意欲があり優れた資質を持つ学生を如何に選抜していくかは大学の死活を握る重要課題です。教育カリキュラムに特色を持たせ、教養教育から専門教育に亘る一貫した教育を行い、これらを受験生に広くアピールする広報戦略を実行しなければなりません。

他方、大学の本来の使命である教育と研究、そしてそれらを背景とした社会貢献の実践が危ぶまれます。その背景には、〇〇諮問会議が政権にお墨付きを与えるという政治システムがあります。その提言を受けた政策には危ういものを感じます。今こそ、私たち教員一人一人が、「群馬大学はどうあるべきかを」を議論する時です。市場原理主義（拝金主義）によってアメリカの教育（現場）がどれほど荒廃したかを見れば、私たちのとるべき道は明らかでしょう。学生の多様性が失われ、出る杭は消滅してしまいました。「我々は未来を担う若者は育てられるが、若者に未来は与えられない」これはあるアメリカ大統領の言葉なのですが、皮肉なものです。

報告書をまとめるということは、PDCA サイクルを実行する一要素です。今後とも、各センターは「学生のために」を合言葉として、他組織とも連携をとりながら学生及び社会のニーズに合った教育と支援を提供してまいりたいと思います。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、各センターの業務遂行している中でご協力頂いた教職員の皆様、また執筆してくださった方々に深く感謝申し上げます。

# 目 次

## 巻頭言

<b>1</b>	<b>教育基盤センター</b> .....	<b>1</b>
1.1	教育企画室.....	1
1.2	教養教育部会.....	5
1.2.1	はじめに.....	5
1.2.2	平成26年度活動概要.....	5
1.2.3	平成26年度活動内容.....	6
1.3	外国語教育部会.....	9
1.3.1	はじめに.....	9
1.3.2	英語習熟度別クラス編成, および英語アチーブメントテスト.....	9
1.3.3	TOEIC IP.....	9
1.3.4	TOEFL ITP.....	10
1.3.5	e-ラーニングの推進.....	10
1.3.6	ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験.....	10
1.3.7	ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト.....	10
1.3.8	理工学部の英語教育カリキュラムについて.....	11
1.3.9	その他.....	12
1.4	教育推進部会.....	13
1.4.1	はじめに.....	13
1.4.2	ベストティーチャー賞.....	13
1.4.3	教養教育授業評価.....	13
<b>2</b>	<b>学生支援センター</b> .....	<b>95</b>
2.1	入学料免除及び徴収猶予.....	95
2.1.1	免除申請者数, 免除者数.....	95
2.1.2	徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数.....	95
2.2	授業料免除及び徴収猶予.....	95
2.2.1	免除申請者数, 免除者数.....	95
2.2.2	徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数.....	95
2.3	寄宿料免除.....	96
2.3.1	免除申請者数, 免除者数.....	96
2.4	奨学金.....	96
2.4.1	日本学生支援機構奨学生数(平成26年10月1日現在).....	96
2.4.2	日本学生支援機構以外の奨学生数(平成26年10月1日現在).....	96
2.5	学生相談体制及び学生相談.....	96
2.5.1	学生相談体制.....	96
2.5.2	主な相談事項.....	96
2.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用.....	96
2.6	授業欠席状況調査.....	97
2.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由.....	97

2.6.2	実施方法, 時期	97
2.7	障害学生への支援	97
2.7.1	障害学生数	97
2.7.2	支援内容	98
2.8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	98
2.8.1	加入者数	98
2.8.2	請求種別保険金請求件数	98
2.9	通学証明書, 旅客運賃割引証	98
2.9.1	発行枚数及び主な発行理由	98
2.10	学生寮	98
2.10.1	養心寮入寮者数	99
2.10.2	啓真寮入寮者数	99
2.11	生活支援施設	99
2.11.1	食堂	99
2.11.2	売店	99
2.12	課外活動施設	100
2.12.1	体育施設	100
2.12.2	文化施設	102
2.12.3	課外活動共用施設	102
2.12.4	合宿所	102
2.13	学生団体及び主な活動	103
2.13.1	学生団体	103
2.13.2	大学祭	103
2.13.3	関東甲信越大学体育大会	103
2.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	103
2.14	研修施設	104
2.14.1	北軽井沢研修所	104
2.14.2	草津セミナーハウス	104
2.15	学生の就職支援	105
2.15.1	進路状況及び主な就職先	105
2.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	105
2.15.3	キャリアカウンセリングの充実	105
2.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	106
2.15.5	就職支援の体制強化の充実	106
2.15.6	就職支援BOOKの作成・配付	106
2.16	就業力育成支援室	106
2.17	学生生活実態調査	107
2.18	キャンパスニュース群の発行	107
2.19	事件・事故	107
2.20	学生支援センター資料集	107

<b>3</b>	<b>学生受入センター</b>	<b>126</b>
3.1	はじめに	126
3.2	オープンキャンパス等	126
3.2.1	群馬大学オープンキャンパス	126
3.2.2	学部等オープンキャンパス	126
3.3	学生募集に係わる広報活動	126
3.3.1	出前説明会，出張模擬授業及び大学見学	126
3.3.2	進学相談会	127
3.3.3	ホームページ広報	127
3.3.4	高等学校等の教員を対象とした説明会	127
3.4	広報戦略の立案	127
3.5	入学者の追跡調査	127
3.6	その他	127
<b>4</b>	<b>健康支援総合センター</b>	<b>132</b>
4.1	はじめに	132
4.2	平成26年度年間業務実施概要	132
4.3	学生定期健康診断	133
4.3.1	学生定期健康診断状況	133
4.3.2	学生定期健康診断受検状況	133
4.3.3	健康診断時における精神保健調査	133
4.3.4	学生特殊健康診断の実施	134
4.4	外国人留学生健康診断状況	134
4.5	ウイルス性疾患抗体検査	134
4.6	健康支援総合センター利用者等	134
4.6.1	利用者数	134
4.6.2	利用件数	134
4.6.3	疾病領域別利用者数	135
4.6.4	医療機関紹介の診療科分類	135
4.6.5	薬剤別処方日数	135
4.6.6	常備薬使用数	135
4.7	からだの健康相談・こころの健康相談	135
4.7.1	からだの健康相談・こころの健康相談	135
4.7.2	こころの健康相談者数	136
4.8	学外臨床心理士による心理カウンセリング数	136
4.9	教員による教養教育への参加等教育への参加状況	136
4.10	教員による健康管理に関する調査研究業務	136
4.11	健康支援総合センター主催の委員会等	136
4.12	平成26年度健康支援総合センター運営委員会委員	137
4.13	健康支援総合センターの全国委員会等出席	137
4.14	学内行事実施に伴う救護業務	137

4. 15	出版・広報活動	138
4. 16	社会貢献活動	138
4. 17	その他の活動	138
4. 18	キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動	139
4. 19	健康維持・向上相談員の活動	139
4. 20	健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性	139
4. 21	健康支援総合センター資料集	140
	資料1：平成26年度前橋地区学生定期健康診断日程表	141
	平成26年度桐生・太田地区学生定期健康診断日程表	142
	資料2：平成26年度学生定期健康診断受検状況（前橋地区）	143
	平成26年度学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）	144
	資料3：平成26年度精神保健調査	145
	資料4：平成26年度外国人留学生健康診断結果	146
	資料5：平成26年度医学部1年ウイルス性疾患 （麻疹，風疹，水痘，流行性耳下腺炎）抗体価検査 他	147
	資料6：平成26年度利用人数	148
	資料7：平成26年度利用件数	149
	資料8：平成26年度疾病領域別利用者数	150
	資料9：平成26年度医療機関紹介の診療科分類	151
	資料10：平成26年度薬剤別使用数（処方日数による）	152
	資料11：平成26年度常備薬使用数	153
	資料12：平成26年度からだの健康相談・こころの健康相談の対応内容	154
	資料13：平成26年度こころの健康相談者数・こころの健康相談内容	155
	資料14：平成26年度カウンセラー相談利用状況	156
	資料15：第21回（平成26年度第1回） 健康支援総合センター運営委員会次第 他	157
	資料16：平成26年度健康支援総合センター運営委員会委員名簿	159

# 1 教育基盤センター

## 1.1 教育企画室

平成 23 年度から、教養教育及びこれに関連した教育体制のあり方を検討するために、教育基盤センターに教育企画室を新設し、センター長と連携して、教養教育に関する企画立案等を行っている。

平成 26 年度の議題内容は、次のとおりである。

### 【平成 26 年度】

回数	年 月 日	議 題
1	平成 26 年 4 月 28 日	1. 平成 26 年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」への申請について 2. 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」への申請について 3. 平成 26 年度スーパーグローバル創成支援の公募について(通知) 4. 群馬大学各学部のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて 5. その他
2	平成 26 年 5 月 12 日	1. 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」への申請について 2. 平成 26 年度スーパーグローバル大学創成支援への申請について 3. その他
3	平成 26 年 5 月 22 日	1. 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」への申請について 2. 平成 26 年度スーパーグローバル大学創成支援への申請について 3. 群馬大学各学部のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて 4. その他
4	平成 26 年 6 月 9 日	1. 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」への申請について 2. 平成 26 年度スーパーグローバル大学創成支援への申請について 3. 群馬大学各学部のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて 4. 平成 27 年度に実施する大学機関別認証評価について 5. 中央図書館ラーニングコモンズにおけるSAの活動について 6. 平成 26 年度国立大学教養教育実施組織会議について 7. 「教務システム 2014」でのシラバスの充実について 8. 文部科学省「学事暦の多様化とギャップチームに関する検討会議」意見のまとめについて 9. その他

5	平成 26 年 7 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 群馬大学のかきゅうまほりし・ていげろほりしについて</li> <li>2. 平成 26 年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」の面接審査について</li> <li>3. 「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」への申請について</li> <li>4. シラバスの充実について</li> <li>5. 教養教育科目試験等における不正防止に関する注意喚起(案)について</li> <li>6. その他</li> </ol>
6	平成 26 年 9 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「平成 26 年度大学教育再生加速プログラム(AP)」の申請結果について</li> <li>2. 「平成 26 年度地(知)の拠点整備事業(COC)」の申請結果について</li> <li>3. 「平成 26 年度 スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」の申請結果について</li> <li>4. 「平成 26 年度高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」の面接審査について</li> <li>5. 「平成 26 年度大学ポートレート」について</li> <li>6. H 27 年度概算要求事項について</li> <li>7. その他</li> </ol>
7	平成 26 年 12 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」審査の際に附された意見について</li> <li>2. スーパーグローバル創成支援事業の不採択を受けた今後の対応について</li> <li>3. 平成 26 年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」の申請結果について</li> <li>4. 大学教育の質保証について</li> <li>5. 大学改革・機能強化への構想調書及び平成 28 年度事業計画書の提出及び設備導入計画(教育用設備, 研究用設備)の作成について</li> <li>6. 平成 27 年度概算要求事項について</li> <li>7. 大学における教育内容等の改革状況等について</li> <li>8. アクティブラーニングの推進について</li> <li>9. クォーター制等の導入について</li> <li>10. 「平成 26 年度大学ポートレート」について</li> <li>11. 保証人への成績送付について</li> <li>12. その他</li> </ol>
8	平成 27 年 2 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 26 年度「地(知)の拠点整備事業」審査の際に附された意見及び平成 26 年度スーパーグローバル大学創成支援の審査結果について</li> <li>2. 平成 27 年度予算(案)について</li> <li>3. 平成 27 年度「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COCプラス)」及び「大学教育再生加速プログラム(AP)」事業説明会について</li> <li>4. 平成 28 年度概算要求及び平成 27～32 年度設備導入計画について</li> <li>5. 第 6 回全学FD連続後援会「大学教育のグランドデザイン」の開催について</li> <li>6. 中央図書館ラーニングコモンズ学習支援状況について</li> <li>7. その他</li> </ol>



【平成 25 年度】（参考）

回数	年 月 日	議 題
1	平成 25 年 5 月 20 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル人材育成について</li> <li>2. 中央図書館ラーニングcommonsとSAについて</li> <li>3. 教養教育の科目集団登録制度について</li> <li>4. 文部科学大臣と大学等関係団体との意見交換について</li> <li>5. 平成 25 年度国立大学法人群馬大学年度計画について</li> <li>6. 教育企画室の今後の課題について</li> <li>7. 今年度の会議開催予定について</li> <li>8. その他</li> </ol>
2	平成 25 年 7 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ナンバリング導入について</li> <li>2. クォーター制導入について</li> <li>3. 中央図書館ラーニングcommonsにおけるSAについて</li> <li>4. 群馬大学学生に対する懲戒等の処分に関する基準(案)について</li> <li>5. グローバル人材に関する特別経費要求(案)について</li> <li>6. 第二期教育振興基本計画に対する本学の取り組みについて</li> <li>7. その他</li> </ol>
3	平成 25 年 9 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科目ナンバリング導入について</li> <li>2. ポートフォリオ入力項目について</li> <li>3. クォーター制導入について</li> <li>4. 群馬大学学生の懲戒等に関する規則(案)について</li> <li>5. グローバル人材に関する特別経費要求について</li> <li>6. 群馬大学の男女共同参画推進基本計画(未定稿)について</li> <li>7. 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について</li> <li>8. その他</li> </ol>
4	平成 25 年 11 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学びのリテラシー(1)」の授業評価結果について</li> <li>2. 平成 25 年度中期計画実施状況調査について</li> <li>3. 学びのリテラシー教材(情報倫理と守秘義務)について</li> <li>4. 「学びのリテラシー1」と「情報」の授業内容について</li> <li>5. クォーター制等の導入について</li> <li>6. 科目ナンバリングの導入について</li> <li>7. 台風等自然災害における休講措置に関する申合せ(案)について</li> <li>8. 群馬大学学生の懲戒等に関する規則(案)について</li> <li>9. 学生調査票の取り扱いについて</li> <li>10. 教育の内部質保証システムについて</li> <li>11. 日本語入門科目の単位認定について</li> <li>12. その他</li> </ol>
5	平成 25 年 12 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「科目ナンバリング」について</li> </ol>
6	平成 26 年 1 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 26 年度文部科学関係予算(案)主要事項について</li> <li>2. COC「地(知)の拠点整備事業」について</li> <li>3. 「大学教育再生加速プログラム」について</li> <li>4. 新入生ガイダンスについて</li> <li>5. シラバスの英文表記について</li> <li>6. その他</li> </ol>

7	平成 26 年 2 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. COC「地(知)の拠点整備事業」について</li> <li>2. 「大学教育再生加速プログラム」について</li> <li>3. スーパーグローバルハイスクールについて</li> <li>4. 群馬県との意見交換会について</li> <li>5. 平成 27 年度概算要求について</li> <li>6. その他</li> </ol>
8	平成 26 年 3 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. COC「地(知)の拠点整備事業」について</li> <li>2. 平成 27 年度概算要求について</li> <li>3. その他</li> </ol>

## 1.2 教養教育部会

### 1.2.1 はじめに

教養教育部会は、教養教育の実施・運営及びその調整など、実務的な役割を担っており、平成 26 年度で発足 4 年目となる組織である。

構成メンバーは 18 名で、その内訳は、部会長（1 号委員）、副部会長、教育基盤センター副センター長(以上 5 号委員)、外国語教育部会長(2 号委員)、科目委員会(学びのリテラシー、総合科目、情報、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学)の各委員長計 6 名（4 号委員）、学生支援センター（就業力育成支援室）、国際教育・研究センター、生体調節研究所から各 1 名（5 号委員）、各学部教務委員（3 号委員、教育学部、社会情報学部及び理工学部は各 1 名、医学部は 2 名）計 5 名である。平成 26 年度の部会員は、各学部教務委員（3 号委員）を除いて、2 年任期の 2 年目となるため、前年度からの継続となった。

### 1.2.2 平成 26 年度活動概要

教養教育部会は、毎月 1 回（原則として第 3 月曜日）に定例部会を開催し、教養教育実施のための諸問題について討議した。平成 26 年度は、4 月に第 1 回の部会を開催し、8 月の休会を除いて、平成 27 年 3 月まで計 11 回の定例会議をもった。

26 年度の重要な課題は、平成 25 年度から導入された新たな教養教育カリキュラムの実施 2 年目に際して、昨年度に引き続いて円滑な運用を目指すことであった。

平成 26 年度教養教育部会の主な通常業務は下記の通りであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確定
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）について承認
- 3) 次年度教養教育科目等の時間割の確定
- 4) 次年度学年暦の作成・承認
- 5) 非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
- 6) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
- 7) 合宿研修費要求に関する審査
- 8) TA の採用に関する審査
- 9) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 10) 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 11) 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 12) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの通常業務に関係した主な項目及びそれ以外の項目について、月別に示すと以下の通りとなる。

- |     |  |
|-----|--|
| 4 月 | 新入生のオリエンテーションの実施   |
| 5 月 | 「ウォークラリー」を実施<br>交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告<br>教養教育関係予算案の承認   |
| 6 月 | 平成 27 年度学年暦案の提示  |
| 7 月 | 文化講演会の開催<br>前期期末試験の実施<br>平成 27 年度学部別担当コマ数に関する基本方針を承認<br>教養教育科目における不正防止に関する注意喚起（案）を承認<br>平成 27 年度学年暦案について継続審議 |

- 9月 平成 27 年度学年暦案を承認
- 10月 平成 27 年度教養教育実施体制案の提示
- 11月 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告  
交換留学生の後期教養教育科目履修届についての報告
- 12月 平成 27 年度教養教育実施体制および開講科目について承認
- 1月 平成 27 年度教養教育科目等，授業時間割の確定  
協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 2月 後期期末試験の実施
- 3月 平成 27 年度新入生オリエンテーション計画の作成  
平成 27 年度 TA の採用計画案について承認

### 1.2.3 平成 26 年度活動内容

通常の活動については例年通りとし，実施に際しては，部会において報告及び審議を行った。このうち特筆すべき事項は以下の通りである。

#### 1) 新・教養教育カリキュラム（2年目）の実施

平成 25 年度からの新たな教養教育カリキュラムは実施 2 年目となり，前年度の状況をふまえて，引き続き円滑な運用ができるように努めた。

#### 2) 新教務システムの導入

今年度から「新教務システム」の運用が開始された。履修に関する手続きが電子化され，業務の効率化が実現した。たとえば，教室の収容人数の都合で受講生数を制限しなければならない授業については，事前に受講可能な人数を設定できるため，教員にとっては受講生選抜に要する時間的ロスがなくなり，すみやかに授業を開始することが可能になった。また，これまで配布されるまでにかかなりの時間を要していた受講生名簿も，事務方の手を煩わせることなく教員サイドで速やかに行うことが可能になるなど，「新教務システム」導入のメリットは大きいといえるであろう。

そのような状況をふまえて，教養教育部会では，各学期の受講開始時に提出を義務づけていた受講生の「聴講届」を，平成 27 年度から廃止することを決定した。それに伴って「教養教育授業案内」冊子の巻末に綴じ込まれていた届出用紙を削除することとした。なお，従来通りに「聴講届」を受講生に提出させる場合には，「出席カード」で代用することとし，その旨を担当教員に周知した。

#### 3) ウォークラリーの実施について

前年度に決定した平成 26 年度学年暦に従って，ウォークラリーを 5 月 14 日(水)に実施し，全学部の 1 年生（1151 名）が参加した。若干の体調不良を訴えた学生がいたが，概ね無事に終了した。ウォークラリー終了後に実施した「日本語検定」（受験者 1133 名）も無事に終了した。

#### 4) ウォークラリーの実施をめぐる問題点

ウォークラリーは旧教養部時代から実施されている，二十数年の歴史を有するキャンパス行事であるが，今年度はウォークラリー実施後の第 3 回の部会において，今後のウォークラリーのあり方について意見交換を行い，以下のような問題点を確認した。

##### ①実施体制の問題

現在，ウォークラリーは，スポーツ・健康委員会委員長をリーダーとして，教育学部保健体育講座の協力を得て実施されている。これは旧教養部時代に保健体育教室が担当していた

ことに由来しており、教育基盤センターとしての実施運営体制は曖昧な状態にあるといえる。それに加えて、世代交代によって教員が入れ替わり、教養部時代からの経緯を知らない教員が増えた現在、教育基盤センターとして実施運営体制が曖昧な状況のままでは、教育学部保健体育講座に協力依頼をしにくいという事情が生じている。

### ②キャンパスクリーン作業としての意味

ウォークラリーはキャンパスクリーン作業も兼ねており、ウォークラリーと同時にコース周辺のゴミ拾い等によって大学周辺の環境美化にも貢献してきた。導入当時は相当量のゴミが集められたが、近年は環境美化が進み、その意義も薄れてきたといえる。継続して実施するのであれば、今後は学内清掃に切り替えるなど検討が必要な時期に至っている。

### ③日程確保の問題

教育の質的保証の観点から、学年暦においては15週の授業期間と1週間の試験期間の確保が必須となり、祝日および振替休日を考慮した補講日や振替日を設定する必要が生じている。かつてはウォークラリーを授業振替として措置してきたこともあったが、現在ではそれは難しく、授業期間内に全学的なレクリエーション行事を実施することはきわめて困難な状況にある。

上記の①～③の問題点をふまえて、第4回の部会における「平成27年度教養教育学年暦(案)」の審議において、平成27年度についてはウォークラリーを休止することを決定した。なお、平成28年度以降のウォークラリーの実施については、改めて検討をすることとした。

また、ウォークラリー終了後に実施していた「日本語検定」については、平成27年度は、4月初めの新入生オリエンテーションの日程に組み込むことで対応することとした。

## 5) 平成26年度文化講演会について

今年度の文化講演会を以下の通り実施した。なお、一般にも公開した。

○開催日時：7月15日(火)16時～17時30分

○会場：荒牧地区 大学会館ミュージズホール

○講師：ブルース・ストロナク氏(テンプル大学ジャパンキャンパス学長)

○演題：「Liberal Arts Education and 人材育成」

参加者は163名で、成功裡に終了した。参加者の内訳は以下の通りであった。

総合科目群「群馬大学・学」受講学生 107名

授業以外の本学学生 27名

教職員 28名

一般参加者 1名

## 6) 平成26年度防災訓練について

10月29日(水)午前10時から、大地震発生と教養教育棟での出火を想定して防災訓練が行われた。1-2時限の授業担当教員の協力により、受講学生を教室からの避難させる訓練を実施した。

## 7) その他

### ①障がい等を有する学生への配慮

「学びのリテラシー(1)」の授業において、発達障がいや鬱病などのために、他の学生とのコミュニケーションが十分にとれない学生がおり、グループワークに参加できないケースがあるとの報告があった。これを承けて授業での対応や成績評価のあり方について意見交換を行った。しかし、当面はクラスの状況に応じて、別途課題を与える、個別に補習を行うなどの意見が出されるにとどまり、具体的な対応策をまとめるには至らなかった。尚、意見交換の過程で、障害学生サポートルームで把握している学生以外にも、メンタルな問題をかか

えた学生は少なからずいることから、そうした学生への対応も喫緊の課題であることが確認された。

②「日本語検定団体特別試験」について

平成24年度より、新入生には日本語検定(3級相当)を団体特別試験として、5月のウォークラリー終了後に実施してきた。その結果については、教育基盤センターに関わる一部の教員に対して報告されてきた。しかし、それをどのように活用すべきかについての具体的な議論はこれまで行われなかった。分野ごとに点数のムラがあり、特に「敬語」の分野は点数が低いという傾向がある。「学びのリテラシー(1)」の目的の一つに日本語表現力を向上させるということがあるが、このことと、日本語検定の活用方法については、今後も引き続き検討していくこととなった。

## 1.3 外国語教育部会

### 1.3.1 はじめに

平成 26 年度、外国語教育部会は、前年度同様、全学の外国語教育の改善に取り組んだ。4 月には全学部で新生を対象に英語プレースメントテストを実施し、その結果にもとづき、英語習熟度別クラス編成を行った。クラス規模については、医学部保健学科に対し 2 クラス増を実施し、昨年度から引き続き、全学部において 1 クラス 40 人以下を実現した。また理工学部の学生には前期・後期終了時期に英語アチーブメントテストを行い、授業効果・学生の英語力向上の度合いを計測した。来年度以降、この制度を全学に拡大することを検討している。

例年同様、TOEIC IP の実施、TOEFL ITP の実施、e-ラーニングの推進も行った。さらに、ドイツ語およびフランス語の技能検定試験ならびに年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。

### 1.3.2 英語習熟度別クラス編成、および英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成 19 年度に行ったアンケート調査によって確認された、教員側のきわめて高い期待と受講生の一定の希望に基づき、平成 20 年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施され始めたもので、最終的には学部・学年を問わず全学のクラスに導入されることが望まれる。

平成 21 年度より、社会情報学部 1 年・2 年、保健学科看護学専攻 1 年（保健 A・B クラス）、工学部応用化学・生物化学科 1 年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成 22 年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、そのため 22 年度末には、社会情報学部および工学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、23 年度の 4 月には両学部の全新生に対して、プレースメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成 25 年には、医学部（医学科・保健学科）の新生に対してもプレースメントテストを実施した。今年度はさらに、教育学部の新生に対してもプレースメントテストを実施し、これにより、1 年次生については 1 クラス 40 名以下の習熟度別クラスを全学部で編成することが可能になった。

プレースメントテスト 平成 26 年 4 月 1 日（火）

14：00～15：30	受験者	医学部医学科	109 名
14：40～16：10	受験者	社会情報学部	106 名
16：30～18：00	受験者	医学部保健学科	162 名
16：30～18：00	受験者	理工学部	555 名
14：40～16：10	受験者	教育学部	224 名

監督：理工学部より 11 名、社会情報学部より 2 名、医学部より 6 名、教育学部より 4 名

### 1.3.3 TOEIC IP

群馬大学では平成 15 年度から TOEIC IP を、「選択英語 AI」「選択英語 AII」と連動させながら継続的に実施しており、外国語教育部会が中心となって、多くの学生の TOEIC 受験を促している。また社会情報学部では 1 年次後期終了時に TOEIC IP テストを全学部生対象に実施し、その結果をもとに 2 年次生の習熟度別クラスを編成している。

実施は年 2 回（7 月／1 月）で、平成 21 年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。平成 26 年度の実施日時、参加者数は以下の通りである。

1 回目：平成 26 年 7 月 9 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 179 名

2回目：平成27年1月21日（水；17:40～20:10）実施：参加者 687名

### 1.3.4 TOEFL ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため、群馬大学では平成20年度から、TOEFL ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と、12月もしくは1月）実施することとした。平成26年度の日程と受験者数は以下の通りであった。

1回目：平成26年7月16日（水；17:40～20:10）実施：参加者 34名

2回目：平成26年12月17日（水；17:40～20:10）実施：参加者 43名

TOEFL ITPは、10名以上が参加しないと実施ができないため、今後も外国語教育委員会が中心となって、広報に努力を払い、各部署の協力を得ながら、参加者の拡充を目ざしていくこととした。

### 1.3.5 e-ラーニングの推進

e-ラーニングを推進するために、平成26年度も前年度に引き続きALC NetAcademy2の説明会（4月16日）を開催した。このe-ラーニングのシステムは、TOEICの得点向上に直結するため、とりわけ就職および進学にTOEICを必要としている理工学部の学生に利用を促す必要があるが、今年度は荒牧キャンパスの参加者130名に対し、桐生キャンパスでは数名しかおらず、来年度は桐生では実施しないこととした。

### 1.3.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では、外国語教育委員会が実施主体となって、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、群馬大学を会場にして、周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成26年度もドイツ語技能検定試験（5級～1級）およびフランス語技能検定試験（5級～1級）を、荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下の通りである。

#### ドイツ語技能検定試験

実施日時：秋季試験：平成26年11月23日（祝）全級（5・4・3・2・準1・1級）

学内外の総受験者数：39名（複数級併願者含む）

群馬大学生受験者数：5名（内数。ただし書類に学校名を記入していない場合はこれにカウントされないため正確な数値ではない）

#### フランス語技能検定試験

実施日時：春季試験：平成26年6月15日（日）5, 4, 3, 準2, 2, 1級

学内外の総申込者数：56名（複数級併願者含む）

実施日時：秋季試験：平成26年11月16日（日）5, 4, 3, 準2, 2, 準1級

学内外の総申込者数：78名（複数級併願者含む）

### 1.3.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

外国語教養科目、とりわけドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきている。さらに、英語の学力自体（ひいては言語能力自体）が低下している昨今の大学生にとって、英語以外の外国語学習は、当該言語のみならず、英語や母語を含んだ総合的な言語能力、コミュニケーション能力の向上に寄与することも期待される。しかし同時に、現在そのほとんどが初級学習であるとは言え、



大学での学びである以上、その学習の達成度が、客観的に測れるシステムがあることが望ましい。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語およびフランス語については、学生たちの学習意欲を向上させるために、またその学習の進捗を図るために、21年度以来実施している共通のアchievementテストを今年度も実施した。(週2回1年間4単位(学習時間年間120時間\*)履修可能な学部学科のうち、週1回分を専任教員が担当するクラスで年度末最終授業時に共通問題で実施(試験時間:ドイツ語45分,フランス語30分\*\*))

#### ドイツ語共通アチーブメントテスト

実施日	平成27年1月27日(火)	教育学部L5・L6クラス	11名受験
実施日	平成27年1月27日(火)	医学部医学科	24名受験
実施日	平成27年1月21日(水)	社会情報学部Aクラス	15名受験
実施日	平成27年2月2日(月)	社会情報学部Bクラス	10名受験

#### フランス語共通アチーブメントテスト

実施日	平成27年2月9日(月)	教育学部L5～L8クラス	46名受験
実施日	平成27年2月3日(火)	医学部医学科	41名受験
実施日	平成27年2月4日(水)	社会情報学部	9名受験

21年度以来今年度に至るまでの実施結果からおおむね以下のことが得られている。

\*4単位(120時間)を履修する学生については、平均得点が全国のドイツ語技能検定3級ないしフランス語技能検定3級合格者の最低得点とほぼ同等である。

\*クラスサイズが30名を超えると得点が下がり始める傾向がある。

また今年度は、全体として昨年度より得点が上昇し、緩やかな下降傾向に歯止めがかかりつつある。クラスサイズは学習時間が短い(履修単位数が少ない)学生に対して、より大きな影響を与えることがうかがえる。

### 1.3.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて

理工学部の場合、入試の二次試験に英語が課されていないことから、英語力の低い学生が多数在籍しているが、一方で理工学部の大学院進学率は高く、その進学にはTOEICの得点が合否判定に利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率ももっとも高い学部・研究科であり、職に就いて後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部は平成22年度に、群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部(現、理工学部)学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果23年度には、教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移し、以来、試行錯誤しながら改善に努めている。24年度は、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。26年度は全19クラスを開講したが、当初の想定よりも学部生数が増大しているため、来年度については20クラスに増設することとした。現行のカリキュラムの要点は下記の通りである。

- 1) 週2回(90分×2回)の英語授業を履修させる。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を取得させる。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4月入学時にプレースメントテストを行い、習熟度別クラスを実現する。
- 5) 7月の前期終了時にアチーブメントテストを行い、学習達成度を計測する。

6) 1月に後期用のアチーブメントテストを行い、学習達成度を計測する。

本学では全学的に、卒業要件となる英語の単位は4単位となっているが、基本的な英語力の低い学生については、一年次に4単位を履修させることが望ましい。そのため、週2回の英語の授業で4単位を取得させるカリキュラムに変更した。また授業形態も、「読解型」と「コミュニケーション型」の2種類とした。

こうした変更の結果は、統一カリキュラム導入後に行われたアチーブメントテストに明確に現れた。また TOEIC の得点にも上昇が見られたことを付言しておく。

### 1.3.9 その他

外国語教育部会は、23年度以来、理工学部（旧、工学部）の英語カリキュラムの変更と1クラスの少人数化に取り組んでいるが、理工学部のみならず、全学部において、1クラスの学生数を30名以下にすることが理想である。そのため25年度には、医学部医学科を1クラス増、教育学部を2クラス増とした。同様の理由で、今年度は医学部保健学科を2クラス増とした。また、今年度は初めて全学の1年次生を対象にプレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を実現した。

## 1.4 教育推進部会

### 1.4.1 はじめに

前年度と同様、ベストティーチャー賞選考、教養教育授業評価および教養教育アンケートを行った。また、前年度教養教育でのベストティーチャー賞受賞者による公開授業を実施した。

### 1.4.2 ベストティーチャー賞

平成 18 年度に創設された「ベストティーチャー賞」を継続実施した。

平成 27 年 6 月 9 日に、各学部等から選出された最優秀賞候補者による公開模擬授業、及び、学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し、最優秀賞・優秀賞受賞者を決定した。最優秀賞受賞者は、理工学部から選出された松本健作助教で、他の受賞候補者は全員が優秀賞を受賞した。今年度も、公開模擬授業を荒牧地区で実施し、桐生地区にも同時中継することで、効果の波及を図った。また、今年度は教養教育科目の「ぐんま未来学」の一貫としても行い、多数の学生が参加した。

昨年度と同様に教養教育から選出された 3 名の受賞者の後期担当授業を、公開授業として指定し、教員、学生に公開した。

### 1.4.3 教養教育授業評価

各授業題目に対する授業評価アンケートを 25 年度から新たに全学として教養教育科目に導入された「学びのリテラシー（1）」および「学びのリテラシー（2）」で実施するとともに、1 年生全員を対象に、教養教育全体に対するアンケートを教務システムを用いて実施した。

授業評価アンケートの「学びのリテラシー（1）」では、報告の仕方（パワーポイントの使い方を含む）やレポートの書き方、引用の仕方等、実践的な部分の評価は昨年度同様に高く、論理的思考力の修得につながっているものと考えられる。一方、クラスでの討論は昨年度よりは改善されてきているものの、教育学部以外ではまだ評価が低く、コミュニケーション力の修得に対する評価にも表れており、今後改善の余地があると考えられる。ただし、全体的には昨年度よりも多くの項目でいずれの学部・学科でも評価が上がっている傾向にあり、今後の改善に期待ができる。今後もより一層、時間外学習も含めて、大学での学習に「学びのリテラシー」で修得すべき内容が必要であると伝えていくことが重要と思われる。

「学びのリテラシー（2）」では、カリキュラム構築に際し、「ゼミナール形式である」（質問 1）、「興味・学力・理解度を配慮する」（質問 2）、「授業の進行をシラバスに反映させる」（質問 3）、「適切な数の人構成」（質問 9）、「適切な教育環境」（質問 10）の観点に配慮した。これらの項目に関するアンケートでは、90%以上の学生が「あてはまる・ややあてはまる」と回答しており、概ね問題なく進行している。次に、「出欠管理・成績評価等の教員の学生への対応」（質問 7）については、95%におよぶ学生が「あてはまる・ややあてはまる」と回答しており、教員による学生への不適切な対応はなかったと判断される。また、科目選択に際しては、定員を超える学生が希望した科目において、選抜の仕方に不満を持った学生からの意見が多く寄せられた。一方、「学びのリテラシー（2）」では講義形式としてアクティブラーニングを取り入れることを重視しているが、「活発な討論」（質問 4）では、全体として「あてはまらない・あまりあてはまらない」と答えた学生は 40%にのぼり、医学科では 50%を超えた。「教員や他の学生とコミュニケーション」（質問 5）では、3 人に 1 人の学生が、コミュニケーションが少なかったと感じていた。

本年度は、初めての試みとして、教養教育アンケートを教務システムを活用して実施した。アンケートの回収率は、教育学部 39%、社会情報学部 69%、医学部医学科 40%、医学部保健学科 50%、理工学部 72%、全体 59%であった。アンケート用紙を用いた「学びのリテラシー（2）」のアンケート回収率が全体で 86%であったのに比べ低い回収率であっ

た。教養教育への満足度は「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」が10.9%であったのに対し、「大変役に立った・少し役に立った」が72.4%であった。科目群別にみると、「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」10.8%、「学びのリテラシー（2）」14.6%、「英語」14.8%、「情報」10.9%、「就業力」14.5%、「人文科学科目群」13.4%、「社会科学科目群」10.6%、「自然科学科目群」8.6%、「健康科学科目群」6.2%、「外国語教養科目群」9.7%、「総合科目群」7.2%、「学部別科目」3.4%であった。一方、「大変役に立った・少し役に立った」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」75.3%、「学びのリテラシー（2）」67.2%、「英語」65.5%、「情報」72.9%、「就業力」66.0%、「人文科学科目群」63.9%、「社会科学科目群」65.0%、「自然科学科目群」57.9%、「健康科学科目群」66.5%、「外国語教養科目群」67.0%、「総合科目群」73.0%、「学部別科目」84.9%であった。全体的に、全ての科目群で3人に2人近くの学生が役に立ったと判断しており、また、役に立たなかったと感じた学生が1割程度であったことから、教養教育科目は概ね問題なく進行していると判断できる。

#### 資料

1. H26 ベストティーチャー最優秀候補者による公開模擬授業次第
2. 公開授業案内
3. H26 前期学びのリテラシー（1）授業評価アンケート集計
4. H26 後期学びのリテラシー（2）授業評価アンケート集計
5. H26 教養教育アンケート集計

## 平成 26 年度群馬大学ベストティーチャー賞

日 時：平成 27 年 6 月 9 日（火）

場 所：大学会館ミューズホール

- (1) 公開模擬授業（16：00～17：35）
- (2) 審査委員会の開催（17：40～18：00）
- (3) ベストティーチャー賞授与式（18：05～18：20）
- (4) 学長・受賞者を囲んでの茶話会（18：30～19：00）

**主 催：教育基盤センター**

## 平成 26 年度ベストティーチャー賞受賞候補者氏名一覧

### 教養教育推薦

理工学府 教授 渡辺 秀 司 (わたなべ しゅうじ)

国際教育・研究センター 講師 ベルジュロン シルバン

教育学部 講師 山崎 法 子 (やまざき のりこ)

### 教育学部推薦

教育学部 講師 山崎 法 子 (やまざき のりこ)

教育学部 准教授 木 山 慶 子 (きやま けいこ)

### 社会情報学部推薦

社会情報学部 准教授 大 野 富 彦 (おおの とみひこ)

### 医学部医学科推薦

医学系研究科 准教授 平 戸 政 史 (ひらと まさぶみ)

### 医学部保健学科推薦

保健学研究科 教 授 三 井 真 一 (みつい しんいち)

### 工学部推薦

理工学府 助 教 松 本 健 作 (まつもと けんさく)

理工学府 教 授 天 野 一 幸 (あまの かずゆき)

理工学府 教 授 中 川 紳 好 (なかがわ のぶよし)

## 平成 26 年度ベストティーチャー賞行事予定

主催：教育基盤センター

1. 日 時：平成 27 年 6 月 9 日（火） 16：00～19：00
2. 場 所：大学会館ミュージズホール 他（荒牧キャンパス）
3. 日 程
  - (1) 公開模擬授業（16：00～17：35）
    - 場所：ミュージズホール
    - 司会：（教育基盤センター教育推進部会長）
    - 1-1 開 会
    - 1-2 挨拶・趣旨説明（教育・企画・国際交流担当理事）
    - 1-3 模擬授業 最優秀候補者 6人
      - 16：05－16：20 渡辺 秀司（理工学府理工学基盤部門教授）
      - 16：20－16：35 山崎 法子（教育学部音楽教育講座講師）
      - 16：35－16：50 大野 富彦（社会情報学部情報社会科学講座准教授）
      - 16：50－17：05 平戸 政史（医学系研究科脳神経外科学分野准教授）
      - 17：05－17：20 三井 真一（保健学研究科リハビリテーション学講座教授）
      - 17：20－17：35 松本 健作（理工学府環境創生部門助教）
    - 1-4 閉 会
  - (2) 審査委員会の開催（17：40～18：00）
    - 場所：大学会館 3 階会議室
    - 議長：平塚浩士学長（審査委員会委員長）
    - 2-1 審議（審査委員会学長・理事・学部長等・機構長）
  - (3) ベストティーチャー賞授与式（18：05～18：20）
    - 場所：ミュージズホール
    - 進行：（教育・企画・国際交流担当理事）
    - 3-1 開 式
    - 3-2 審査結果・学長挨拶
    - 3-3 表彰状・副賞授与
    - 3-4 受賞者代表挨拶
    - 3-5 閉 式
    - 3-6 記念撮影
  - (4) 学長・受賞者を囲んでの茶話会（18：30～19：00）
    - 場所：大学会館 1 階レストラン「あらまき」
    - 進行：（副機構長）
    - 4-1 開 会
    - 4-2 受賞の感想
    - 4-3 懇 談
    - 4-4 閉 会
  - (5) その他  
新採用教員は、FD の一環として公開模擬授業へ参加するものとする。

## ベストティーチャー賞受賞候補者プロフィール

### 渡辺 秀司 (わたなべ しゅうじ) : 理工学府 理工学基盤部門 教授

- 出身 愛知県名古屋市
- 学歴 1988年 名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学  
1989年 理学博士(名古屋大学)
- 職歴 京都大学数理解析研究所, 豊田工業高等専門学校数学教室, 愛知工科大学,  
群馬大学工学部共通講座数学教室, 群馬大学大学院工学研究科数理科学教室,  
群馬大学理工学研究院数理科学教室を経て, 2014年より現職。
- 専門内容 数学解析学  
最近は, 数学解析学的手法による超伝導の研究や, 数学解析学的手法による素  
粒子物理学におけるカイラル対称性の自発的破れやクォークの閉じ込めなどの研  
究に従事。
- 主な著書 Analytic Extension Formulas and their Applications,  
Kluwer Academic Publishers, 2001 (分担執筆) など。
- 主な論文 S. Watanabe, An embedding theorem of Sobolev type for an operator with  
singularity Proc. Amer. Math. Soc. 125 (1997), 839-848 (単名論文),  
S. Watanabe, The solution to the BCS gap equation and the second-order phase  
transition in superconductivity, J. Math. Anal. Appl. 383 (2011),  
353-364 (単名論文) など。

### ベルジュロンシルバン (べるじゅろん しるばん) : 国際教育・研究センター 講師

- 出身 カナダ
- 学歴 ウーロンゴン大学修士課程修了
- 職歴 1993年から日本にて, 高等学校, 専門学校, 大学, また一般市民を対象にした  
英語教室など, あらゆる世代の英語学習者に英語を教えてきた。
- 専門内容 英語教授学
- 主な著書 Lesson design strategy within a team-teaching approach. The School House. The  
Japan Association for  
Language Teaching. Junior and Senior High School Special Interest Group.  
Newsletter. Volume 19, Issue 1, pp. 4-18. (2011)

### 山崎 法子 (やまざき のりこ) : 教育学部 音楽教育講座 講師

- 出身 茨城県
- 学歴 国立音楽大学音楽学部音楽教育科卒業。同大学大学院音楽研究科声楽専攻ドイツ  
歌曲コース修了。ウィーン国立音楽演劇大学歌曲・オラトリオ科, 並びにオペラ  
科修了。  
国立音楽大学大学院博士後期課程声楽研究領域単位取得満期退学。
- 職歴 国立音楽大学音楽研究所バッハ演奏研究プロジェクト声楽部門助手。  
現在, 群馬大学教育学部専任講師  
友愛ドイツ歌曲コンクール, パッサウ市国際声楽コンクール, 日本音楽コンクー



ル歌曲部門各入選。国際ブラームスコンクール第3位。J.S.G. 国際歌曲コンクール第1位。

## **木山 慶子 (きやま けいこ) : 教育学部 保健体育講座 准教授**

出身 愛媛県  
学歴 筑波大学大学院博士課程単位取得退学, 博士 (体育科学)  
職歴 九州共立大学スポーツ学部を経て, 平成 25 年 4 月より現職。  
専門内容 「ダンス」「体育科教育」  
主な論文 「体育教師教育における模擬授業の効果に関する事例研究—二大学で行なう模擬授業の授業評価と授業に対する意識に注目して—」  
(2013, 九州体育スポーツ学研究)  
「バレエ教師 G.V ローシーの業績—帝国劇場での上演作品を通して—」  
(2015, 比較舞踊研究)

## **大野 富彦 (おおの とみひこ) : 社会情報学部 情報社会科学講座 准教授**

出身 東京都  
学歴 中央大学大学院総合政策研究科総合政策専攻博士後期課程修了/博士(総合政策)  
専門内容 経営学, 経営組織論, サービス・マネジメント  
職歴 富士総合研究所, コンサルティング会社経営, 新潟国際情報大学を経て, 2011 年から現職。経営情報学会理事, 国際戦略経営研究会理事  
著書 『「MBA 感覚 (センス)」で行動する技術』(単著, 2004 年, PHP 研究所), 『日中オフショアビジネスの展開』(共著, 2014 年, 同友館) 等。

## **平戸 政史 (ひらと まさふみ) : 医学系研究科 脳神経外科学分野 准教授**

出身 茨城県  
最終学歴 群馬大学医学部医学科  
職歴 昭和 53 年 5 月: 群馬大学医学部附属病院脳神経外科 (研修医)  
昭和 59 年 4 月: 群馬大学医学部附属病院脳神経外科 (助手)  
昭和 60 年 7 月: 国立東信病院 脳神経外科 (医長)  
平成 11 年 6 月: 群馬大学医学部附属病院脳神経外科 (講師)  
平成 15 年 10 月: 群馬大学大学院医学系医学科脳脊髄病態外科学 (准教授)  
専門内容 脳神経外科, 機能脳神経外科  
主な著書 Microrecording and image-guided stereotactic biopsy of deep-seated brain tumors.  
Iijima K, Hirato M, et al. J Neurosurg 2015 DOI: 10.3171/2014.10.JNS 14963.  
Spinal cord stimulation and thalamic surgery for the treatment of central post-stroke pain.  
Hirato, M, Watanabe K, Yoshimoto Y. Pain Res 26: 145-155, 2011.

### **三井 真一 (みつい しんいち) : 保健学研究科 リハビリテーション学講座 教授**

出身 奈良県

最終学歴 平成3年3月 名古屋大学大学院理学研究科単位取得後退学  
博士(理学), 名古屋大学博士(医学), 京都府立医科大学

職歴 平成3年4月 花王(株)基礎科学研究所・研究員  
平成9年7月 京都府立医科大学付属脳・血管系老化研究センター・助手  
平成15年4月 高知医科大学神経生物・解剖学教室・助教授

専門内容 精神疾患および発達障害による社会行動異常の神経生物学的基盤

主な著書 特になし

### **松本 健作 (まつもと けんさく) : 理工学府 環境創生部門 助教**

出身 山口県

学歴 ・平成5年3月 熊本大学工学部土木環境工学科卒業  
・平成7年3月 熊本大学大学院自然科学研究科博士(前期)過程修了  
・平成10年3月 熊本大学大学院自然科学研究科博士(後期)過程単位取得退学  
・平成11年3月 博士(工学)取得(熊本大学)

職歴 ・平成10年4月 群馬大学工学部助手  
・平成19年4月 群馬大学大学院助教

主要な研究内容

・河川堤防の安全性診断, 流動性地下水の動態解明, 水-土境界領域現象の解明

著書 ・全世界の河川, 丸善, 2013.  
・NHK すイエんサー思考を鍛えるドリル, pp.120-137, 講談社, 2012.  
・川の技術のフロント, 技報堂出版, pp.24-25, 2007

### **天野 一幸 (あまの かずゆき) : 理工学府 電子情報部門 教授**

出身 北海道函館市

学歴 平成8年 東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。博士(情報科学)。

職歴 平成8年 東北大学大学院助手, 平成18年群馬大学工学部助教授を経て  
平成24年より現職。

専門内容 理論計算機科学。特に, 計算困難問題に対する計算量の評価手法の開発, および,  
実験的手法に基づく離散数学的性質の発見等に興味を持つ。

### **中川 紳好 (なかがわ のぶよし) : 理工学府 環境創生部門 教授**

出身 山形県

最終学歴 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程単位取得退学

職歴 平成元年7月 東京工業大学資源化学日研究所助手  
平成2年7月 群馬大学工学部 助手  
講師, 助教授, 平成17年同教授を経て平成25年より現職

専門内容 化学工学, エネルギー変換工学, 燃料電池開発

主な著書 骨太のエネルギーロードマップ2 (2010年, 化学工業社),

電池部材の高性能化と信頼性の向上（2007年，技術情報協会），  
多孔質体の精密制御と機能・物性評価（2008年，サイエンス・テクノロジー社）  
など

## 授業・教育方法の紹介

1. 受賞授業名
2. 授業の概要
3. 授業で特に工夫をしている点
4. 授業で学生に接する場合に留意している点
5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

### —教養教育推薦—

渡辺 秀司 (わたなべ しゅうじ) : 理工学府 理工学基盤部門 教授

#### 1. 受賞授業名

前期: 「数学入門」, 「微分積分学 I」, 「線形代数学 I」

後期: 「微分積分学 II」(2コマ), 「フーリエ解析入門」

#### 2. 授業の概要

「数学入門」では、高校における数学 I, II, III の内容 (2 次関数, 三角関数, 指数と指数関数, 対数と対数関数, 微分法, 積分法) について, 豊富な演習を行いながら授業を進めた。「線形代数学 I」では、高校の数学 B や C におけるベクトルや行列の基礎から授業を始めて, 行列式とその性質, 連立 1 次方程式への応用などについての講義と演習とを行った。「微分積分学 I」や「微分積分学 II」では、1 変数関数の微分法とその応用, 定積分や不定積分, 広義積分, 簡単な常微分方程式への積分法の応用などについての講義と演習とを行った。「フーリエ解析入門」では、まず、角度の単位としてラジアンを用いる弧度法と三角関数との復習を行い, 次にフーリエ級数やフーリエ変換の基本的な考え方といくつかの具体的な関数に対するそれらの求め方・計算法について演習を実施した。波動方程式についての初期・境界値問題へフーリエ解析を応用してその解を求めるところまで, 学生を引き上げた。

#### 3. 授業で特に工夫をしている点

- ① 「明快で, わかりやすい授業」と「丁寧な授業」を心掛けている。理工学の基礎は自然科学であり, 自然科学の基礎は数学。したがって, 数学の授業では数学力を是が非でも身に付けてもらう必要がある。そのため, 演習を多く取り入れた授業になるよう配慮している。
- ② 講義ノートの完成などの授業準備を授業当該日以前に行うことは当然。授業当該日には出勤したらまずは, その日の授業の段取り—その日の授業内容は何か, 定理の正当性を確認する例としてどれを採用するか, 演習問題としてどれをどの順番で解答するか, など—を詳細に決める。
- ③ 授業開始時間以前には教室に現れて, 黒板消しで黒板を綺麗にする。そうすれば, 授業が時刻通りに開始されることを望む学生さんが納得する。また, 綺麗な黒板を見ると, 学生さんも教員も気持ちがよい。
- ④ その日の重要事項を述べることから授業を始める。
- ⑤ 板書は丁寧に。黄色や赤色などのチョーク (可能ならば, 蛍光チョーク) の使用。その日の重要事項は口頭で説明するだけでなく, 必ず丁寧に板書する。
- ⑥ 数学記号には, 簡単な説明を付ける。例えば, 和の記号  $\Sigma$  は最初から書かない。
- ⑦ 主に板書により授業を進めているが, パソコンを使用して関数のグラフやフーリエ級

数のグラフなどを描くことにより、視覚によっても理解を助けている。

- ⑧ 例題を解いて解説することにより、定理の理解を助ける。その後、必ず演習問題の実施。
- ⑨ 可能な限り、授業は終了時刻まで継続。ただし、時間オーバーは避ける。その日の重要事項を復習した後に授業の終了。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

- ① 丁寧に、そして親切に質問に答える。
- ② 理工学部には多数の留学生が在籍しているので、板書の際には、漢字、ひらがな、英語によって数学用語を表記している。例えば、行列、ぎょうれつ、matrix。
- ③ 自らの研究成果の中で、大学初年時の数学教育でも有効なものを授業の題材にする。これにより、数学の授業をイキイキとしたものにならしめる。例えば、「微分積分学 I」で扱われる陰関数の具体例として、超伝導における BCS ギャップ方程式を扱ったら、好評であった。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生の皆さんに感謝。学生さんには今も昔も「明快で、わかりやすい授業」、「丁寧な授業」、などとよく評される。前任校でも同じであった。数学の国際会議にて行った英語による私の講演も同様に、「Nice presentation!」、「明快で、わかりやすい」と国内外の数学者に度々評されている。

## ベルジュロン シルバン (べるじゅろん しるばん) : 国際教育・研究センター 講師

### 1. 受賞授業名

「英語 I, 総合英語 I, Listening AI / AII, Reading BI/BII, 選択英語 E」

### 2. 授業の概要

Listening では、リスニング力養成を主に、リスニング・スキル、発音、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題に関するメッセージやアナウンスメントを理解できるようにしている。また、ミニ・プロジェクトを通して、身近な事柄、文化、社会について考え、英語で伝えられることを目指している。Reading では、リーディング力育成を主に、速読、リーディング・スキル、語彙とフレーズ、文法等の学習を通して、身近な話題について書かれたテキストを理解できるようにしている。また、「多読 (Extensive Reading) プロジェクト」を通して、読書を楽しみながら、読解力の向上を図っている。どちらの授業においても、総合的な英語の運用能力向上を図るために、Listening, Reading のみならず、Speaking, Writing もバランスよく取り入れながら授業を組み立て、最終的には、人間や社会について考え、英語で伝えられることを目指している。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

ペア学習や小グループ学習による学習者中心の授業を行うことで学生のやる気を引き出すようにしている。学習内容についても、様々な課題を用意し、学生が飽きずに取り組みると同時に難易度の高い課題を通して達成感が得られるように工夫している。また、学生の取り組みを授業時間内に評価し、フィードバックすることで学生のモチベーションが保たれるようにしている。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

一斉授業ではあるが、学生一人一人に話しかけ、個々の学習のニーズにできるだけ応え

られるように配慮している。また、学生間のコミュニケーションが活発になるように、ネームカードを各自、机に置かせて互いに名前呼び合えるようにしている。ペア学習やグループ学習では、学生同士の学び合いを大切に、学生の学びが自立的になるよう支援している。

## 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

私がこの賞を受賞したということは、授業を受けていた学生がよく学び努力した結果が学生自身の満足度の高さとして表れているのではないかと思う。

私が心がけていたのは、どの授業においても言葉や行動を通して学生に敬意を表し、授業でも授業以外の場でも常に学生の成功を願っていることが学生に伝わったからではないかと思う。

### —教育学部推薦—

## 山崎 法子 (やまざき のりこ) : 教育学部 音楽教育講座 講師

### 1. 受賞授業名

学 部：声楽演習，声楽講義，合唱，初等科音楽（三），卒業研究  
教養教育：ドイツ歌曲概説  
大学院：音楽科内容研究B（声楽）

### 2. 授業の概要

声楽演習 発声・発音の技術の習得の他、楽曲を読み込み、感動を生む演奏方法を迫及する。  
声楽講義 声楽の歴史的背景をたどる他、演奏における心構えや舞台マナーなども習得する。  
合 唱 多言語による合唱曲を扱う。一人ひとりの役割がハーモニー全体の響きにどう作用するのか理解しながら演奏する。  
初等科音楽 音楽の三要素であるリズム・メロディ・ハーモニーを中心に、音楽の基礎知識を学ぶ。ヴォイスリズムやボディパーカッションなどの実演も含み、いかに子どもと楽しく音楽活動ができるか迫及する。

音楽科内容研究B（声楽）

任意の声楽曲の内容（テキストや音楽構造）の理解を深め、その内容を実演につなげる方法を養う。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

専門的なことを難しく話すのではなく、現場の子どもたちにも理解できるような優しい解説と表現を心掛けている。

実技面では、①年齢や体格に合わせ指導法を見極める。②声は特に体調や心の状態に左右されやすいため、いつもリラックスできる環境をつくる。③表現することは照れが付きものであるため、自らが大胆に表現し、学生からも引き出せるようにする。⑤学生の演奏解釈向上を促すため、毎回、詩の意味や、お気に入りのメロディを確認する。実技に関しては特に、現場でそのまま使うことが可能な方法を提示している。

講義では、①配布資料を充実させる。②鑑賞材料を充実させる。③①②に沿っただけの授業ではなく、補足的な説明もいれながら解説する。④楽譜は手稿譜ファクシミリ（コピー）なども使い、作曲家を身近に感じてもらう。⑤わからないところがないように、毎回、復

習の時間を設ける（特に初等科音楽）。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

明るく、気さくに、楽しく（時々厳しく）音楽への真摯な姿勢を学生とともに学びたいし、音楽へのスタンスは教員も学生も同等でありたいという考えで接している。その中で音楽への楽しみ方、専門的な知識に気づいてもらえるような発言や態度をとる。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生とともに頑張ってきたことによる。

### 木山 慶子（きやま けいこ）：教育学部 保健体育講座 准教授

#### 1. 受賞授業名

体育科指導法，保健体育科指導法Ⅱ，ダンス実習

#### 2. 授業の概要

「体育科指導法」：

小学校体育科の目標，内容，指導，評価に関する概説，及び指導法についての実習を行なう。

「中学校保健体育科指導法Ⅱ」：

中学校保健体育科体育分野の目標及び学習内容に応じた授業づくり，学習指導，評価について文字授業の実践を通して理論的・実践的に理解を深め，教科指導力を育成する。

「ダンス実習」：

ダンスの特性，基礎的基本的技能について学ぶとともに，中学校を中心とする指導法について講義，実技をまじえ習得する。

#### 3. 授業で特に工夫をしている点

「ダンス実習」においては，ダンス実技およびダンスの指導法について，まずは，学習者として学生自身がダンスの楽しさを体感できるよう，多様な教材を用い全身を使って踊ることの心地よさを獲得させ，さらにそれをどのように子どもたちに伝えていくかを具体的な場面を想定しながら学ばせている。

「保健体育科指導法Ⅱ」では，実践的な指導力を身につけるために，模擬授業を中心に，学習指導案作成から模擬授業実施，さらに授業評価を行ない，授業改善のプロセスを習得させている。

「体育科指導法」では，体育を専門としない学生も受講していることから，常に体育授業をイメージできるように，講義の時間では映像を活用したり，実際の現職教員を講師として話を聞いたり，実技の時間では，実際の体育授業で活用できる教材を紹介し，グループ活動を1取り入れるなどの多様な学習形態を用い授業を進めている。

これらの授業について，理論と実践の双方向の学びを念頭に，体育の授業づくりの基礎的知識・技能の習得と，それらを具体的な指導の場面に生かすことができるよう学習方法を工夫しながら授業を実践している。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生の理解や習得の様子を観察し，その状況を把握しながら，授業を進めていく。教員からの一方向の教授にならないよう，学生の意見を引き出しながらフィードバックし双方向での展開をめざしている。学生が，自身の意見や意思を表現しやすいような雰囲気づく

りにつとめている。

## 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

学生が主体となり、体験的な学びの場を導入していること。

### —社会情報学部推薦—

**大野 富彦 (おおの とみひこ) : 社会情報学部 情報社会科学講座 准教授**

#### 1. 受賞授業名

経営学Ⅰ（1年次後期）、経営学Ⅱ（2年次前期）、経営組織論（2年次後期）、  
マネジメント演習（3・4年次前期）、専門外国語Ⅱ（2年次後期）

#### 2. 授業の概要

（以下、シラパスから抜粋等して記述）

- ・経営学Ⅰ：経営学を戦略と組織の観点から捉えつつ、できる限り体系的に扱っていく。企業経営をイメージすることから始め、そして、戦略（全社レベルの戦略、事業レベルの戦略）、組織（マクロ組織論、ミクロ組織論）、組織間関係の順序で経営学を説明していく。授業の後半では、受講者の今後のキャリアを意識した内容も扱う。
- ・経営学Ⅱ：経営学Ⅰの応用としてケース・メソッドを行なう。ケース・メソッドとは、ケースをもとにして受講者が相互に（時には、受講者と教員間で）討議することで学んでいく方法である。「あなたはこの経営のやり方をどのように評価するか？なぜ、そのように考えるのか？」といったやり取りを通じて、企業を見る眼を養うことを目的とする。ケースでは、唯一の正解があるわけではない。正解を追い求めることよりも、自分なりの考えを持つプロセスに、より価値があると考えてほしい。授業の具体的な進め方は、ケース・メソッドを2コマワンセットで行なっていく。前半にケースに関して討議し、後半はケースを補足するために、戦略論、組織論、マーケティング等の諸理論を解説する。
- ・経営組織論：組織とは何か、企業が価値を創造するとはどういうことかを検討していく。そのために、経営組織にかかわる理論（知識創造理論、場のマネジメントなど）を説明し、それに演習を取り入れて、経営組織のあり方について理解を深めていく。
- ・マネジメント演習：本授業は、グループ形式で演習を行っていく。内容は大きく2つの部分に分かれる。前半は、ロジカルシンキングやピラミッド構造等の手法を、演習を通じて学んでいく。後半は、企業活動や製品・サービスに関する問題等を見つけ、それに対する解決策を作成し、発表してもらう。

#### 3. 授業で特に工夫をしている点

(1) 実務経験のない学生が経営（学）をイメージできるようになること、(2) 学生が経営理論を自分なりに解釈・応用し、世の中の出来事（企業経営）に対して自分の考えを持てるようになることの2つを心がけて授業を行っている。

そのため、授業は以下のように組み立てている（経営学Ⅰと経営学Ⅱを例にして説明）。

経営学Ⅰは経営学全般を扱うことから経営の主要理論の修得が必須となるが、学生になじみのある事例を用いて説明をし、必要に応じて学生に質問を投げかけている。たとえば、新聞記事に「あるコンビニの取り組みが掲載されていたが、これを『差別化戦略』の観点からするとどのように思うか」というように授業を行っている。経営学Ⅱは経営学Ⅰの応用でケース・メソッドの手法を取り入れている。これは受講者参加型の授業で、事前にケースを配布等して読んでくることを予習とし、ディスカッション形式で進めていくものであ



る。論文、新聞、雑誌記事、DVD教材等も活用して授業を行っている。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生とのその「場」の雰囲気を感じて、（授業クラスという）組織をマネジメントするようにしている。出席学生は、授業に対するニーズや期待の程度等、様々な面で異なる。そうした個々の学生に、授業の目的・内容・意図を理解し、授業内容を卒業論文や実社会で応用して欲しいという勝手な思いがこちら側にはある。（どこまで実現できるかという課題はあるが）個々の学生が授業内容を理解できているか、進んで質問や意見を言えているかといったことに留意し接している。ただし、接し方が学生によって違ってくると問題であるので、その「場」の雰囲気づくり—学生が主体的に学ぼうと思えるような環境づくり—を特に意識し心がけている。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

4. で述べたように、学生が理解し易く、そして、身に付く授業を心がけている。そうした教員の取り組み姿勢が伝わったのかもしれない。また、受講者参加型の授業を取り入れていることも理由なのかもしれない。学生からは「理論（抽象）と経営実務（具体）がどのようにつながっているか理解できた」、「アルバイトで不思議であったり悩んだりしていたことが、今日学んだモチベーション理論で理解できすっきりした」等の意見・感想をもらうことがある。

### —医学部医学科推薦—

## 平戸 政史（ひらと まさぶみ）：医学系研究科 脳神経外科学分野 准教授

### 1. 受賞授業名

4年生 系統講義 Block 4

### 2. 授業の概要

4年生系統講義 Block 4では、頭部外傷、および機能脳神経外科学を担当している。

頭部外傷講義は総論と各論に分け行っている。総論では頭部外傷の分類、重症頭部外傷患者の診察・評価、頭部外傷の病態、頭部外傷の治療、頭部外傷の予後因子について講義している。一方、各論では、頭蓋骨損傷、外傷性頭蓋内血腫、瀰漫性（びまん性）軸索損傷および局所性脳損傷、頭部外傷の合併症・後遺症、手術が必要な頭部外傷と手術法について講義をしている。

機能脳外科講義は総論、および各論に分け行っている。総論では機能脳外科の内容、歴史について、各論では運動異常症、難治性疼痛について講義をしている。運動異常症では運動異常症の治療、パーキンソン病の外科手術（視床手術、視床下核手術等）、又、ジストニアに対する淡蒼球手術について講義をしている。難治性疼痛については中枢性疼痛、求心路遮断性疼痛を中心に、現在頻用されている中枢神経各構造への刺激術（脊髄、視床、大脳皮質運動野）について講義をしている。

三叉神経痛に対する外科的治療については、微小血管減圧術、ガンマナイフ治療について、又、発症原理が同様である半側顔面痙攣について講義をしている。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

授業中学生になるべく質問し、内容を考えてもらう参加型授業を心がけている。

臨床医学の授業であり、動画を用い実際の手術の内容等を解説している。

スライドは文字を少なくし、図を多くして視覚的に内容が理解しやすいようにしている。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

患者さんの画像等が使われるため、個人のプライバシー保護に十分注意するよう話している。

授業はただ聞いているだけではなく、頭の中で考える習慣をつけることが重要であることを強調している。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

教室全体で一緒に考えるような質問をして、皆で考える時間をつくるようにしている。

臨床医学授業であり、実際の自分の臨床体験を踏まえ、患者さんに接した時にどのように考え、どのように注意したらよいかなど実践的な講義をしている。

動画等を用い、視覚的な記憶に残るように工夫している。

### —医学部保健学科推薦—

## 三井 真一（みつい しんいち）：保健学研究科 リハビリテーション学講座 教授

### 1. 受賞授業名

解剖学Ⅰ・Ⅱ，解剖学実習，生体構造学実習，人体構造・機能学，人体構造機能学実習

### 2. 授業の概要

講義（解剖学Ⅰ・Ⅱ，人体構造・機能学）

パワーポイントを用いて人体の構造について解説を行っています。写真，図譜とともにビデオ等も活用しています。おおよその解説が終わった後，プリントの空欄に記入させますが，その際に重要度について明示するようにしています（必ず覚える，4年間で覚えれば良い，など）。期末試験の前に提示した候補問題を20～30問のうち6～7問を出題し，期末試験の成績により評価を行っています。

実習（解剖学実習，生体構造学実習，人体構造機能学実習）

学生が自ら考えたり感じたりできるように注意しています。授業のはじめにポイントとなる部分について，前期に行った講義の内容を復習しながら解説を行います。この際には成書からの写真だけではなく，実際に観察する標本によって説明を行うことで学生の理解が早まるように心がけています。その後，学生に標本・模型を観察させてスケッチやプリント等の課題を行わせます。不明な点などは随時教員に尋ねるように指導すると共に，時々進行状況について教員から介入を行っています。実習ですが，いずれの科目でも期末試験を課し，実習課題・小テストなどの評価と共に最終的な評価を行っています。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

- ・無意識のうちに雰囲気の良い（軽く？）するようなこと（板書，余談，言葉使いなど）を行っているかもしれません。
- ・学生の立場で考えて良さそうなことは，できることは何でもやってみることにしています。
- ・実習では授業時間を超えても可能な限り学生が納得して終わるまで教室に残るようにしています。

その際には早く終わるようなプレッシャーを与えないように注意しています。また，日時間外に実習をしたいと申し出た学生にはできるだけ対応しています。

- ・学生の要望や考えを知るために無記名で授業アンケートを実施し，可能な限り答えるようにしています。

- ・授業アンケートから予習・復習を行う学生が少ないことから、ある実習では予習プリント、復習プリントを作製して毎週課すことにしました。
- ・授業では学生にポイントを明示しています；このページは丸暗記、など
- ・穴埋め式のプリントで話を聞く時間と記載する時間に分けた授業構成を心がけています。
- ・自己学習の手助けとなるようにプリントには対応する教科書のページを記入しています。
- ・試験候補問題のリストを試験の2週間ほど前に渡しています。
- ・学生には単位取得のためでなく、臨床の現場で使用できるように知識を身につけるように注意しています。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

- ・授業にかかわらず、学生を否定的に捉えないように注意しています。そのため、まず学生の言葉にまず耳を傾けることは心がけています。
- ・学生は様々な不安を抱えているようなので、自信を持てるように時には声を掛けるようにしています。
- ・数名の学生と比較的気軽に話ができるような関係になっておくと、場を和ましたり、注意を促したりする際に有用に思っています。
- ・授業内容に直接関連がなくても、必要だと思えばできるだけ情報提供を行うようにしています。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

独自にとったアンケートから、プリントの要点がまとまっていることや説明がわかりやすいと学生から評価されているようです。ただ、数人の学生にベストティーチャーを選ぶ基準を訊いたところ「何となく」「先生の雰囲気じゃないですか」「フィーリング」「授業中眠くないこと」とのことでした。

今回、自らを省みると、授業の準備や授業そのものを私自身が楽しみながら行うことで学生に緊張感を与えることなく安心して授業を受けていることも要因の一つだと考えています。

### —理工学部推薦—

**松本 健作 (まつもと けんさく) : 理工学府 環境創生部門 助教**

#### 1. 受賞授業名

水文学，水理学演習，水理実験ⅠおよびⅡ，防災工学，基礎力学

#### 2. 授業の概要

土木工学における，水に関する学問を担当させて戴いております。

土木工学における水の基幹講義としては①水文学（すいもん）学，および②水理学があり，私は水文学の講義5回，水理学演習全15回および関連する水理実験等を担当させて戴いております。

水文（すいもん）学は，降水（雨・雪）が地下浸透，あるいは河川水となって海洋に注ぎ，蒸発により大気中の水蒸気となって再び雨・雪として降るといふ，水の大循環をストーリーとして読み解く学問です。まさに水【文学】という名称通りです。

一方の水理学は，よりミクロな水の挙動，その物理的な理を解明する学問です。多くの数式を駆使し，水の挙動を論理的に解明していく水の【理学】です。

学生は、これらの講義によって、水をグローバルに捉え且つミクロに理解することができるようになります。

ゲリラ豪雨、洪水、津波、水不足、地下水汚染から地球温暖化まで、この両学問体系から派生する学問は多種多様であり、構造力学、土質力学と共に、土木工学における基幹3講義のうちのひとつとなっております。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

新しい概念や法則などを、「それを理解するとどのように便利であるのか」、「それを、用いると何を理解するうえで有効であるのか」といった用途や既往概念との関連性を意識して理解させるよう説明を工夫しています。

水理学はとかく数式が先行しがちな学問であるため、数式の具体的な説明をする前に、実現象を十分理解させ、数式を見ると水の動きがイメージできるようなところまで説明を加えます。

その意味で水文学、水理学演習と共に、水理実験（社会基盤工学実験ⅠおよびⅡ）の重要性を感じており、実験によって実際に水の挙動を見せながら数式を理解させ、数式は水の挙動を理解するうえで「なるほど便利だ」と学生自身に体感してもらうことで理解が深まる傾向が確認できており、これを重要視しています。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生の集中力を持続させることを常に意識して講義を行っております。ランダムに指名する、前に出てこさせて板書させる、ノートをとらなくて良い（別途資料配布等で情報提供する等の措置をして）から注目して説明を聞くよう指示し、重要であるので注意してノートするよう指示する、といったことを講義中に伝え、学生がこちらのメッセージを聞き漏らさないように集中している状況を作り出すことに、特に留意しています。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

まず、自身の講義技術が突出しているとは認識しておりません。

私自身は学生であったころ、どちらかという理解に時間がかかった方でした。何が判らなかったのか延々と疑問を持ち続け、未だに氷解していない疑問もあります。今回のベストティーチャー賞の受賞は身に余る光栄であり、思い当たる受賞理由も特にありませんが、かつての私自身が、講義が直ぐ理解できない学生であり、延々とその疑問を持ち続けていたことが、ひとつの要因となっているかもしれません。

一方で、「講義を担当させて戴くことが楽しい」、「学生に伝えることができる場を与えていただいていることが嬉しい」という実感があります。

「教学相長」を常に実感しており、この学生との触れ合いが、自身の講義能力を長じさせているのかもしれません。

## 天野 一幸（あまの かずゆき）：理工学府 電子情報部門 教授

### 1. 受賞授業名

主な担当科目は「離散数学Ⅱ（2年後期）」、「計算機システムⅠ，Ⅱ（3年前後期）」、「計算量特論（博士課程前期）」など。

### 2. 授業の概要

学科の要請により、性格が大きく異なるいくつかの授業を担当している。2年次学生に対して行っている「離散数学Ⅱ」では、計算機の動作や設計のベースとなる離散的数理構

造に関する理論的内容の授業を行っている。特に、様々な数学的問題の抽象的理解に役立つ、グラフ構造に関する基礎的な概念の習得などを目指している。また、3年次学生に対して行っている「計算機システムⅠ、Ⅱ」においては、実際の計算機アーキテクチャや計算機の効率的利用に必要な事柄等に関する実践的内容の授業を行っている。例えば、計算機に対する深い理解を得るために必要な、アセンブリ言語の動作原理やその設計方法について、実機でのデモ等も交えながら具体的イメージを会得してもらうことを目指している。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

大学での学びは自由であるべきとの信念に立ち、学生の自由な発想が促されるような空間の提供を心がけている。また、まだ誰も答えを知らない問題に対して自身の全力をもって挑む、研究の楽しさが少しでも伝えられるよう心を配っている。教科書に載っているような、今となっては至極シンプルな知識も、例えば半世紀前には未知のことで、それを発見するに至った研究者達の感動の歴史があるはずである。その場に居合わせたとしたら感じられたであろうエキサイティングな気持ちを可能な限り追体験させてあげられるような授業ができれば、と願いながら授業をしている。例えば、理論的内容を扱う「離散数学Ⅱ」においては、一つ一つの内容は一見ドライな数式であることが多い。しかし、そこに込められたいろいろな意味や、その短い事実へと至った長い道のりや、そこから導かれる様々なことから、できるだけ学生が発想できる余裕や手掛かりを与えながら一緒に考えることで、生きた授業が創り上げられるよう工夫している。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

Mooc (Massive Online Open Course) 等のしくみによって、世界中の優れた講義がインターネットを通じて無償で手に入る時代にあっては、大学の授業の存在意義は、学生との双方向性にあると信じている。例えば数十人が同時に受ける通常の授業であっても、できるだけ学生個々が自分のレベルに合った目標を設定できるよう留意している。大学教員として目標としていることのの一つは、学生個々が到達出来るできるだけ高いレベルへと届くようその手助けをすることである。もちろん、単独で行う授業で、実際に数十人の学生全てに同時に個別の指導をすることは不可能である。しかし、例えば、授業中教室を巡回し学生個々のレベルを察知しそれに応じた助言を与えることによって、あるいは、いくつかのレベルの練習問題を同時に提示し、個々のレベルに合ったものを重点的に考えてもらうことや、学生同士が教え教えあう状態を作ることなどで、そのいくらかは実現できるのではないかと考えている。教室にいる学生達が一端自発的に考え出した状態になってしまえば、その瞬間には教員はもはやほとんど不要であるとさえ思っていて、そのような雰囲気は上手に創り出せるよう心がけている。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

至極単純ではあるが、せめて大学生でいる間は学生達に学ぶことを楽しんで欲しいというのが一番の願いである。学生が楽しく学ぶ環境を提供するには、何よりも教える側である自分達が楽しむことが大切だとも考えている。昨今の大学をとりまく環境はそのような遊び心を許さない方向へと向かっているようにも見えるが、であるならばなおさら自由な学びの場を提供したいという思いを強くしている。思い返すと、各学年数名という非常に小規模な小学校に通っていた頃に当時の「先生」達から受けた、超小規模校ゆえに可能であったろう教育スタイルが、いま自分が学生に接する際のスタイルに強く影響している。もちろんベストなものが提供できているとは言い難く、学生に教えられることも多いのだけれど、学び考えることの楽しさが少しでも伝わっているとして、それが評価されているのだとすれば非常に嬉しいことである、と強く思う。

## 中川 紳好 (なかがわ のぶよし) : 理工学府 環境創生部門 教授

### 1. 受賞授業名

プロセス工学基礎, 環境プロセス工学演習 I, 数値計算法, 卒業研究

### 2. 授業の概要

2年生を対象とした「プロセス工学基礎」, 「環境プロセス工学演習 I」, 3年生を対象とした「数値計算法」を担当しています。何れの授業も必修であり, 受講者数は50名程度です。

「プロセス工学基礎」では化学工学の学問体系の基礎として重要な内容として, 物質収支・エネルギー収支に基づく化学プロセスの解析手法, 実在気体や蒸気の物性推算や計算上の工学的な扱いについて解説しています。また, この内容の演習問題の解説を「環境プロセス工学演習 I」で行っています。講義1時間に加えて演習1時間が用意されており, 専門基礎として比較的重要な科目に位置づけられています。

3年生の「数値計算法」では, 非線形方程式の解法や数値積分, 微分方程式の数値解法について解説しています。これにはこの講義の他に演習や実習の時間は特に設けられていません。演習課題を出し, 自分で実習することを求めています。授業内容は数値計算法を理解し, 実際に用いることができるようになることです。この授業ではテストによる評価はあまり適当ではないと考えており, 授業ごとの演習に加え, 授業内容を使った総合問題的な課題を出し, 回答をレポートとして提出させて評価しています。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

講義の授業では, ほぼ毎回, 授業内容の演習問題を課し, 次回に回収し, 評価しています。テキストの章末問題に加え, 独自に作った演習問題のプリントも用意しています。回答に際しては, 単に数式の羅列にならず, 計算の前提, 仮定, 解の導き方などについて文章で説明を加えるように求めています。最近, 文章で説明することが不得手な学生が多くなってきていると感じています。自分の考えを相手に伝えるために重要であると同時に, 自らの論理的思考力を養い, ミスをしない為にも重要と思っています。

テスト問題や「数値計算法」の総合課題では, なるべく身近な問題, 興味を引く話題を含めた問題の作成を心がけています。学習内容と実際問題との繋がりを意識できるようにと考えています。

所属する学科では, 以前 JABEE 認定プログラムを作ったときの教育改善システムが残っており, 「学生による授業アンケート」と「授業改善計画書」の提出を行っていました。アンケートで学生の声を聞き, 改善計画書で改善策を提案するものですが, これによって自分が注意すべき点がある程度意識して行っていました。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

講義では, なるべく学生を指して問いかけるようにしています。学生の理解度をチェックする意味もありますが, 一方的な授業にならないようにしたいと考えています。また学生にはある程度緊張感をもって授業に望んで欲しいことも理由のひとつです。私語については厳しく注意し, 授業に参加する態度を要求しています。

成績の評価基準と評価プロセスが明瞭である必要があると考えています。シラバスや授業説明で事前に評価基準を示していますが, 授業の中でも時折確認しています。また, 最終評価の前に, 中間試験の結果と演習課題の集計点等を学生に開示しており, 不明瞭な点がないようにしています。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

正直に言って受賞理由として思い当たる点はありません。ほぼ毎回演習課題を出していることで、理解が深まっていると感じている学生がある程度多くいたか、あるいは前述の留意点を評価した学生が比較的多くいたのかもしれないと考えています。

## 平成 26 年度教養教育ベストティーチャーによる公開授業開催について

平成 26 年度教養教育ベストティーチャー優秀賞を受賞された先生方の公開授業を下記のとおり実施します。

各学部・研究科の教職員・学生の皆さんの参加を歓迎します。

### 記

教員名	授業題目	日時	教室
渡辺 秀司 (理工学府部・教授)	フーリエ解析入門 微分積分学II	10月 1 日(木)3・4 限	教育学部棟 C204
		10月 2 日(金)5・6 限	教養教育棟GA302
ベルジュロン シルバン (国際教育・研究センター・講師)	英語1年 英語BII	10月 26 日(月)3・4 限	教養教育棟GB154
		10月 29 日(木)1・2 限	教養教育棟GA203

※ 教室の入口に受付を用意しますので、受付名簿に記載の上、入室してください。

主催：教育基盤センター



## 平成26年度前期授業評価（学びのリテラシー）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教 育 学 部	227	189	83.3
社 会 情 報 学 部	108	102	94.4
医 学 部 医 学 科	110	109	99.1
医 学 部 保 健 学 科	163	159	97.5
理 工 学 部	554	508	91.7
合 計	1,162	1,067	91.8

質問1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	94	49.7	84	44.4	9	4.8	2	1.1	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	25	24.5	66	64.7	9	8.8	2	2.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	24	22.0	65	59.6	17	15.6	3	2.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	32	20.1	97	61.0	29	18.2	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	102	20.1	317	62.4	78	15.4	9	1.8	508	100.0
全 体	2	0.2	277	26.0	629	59.0	142	13.3	17	1.6	1,067	100.0

質問2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	86	45.5	74	39.2	25	13.2	4	2.1	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	22	21.6	54	52.9	24	23.5	2	2.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	1	0.9	24	22.0	47	43.1	34	31.2	3	2.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	37	23.3	85	53.5	34	21.4	3	1.9	159	100.0
理 工 学 部	1	0.2	100	19.7	283	55.7	100	19.7	24	4.7	508	100.0
全 体	2	0.2	269	25.2	543	50.9	217	20.3	36	3.4	1,067	100.0

質問3. この授業によって日本語の能力を高めることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	66	34.9	91	48.1	30	15.9	1	0.5	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	33	32.4	48	47.1	16	15.7	5	4.9	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	30	27.5	57	52.3	18	16.5	4	3.7	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	38	23.9	87	54.7	32	20.1	2	1.3	159	100.0
理 工 学 部	1	0.2	109	21.5	302	59.4	89	17.5	7	1.4	508	100.0
全 体	2	0.2	276	25.9	585	54.8	185	17.3	19	1.8	1,067	100.0

質問4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.1	109	57.7	60	31.7	15	7.9	3	1.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	1	1.0	65	63.7	34	33.3	2	2.0	0	0.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	58	53.2	46	42.2	3	2.8	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	77	48.4	70	44.0	11	6.9	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	3	0.6	168	33.1	261	51.4	69	13.6	7	1.4	508	100.0
全 体	6	0.6	477	44.7	471	44.1	100	9.4	13	1.2	1,067	100.0

質問5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	119	63.0	55	29.1	12	6.3	2	1.1	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	59	57.8	37	36.3	6	5.9	0	0.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	67	61.5	37	33.9	3	2.8	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	84	52.8	65	40.9	9	5.7	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	148	29.1	259	51.0	86	16.9	13	2.6	508	100.0
全 体	3	0.3	477	44.7	453	42.5	116	10.9	18	1.7	1,067	100.0

質問6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	52	27.5	100	52.9	31	16.4	5	2.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	32	31.4	54	52.9	14	13.7	2	2.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	15	13.8	56	51.4	30	27.5	8	7.3	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	28	17.6	84	52.8	43	27.0	4	2.5	159	100.0
理 工 学 部	1	0.2	81	15.9	266	52.4	147	28.9	13	2.6	508	100.0
全 体	2	0.2	208	19.5	560	52.5	265	24.8	32	3.0	1,067	100.0

質問7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.1	86	45.5	84	44.4	12	6.3	5	2.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	23	22.5	57	55.9	19	18.6	3	2.9	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	14	12.8	53	48.6	36	33.0	6	5.5	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	28	17.6	88	55.3	40	25.2	3	1.9	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	82	16.1	273	53.7	130	25.6	21	4.1	508	100.0
全 体	4	0.4	233	21.8	555	52.0	237	22.2	38	3.6	1,067	100.0

質問8. 教室での討論は活発であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	78	41.3	78	41.3	28	14.8	5	2.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	17	16.7	37	36.3	40	39.2	8	7.8	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	9	8.3	48	44.0	43	39.4	9	8.3	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	38	23.9	68	42.8	49	30.8	4	2.5	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	97	19.1	252	49.6	137	27.0	20	3.9	508	100.0
全 体	2	0.2	239	22.4	483	45.3	297	27.8	46	4.3	1,067	100.0

質問9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	110	58.2	59	31.2	16	8.5	3	1.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	26	25.5	44	43.1	28	27.5	4	3.9	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	30	27.5	60	55.0	17	15.6	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	54	34.0	71	44.7	29	18.2	5	3.1	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	150	29.5	246	48.4	92	18.1	18	3.5	508	100.0
全 体	3	0.3	370	34.7	480	45.0	182	17.1	32	3.0	1,067	100.0

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	3	1.6	83	43.9	79	41.8	19	10.1	5	2.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	30	29.4	60	58.8	10	9.8	2	2.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	17	15.6	32	29.4	42	38.5	18	16.5	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	32	20.1	93	58.5	29	18.2	5	3.1	159	100.0
理 工 学 部	2	0.4	162	31.9	262	51.6	67	13.2	15	3.0	508	100.0
全 体	5	0.5	324	30.4	526	49.3	167	15.7	45	4.2	1,067	100.0

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	135	71.4	44	23.3	6	3.2	3	1.6	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	55	53.9	45	44.1	1	1.0	1	1.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	53	48.6	51	46.8	3	2.8	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	80	50.3	71	44.7	7	4.4	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	3	0.6	240	47.2	230	45.3	30	5.9	5	1.0	508	100.0
全 体	4	0.4	563	52.8	441	41.3	47	4.4	12	1.1	1,067	100.0

質問12. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	115	60.8	65	34.4	8	4.2	0	0.0	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	32	31.4	59	57.8	9	8.8	2	2.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	32	29.4	66	60.6	9	8.3	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	45	28.3	94	59.1	19	11.9	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	4	0.8	163	32.1	253	49.8	72	14.2	16	3.1	508	100.0
全 体	5	0.5	387	36.3	537	50.3	117	11.0	21	2.0	1,067	100.0

質問13. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	3	1.6	83	43.9	90	47.6	9	4.8	4	2.1	189	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	34	33.3	63	61.8	5	4.9	0	0.0	102	100.0
医 学 部 医 学 科	2	1.8	31	28.4	70	64.2	4	3.7	2	1.8	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	47	29.6	103	64.8	8	5.0	1	0.6	159	100.0
理 工 学 部	6	1.2	164	32.3	308	60.6	26	5.1	4	0.8	508	100.0
全 体	11	1.0	359	33.6	634	59.4	52	4.9	11	1.0	1,067	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	52	27.5	137	72.5	189	100.0
社 会 情 報 学 部	20	19.6	82	80.4	102	100.0
医 学 部 医 学 科	41	37.6	68	62.4	109	100.0
医 学 部 保 健 学 科	35	22.0	124	78.0	159	100.0
理 工 学 部	130	25.6	378	74.4	508	100.0
全 体	278	26.1	789	73.9	1,067	100.0

## 【その他自由記述欄記述内容】

【教員コード】	荒一学び7
【教員名】	中里 南子

【アンケート数】	15
【意見記入数】	4

- 一年のこの時期に、考えてレポート作成ができたのは、難しかったが、良い経験になったと思う。
- レポート作成のノウハウを学ぶのにとっても良い授業だと思った。
- 次期の学びのリテラシーの履習方法がわかりにくかった。
- 量がとても多かったのですが、頑張っって力がついたと思えました。

【教員コード】	昭一学び1
【教員名】	浅川 康吉

【アンケート数】	21
【意見記入数】	6

- レポートの書き方についての、パワーポイントを用いた授業が、とても分かりやすく、一番身についた内容だったと思う。
- レポートのお手本
- 授業を通じて、この授業科目の設置意義について「なるほど」と思った。
- グループワークの回数が少なくて残念でした。  
座学も必要とは思いますが、仕方がないことでは思いますが、せっかく組んだグループですので出来ればもう少しグループ毎の活動をやってみたくかったです。  
個人的な意見にはなりますが、1限にこの授業があったのは良かったです。  
朝に講義タイプの授業を受けるよりも、このような活動的な授業にとり組む方が爽快でした。
- 難しい授業だと感じた
- レポートの書き方、パワーポイント作成の仕方など今後役立つことを学ぶことができたのでとてもいい授業だった。

【教員コード】	昭一学び2
【教員名】	李 範爽

【アンケート数】	21
【意見記入数】	6

- 要約、レポート、発表と内容が次第に発展的になっていくのがいいと思った。
- 高校では、レポートを書いたり、パワーポイントでスライドを作ったりすることがなかったので、授業として時間をとってもらえたことはとてもありがたかった。  
今後も続けていくべきだと思う。  
また、グループ内で意見交換などもできて良かった。
- これが有効であったか、無駄であったかは分からないが、もう少し詳しく大学の生活や学習面について教えてほしかった。
- 役に立った！
- レポート等のテーマ決めが、少し難しかったです。
- レポートの書き方をもっと詳しく教えてほしかった。

【教員コード】	昭一学び3
【教員名】	岡 美智代

【アンケート数】	79
【意見記入数】	22

- この授業で特に日本語の使い方やレポートの書き方について学べてよかったと思いました。グループの人と多く話し合いをしたり自分の意見を述べたりしてコミュニケーション能力を高めることができたと思います。
- 課題が多くて大変だった。
- テーマについて教員と話す機会をもう少し設けてほしかったです。
- スライドを作って発表したけど、伝えやすくするのは大変だなと思った。
- 最初に配布された予定表を細めに確認していなかったため、次週までの課題を忘れてきたりしてしまっていたことがあった。
- 議論をしたくても、周囲の声が大きく、なかなかスムーズにできなかった。
- 他の授業や日常生活にも有効活用できそうな内容でよかった。
- グループワークで、もう少し教員が入って、医療者の立場からの意見などを聞く機会が欲しいと感じました。
- この授業の最終目的がわからなかった。  
先生に言われるがままやっているの身につくとかいぜんのことだと感じた。
- スライドをつくるのにかなり時間がかかりました。
- レポートやパワーポイントなどの書き方を教わることで参加になった。
- これから様々な場面で使うようなスライドの作り方や文章の書き方を修得することができました。
- もう少しPC室での作業時間が欲しかったです。
- パワーポイント作成の時間が短かった。  
宿題が多くて大変だった。
- レポートの書き方の根本的なところを説明してほしかった。  
パワーポイントの説明がびみょう。  
グラフの作り方などを教えてほしかった
- 提出用の宿題の紙があったほうが良いと思いました。
- 私はグループワークが苦手なので大変だった。
- 調べるまではいいが、それに対する自分の考えをもっと詳しく書いた方が良かった。
- パソコンを使うのはもう少し最初に説明がほしいなっていました。  
すごくデジタルデバインドを感じました。
- スライド作成が結構大変でした。
- パソコンが出来ない人には少し難しかったかもしれないです。
- パワーポイント、ワードの使い方について、詳しい説明の講義があると良かったです。  
(図形の挿入、アニメーションのつけ方)など



【教員コード】	昭一学び5
【教員名】	時田 佳治

【アンケート数】	19
【意見記入数】	1

- パソコンの使い方が分からない人にとって最後のパワーポイントの作業は難しかったのでもっと説明した方が良い。

【教員コード】	荒一学び1
【教員名】	山延 健

【アンケート数】	173
【意見記入数】	63

- 研究の内容より経歴などの時間を増やしてほしい。
- ○学びのリテラシー(1)でコミュニケーションやディスカッションはできたが、それで終わってしまうことが多かったので、その後続けたコミュニケーションがとれると良いと思った。
- 4人のグループワークは全員が参加しやすい適当な人数だと思った。要約の仕方や批判のポイントは個人で異なるので、互いに発表し合うことで、1つのものを多方面から考えることができ良かった。
- 私はこの授業によって日本語の能力を高めることができました。また文章の書き方、意見の出し方も学ぶことができました。この授業を生かしてこれからはレポートなどの課題も増えていくので日本語の能力を高めていきたいです。
- 少人数のクラスがよかった。全体の講義も可能なら少人数でやってもらいたかった。
- グループワークを色々な人とやってみたかった。授業内容はとても良かった。
- 内容はいいと思う。自分はたくさんの人と関わりたいのでグループの人を定期的に入れ替えてほしい。そして、もうすこしグループワークを増やしてほしい。
- 大学生のレポートの書き方をしっかりやってほしかった。レポートを作成するのは大学生で初めての人が多いと思うので、どんな感じにレポートの作成を始めていけばいいかを詳しくやってほしかった。文章を直すのは補足でいいと思った。
- グループワークの班を後1~2人増やした方がいいと思った。
- 話し合う時はリーダーを決め、毎回変えた方が、みんながしゃべる。
- 教員とコミュニケーションをとる機会が少ないと感じた。またグループが固定化されているので、他の生徒との意見交換をする場も設けてほしい。レポートの書き方や報告の仕方をもっと学びたかった。
- 授業内でしっかり終わるようにしてほしい。全体的な時間配分を考えて授業中のやるべき量を設定してほしい。議論が上手かったので楽しかった。
- 授業内でしっかりおわるような時間の取り方をしてほしい。
- 生物の文章を直す宿題が出たとき、内容ではなく、文形などを直してしまって、後で先生に内容を直せと言われたとき、分からないまま文章を読まずにちゃんと調べなきゃダメだと思ったが、生物をやっていない自分にとっては学力に配慮されていないと思った。

- グループワークによって知り合った人の普段は見られない頭の使い方を見られた。日常生活ではなかなか見られないので良かった。みんなで問題を解くということもやってみたい。
- 学びのリテラシー(1)で、日本語についての授業を受けた時、自分がどれだけ間違った日本語を使っているんだな…と実感した。また、化学的レポートにおける表現の誤りを直す課題は、とても意味のあるものだと思います。
- 無理に話し合いを促しているかのような印象を受ける。もっと話し合いが必要とされる内容で取り組むのがよいと思われる。他にも問題だと思うところはあるが、学生個人の問題なので割愛する。
- ・グループワークのとき、もう少し班をごちゃ混ぜになるように学籍番号順でなく、無作為にした方がいいと思った。
- 各グループに分かれたときの人数に対しての教室が合っていないと思った。広すぎて逆に活動しにくかった。毎回班を変えれば多くの人とコミュニケーションがはかれると思った。
- もう少しコミュニケーション能力を高めたいので、班を一定期間で変えてほしい。
- あまり勉強にならなかったと思った。
- 要約の仕方は今後とても役立つと思ったし、レポートを書く上で日本語についても学べる点が多かった。要約の文章がもう少し長かったり、バリエーションがあってもいいと思った。グループワークはたのしかった。
- グループワークが良かった。
- 大澤教授の回だけむだに複雑なことやらされるので大変でした。課題について説教されてビックリでした。
- 自分に不足していると思っていた日本語力の面を学ぶことができたのでよかった。私の中で日本人だから日本語ができるのはあたりまえと思っていたのが、全然違った。
- 大講義室での授業よりも、クラスを分けたときの方がやりやすかった。
- 各教室で話し合いをするさい、行う教室がせまかった。
- グループで意見をまとめる時間をもう少し長くしてもらいたいと思った。
- もう少し討論する時間を長くしてほしい
- 班が常に一定のメンバーだったので、その人たちとは交流を持てたが、たまには班をシャッフルして別の人と班行動を行っても良いと思う。
- グループワークがやや少なかったように思う。
- レポートの書き方をもっとやってほしかった。
- 1年前期の講義なので、コミュニケーションのために、何回かグループを入れ替えるべきだと考える。
- レポートの書き方の講義はこれから役に立ちそうですごくいいなと思いました。

- 最初の方は課題の量も適切だと感じていたが、徐々に課題が多くなっていった気がした。また、あまり班で集まることが難しい状況で、班で一つまとめて提出というような課題はきついのではないかと思った。  
そのような課題を出すなら班で授業中に課題について話し合う機会をとってほしい。
- 文章を要約する力や、コミュニケーション能力を高めることができる良い機会だった。
- 宿題を熱心にやってくる人が多かった。
- グループ内で討論を行う機会は十分にあったが、他のグループと討論をする機会が少なかったと思う。
- もっと色々な人と意見の交換をしたい。  
慣れてくると、「あなたの意見でいいんじゃない？」というような、人まかせな答えが返ってくるがあった。  
単元ごとに違う人とも話してみたい。
- 大学にあって、高校になかったことといったら論文やレポートで、大学に入ったばかりでは、わからないことも多いので、レポートや論文の書き方(構成など)についてもう少しあってもよかったと思いました。
- グループワークを取り入れているのはコミュニケーション能力の向上や論理的思考力を身につけることに非常に効果があり良いと思う。  
しかしグループワークどまりになっていることが残念であった。  
皆の前で発表する機会をもっと取り入れるべきだと思う。
- 基本的な考え方を学ぶことが出来た。  
しかし、コミュ障などお互いが知らない人同士だったためか討論は活発どころか、おつやになることもしばしばあった。
- 全体で意見を出すような場面で、なかなか意見を出せない人が多くいた。  
学生同士の話し合いでも最初はみんなあまり話さなかった。  
話し合いが進むグループでも、話す人と話さない人に分かれてしまっていた。
- 一回で良いからグループ替えを行ってほしい。  
あまりしゃべらない人達のグループだったので、討論があまり良い結果であるとは言えなかった。
- 討論しやすい教室と全体が集まれる教室に集まる日をそれぞれ作ったのは良いと思います。
- 課題の量が思ったよりも多く驚いた。  
グループワークの時間が長すぎて答えがよく分からなくなる
- もっとグループによる討論を活発にできたらいいと思う。
- 他の学生とのコミュニケーションの場が少ないと思った。
- GB155での講義のとき8人くらいでディスカッションするとき席が遠くて、お互いの声が聞こえなくてよく分からないことがあった。  
(1人ひとりが声を大きくすれば改善できることかもしれませんが。)
- グループワークの回数が多かったのがよかった。
- いつも同じグループだからたまには他の人とも話したいと思った。
- 先生によって好む日本語が違うので、統一した基準があると良かった。

- 4人でのディスカッションはやりやすく、物事に取りくむことがスムーズにできたのでよかった。
- ・自分の意見を述べる際、挙手制だと意見が出にくいいため、最初のうちはグループごとにランダムで一人選択し意見を述べさせたほうがよいと思った。  
・今後もグループごとの活動は増やすべきだと思う。
- 要約力を身につける事は出来たが、レポートを書く上での常識、参考文献の選び方等も教えてもらえるとうれしかった。
- グループワークが非常に良かった。  
人数が程よいおかげで、ディスカッションもスムーズに進行し、コミュニケーションもよくとれた。  
他人の考えを聞くこと、自分の考えを発言できる場が多いのが大学ぽくてよい。
- 積極性の低い生徒の意欲も向上心を持てるような内容にすべきだと思う。
- 成績のつけ方がよくわからない。
- うしろの方は、パワーポイントが見えずらく、位置よってはうしろのモニターを見えないので、字を大きくしたり、座る位置を考えるべきだと思う。
- グループワークの活動をもっとたくさん行いたい。
- もっと教員のcheckが入るような、より添削型の授業であることを望む。  
お互いに添削し合うというスタイルは非常に良いと考える。
- 1グループの人数をもう少し増やしてほしい。
- 班が最初から最後まで一緒なので、上手に人間関係を最初の方で築けないとずっと輪の中に入りにくい。

【教員コード】	荒一学び2
【教員名】	中川 紳好

【アンケート数】	85
【意見記入数】	38

- 講義の中には小学生でもわかるようなことを延々と話しているときがしばしばあったため、正直退屈だった。  
演習での討論は活発でよかったと思う。  
話の内容が薄いので演習をもっと増やすべきだと思う。
- ○実験ノートや実験レポートについてはもっと早い段階でやってほしかった。  
化学実験の授業で習ったことを今さらいわれても、とってしまった。
- 他の学生とのコミュニケーション量をもう少し増やしてほしい。
- 文の書き方についてより深めることができた。
- 意見交換するというのは他の人の考えも聞けるのでいいと思った。
- 月曜の1限は眠いので止めた方がいいと思います。
- 学びのリテラシー1では、大学入学以前にはあまり意識せず書いていた文章が論文等を書く時には不適切だということを知った。  
この講座で、論理的な文章の書き方、論文を書く上での論の流れが分かった。  
学んだことを生かして、学生実験や4年生の時の研究論文を書いていきたいです。  
またグループワークで他の人の文章を見ることで論の展開の仕方を学びました。  
更に他の人と話し合うことでコミュニケーションをとることで、たくさんの意見を共有できたと思います。

- 普通の授業では学ぶだけで実践がないので、この授業では学習と演習が1まとめになっているのでいいと思います。
- 添削したレポートを返却していただければ、より具体的に文章の問題点などを派握しやすいと思った。
- 学生実験ですぐに使えるため「レポートの書き方」はなるべく早い時期にやってほしい。
- 3人でのグループワークをやることで、とても緊張感を持って授業に取り組むことができたと思った。
- レポートの書き方など指導してくれているので大変ためになった。  
ただ同じような事を聞かされている感じが多いと感じたので、2週間に1回でいいと思った。
- プロジェクターの授業が多く、板書がしづらかった。
- パワーポイントの内容が細かいので、スライドをかえるときまでノートに写すことができない
- 実際にレポートを書いた後、まわりの人に直してもらえるのがよかった。  
提出したレポートは、どこが間違えているか見たいので先生に採点していただき、その後一度返してほしい。
- やる内容についてのシラバスなどがあれば全体的になにをやるのかが明確になり、よかったと思う。  
個人的にただ漫然と授業を聞いている時間も多くなってしまった。
- その日の授業がABC全体のものなのか、それぞれ分かれて行うものなのかよくわからない時があり、教室を間違えそうになることがあるので、授業のスケジュールなどが配布されると便利だと思います。
- 講師が作文を専攻する方ではなく、桐生キャンパスの先生だったということに疑問を持つ。  
実験レポート以外についての書き方の講座ばかりであまり興味が湧かなかった。
- グループワークはとても良いものだと感じている
- 出席番号順での班分けだとすでに知り合いであることが多いのでちがう方法で分けて、いつもあまり関わりがない人と交流がもてるようにしてはどうか。
- 内容や課題の出し方など、特に困ったり悩んだりする点は見受けられなかった
- 他の授業で提出したレポートを持ってきて改善したりしたい
- 環境創生理工概論とかぶるところがあった。
- 演習の斑を入れ替えるなどして、多くの人とグループワークできるようにしたほうが良いと思う。
- AとBクラスでのコミュニケーションが極端に少ない。  
またグループワークのメンバーがほとんど変わらないので友達の輪が広がらない。
- グループワークはみんな積極的だったと感じたが、GC301での講義は寝ていたり騒がしかったりした。
- 学生とのやりとりが少ない講義がわりとあった。

- 授業内容と課題が決まっているのであれば提出日や授業の教室があらかじめ明記された(まとまった)表のようなものが配られると便利。  
(特に教室)
- レポートの書き方の前に正しい日本語(書き言葉・話し言葉)を教えてもらったのは良かったが、実験レポートのためにも、少し早めにレポートの書き方を教わりたかったなと思った。
- 討論の時間を増やしてほしい。
- 教員が学生に教えるという形の講義でなく、学生・教員が双方向にコミュニケーションをとり、議論するような授業が必要なのではないかと思う。  
この講義では学生が意見などを発言する場面は少なかったように思う。
- 講義の時間も話し合い(グループワーク)を入れたほうが、コミュニケーションの機会が増えるのでいいと思う。
- 日本語の書き方など、自分が分かっていたつもりでも知らなかった事が多くて、それに気づけた事がとても良かった。
- グループワークの教室の連絡が無かったときがあったので、ちゃんと連絡するようにしてほしい。
- 自分が書いたレポートについて講師がどこを訂正したのかがレポートが返されないのだから、今後のレポート作成にいかせない。
- 色々な人とコミュニケーションを取れるようにするために、グループワークのメンバーを毎回変えて行った方が良かったと思った。
- もう少し討論の機会を増やしてもいいのではと思います。  
レポートの作製手順は参考になりました。
- 座学が多すぎ

【教員コード】	荒—学び3
【教員名】	山田 功

【アンケート数】	120
【意見記入数】	19

- もう少し、プレゼンの時間がほしかったというのと、プレゼンの文字の大きさやいろいろな情報がほしかったです。  
プレゼンの題材が是か非かだけでは分かりづらかった点もありました。  
山田先生の授業は楽しかったです。
- 先生の話がおもしろくて楽しかったです。
- 山田先生の体験談をきくことができてよかった。
- グループワークの人数をもう少し減らした方が良かったと思う
- グループワークでいつもしっかりやる人とやらない人で分かれてしまっている。  
特にパワーポイントは6人中4人がやってこなかったりしました。
- MS1、MS2、MS3に分かれて授業するときは掲示板に掲載してほしい。
- ギャグがおもしろいです
- いらなと思われる

- 楽しい授業でした。
- レポートの書き方を最初にやってほしかった。
- レポートの書き方が、PPを使った発表の練習など、今後役立つものが多くてよかったです。
- メモを取る際などにスライドの速度が少し早かった。
- レポートの事をもう少し具体的に教えてほしかった。
- ○時事ネタとして小保方さんの話で1時限を使っても良かった気がした。  
×このアンケートで「身につける」とか「修得する」などの表現では「あてはまる」にチェックしづらい。  
(1時限だけで能力を養うのは無理な気がします)
- レポートの書き方とかのスライドが速すぎてメモ出来なかった。  
レジュメでもいいから配布して欲しかった。
- スライドが遠く見づらかったです。  
レジュメの配布のない授業は大変だったので、毎回レジュメの配布を行なってほしかったです
- スクリーンが部屋の明かりのせいで少し見にくかった。
- グループの人数は6人前後で適切だと思うが、1・2回で良いので10人程度のディスカッションをしたいと思った。
- ○グループ活動における発表の準備期間が短いと思う。  
○生徒の欠点を指摘するだけでなく、良さを引き出すような活動してほしいと考える。

【教員コード】	荒一学び4
【教員名】	三輪 空司

【アンケート数】	130
【意見記入数】	10

- 実験レポートについての講義をもっとはやい時期にやってもいいと思う。
- 前半は学ぶことが多かったが、後半はあまりおもしろくなかった。  
日本語検定では敬語が良くなかったので学べてよかった。
- よかった。
- 月曜の1コマ…つらかったです(笑)
- グループが知っているメンバーばかりで、せっかくのグループワークの機会なのに、新しい人と関わることができなかつたので、もう少し考えてほしかった(総合理工はとくに！)
- 授業の進行具合に沿った、適切な授業だった。
- 最初の教養科目で、将来必要になるレポートの作り方や発表の仕方を学べてよかった。
- レポートの書き方の指導は、化学実験等を行うことを考慮して実施されたものだと思うが、完全に時期を■しており、そのときには化学実験は終盤にさしかかったところであった。
- 演習をふやす
- 月曜の1コマ目というのが大変である。

【教員コード】	荒一学び5
【教員名】	三原 智子

【アンケート数】	15
【意見記入数】	5

- 今後の大学生活を送るうえで重要なスキルを多く教わり、とても実り多い授業でした。
- パワーポイントでのプレゼンをするのなら、もっと早く伝えて欲しかったです。
- 字数制限があると良かったかと思えます。
- 急にパワーポイントを用いると聞かされ、それを発表するということだったので、出来ればもう少し早くそれに気づき、告知してほしかったです。
- プレゼンをやれることをもっと早く教えてもらいたかったです。

【教員コード】	荒一学び6
【教員名】	益田 裕充

【アンケート数】	26
【意見記入数】	3

- 大学での学び以外にも教員になるための話が聞けて良かった。
- プレゼンテーション能力について鍛えることができたと思う。
- プレゼンテーションの仕方を学べた

【教員コード】	荒一学び8
【教員名】	山内 春光

【アンケート数】	26
【意見記入数】	6

- 教科書(テキスト)を読ませる時、先生ではなく生徒に読ませるべきだと思った。  
なぜなら、お昼のあとの3コマ目は、どうしても眠くなる時間帯だから。
- 『ころも』は高校のときに(下)を読んだだけだったが、今、(上・中・下)を通して読んでみたり、グループワークで(上)を深く読んでみたりして、一冊の本をたださらっと読んだだけではわからない、人物の感情や言葉の深い意味がわかっておもしろかった。
- レポートそのものについての書き方についてを説明する回があったら良かったと思う。
- 学びのリテラシーは、行動学科は2つの教室に分かれて行われましたが、最後の課題が私にとって難しかったです。  
できれば2つの教室で同じにしてほしかったです。
- レポートの書き方などが学べてよかったです。
- 特にありません。  
適切な進行、スケジュールだったと思います。

【教員コード】	荒一学び9
【教員名】	高山 利弘

【アンケート数】	24
【意見記入数】	3

- とても良い授業だったと思います！
- レポートの書き方など基礎的なことが学べて、ためになった。
- 私は欠席を多くしてしまったので、きちんと授業の内容を習得できなかったかもしれないが、レポートの書き方などの大学の基礎的な学習法はわかったと思う。  
テーマは有意義なテーマだったが、少し難しかった。



【教員コード】	荒一学び10
【教員名】	西村 尚之

【アンケート数】	26
【意見記入数】	6

- レポートが週一のペースでできるのには驚きました。半年間ありがとうございました。
- 実際に、経験してみないとわからないことがたくさんあることに気付かされました。もう少し、学生が発言する機会が多いと良いと思います。
- この授業が討論する場であったなら、今回は全くといっていいほどなかった。残念である。
- 学びのリテラシー1を通して、前向きに、かつ深く考えることの重要性を学びました。
- 一年前期というスタートの時期に欠かせない内容が充実していたと感じた。
- 課外学習を通じて、学校外の人々の貴重な話を聞くことができた

【教員コード】	荒一学び11
【教員名】	西村 淑子

【アンケート数】	26
【意見記入数】	5

- 時間的に制限があり、仕方がないことだと思いますが、できればグループ外の人々の発表も見てみたかったです。
- 思考能力やレポート作成等の大学に必要な能力の育成を目的とした授業ということだったが、先生方個人の専門に引きづられているような部分もあり、授業の目的の一貫性に疑問を感じた。
- プレゼンテーションを行う教室が小さいことと、二グループが同時に行ったのがやや不満です。個人の持ち味である声量などが同時発表者に配慮しようとして活かせなくなります。
- 先生方の事前打ち合わせがあったのかわかりませんが、先生によって現地見学等の内容が食い違っているのは、やめていただきたいと思います。
- 学びのリテラシーのレポートを真剣に取り組むうちに、自然と言葉遣いや語り力が高まった気がする。また、他教科のレポート課題が苦にならなくなってきた。

【教員コード】	荒一学び12
【教員名】	小山 徹也

【アンケート数】	109
【意見記入数】	41

- レポート提出日をテスト期間とできるだけ重ねないように、時期を早めてほしい。
- もう少し生徒参加型の講義すると思った。講義内容は大変参考になったと思う。
- 課題など負担が多いと思った。
- レポートが多すぎる。
- 医学部に入って、レポートや発表をこれからする上で基本的な知識を身につけることができた。
- 1年の授業で一番めんどくさかった。
- ・グループ課題の条件が、少し厳しかったと思います。

- 課題が少し多すぎるきがした。
- 何を意識(何の修得を目的)した授業かがいまいちわからなかった。
- ・発表者が多いと内容が聞きとりづらかった。
- 全員が広がって座っていたので一番後ろの席だと声が聞きとりづらい時があったり、スライドが見えづらい時がありました。
- 時間が遅い
- 課題が多い
- 論文の書き方について習べてよかったです。
- 他の大学にはないであろういい授業でした。
- あまり授業の意味を感じなかった。  
9-10限にあることが困る。
- 発表の準備にかけられる時間が短い。
- 発表する機会はなかなかないので良かった。
- 論文検索が一部のキャンパスでしか使えなかったり、グループで集らなければならない時もあり、実家から通学している者には、少し辛い所もあった。  
内容は、受講者の能力を向上させるものであり、有意義な講義であったと思う。
- 班分けが…
- 部活や受けている講義に応じて各員の生活リズムは異なっているが、ある程度適切にノルマを設けることが必要。  
1人に任せきりにはすべきではない。
- レポートなど、少し負担が多くてつらい。
- レポートやメールの書き方は非常にためになった。
- 論文の書き方を1から学ぶことができ、とても役立った。
- 3人の班と4人の班があり、不公平である。
- 他の科目の宿題が多い時に課題を出さないでほしい。
- 課題が少し多すぎる。
- もう少し授業のペースを上げ、スライド・原稿作成のための時間を増やした方が良い。
- ずっと同じグループで作業をするので、グループ内でコミュニケーションはとったが、幅広いコミュニケーションは取れなかった。  
他のグループと交流することも考えてみてはどうか。
- もっと早くにこのような基本を学ぶべきであると感じた。  
たとえば、高校などで。
- 先生が毎回変わって一貫性がなかった。  
例えば、発表スライドに参考文献は入れなくてよいと説明されたが、発表のときに別の先生には参考文献を入れると指摘された。

- 班員が積極的に仕事に参加してくれないと、1人で仕事をしなければならなくなります。もっと班員の人数を増やすと良いかもしれません。
- 先生と個人で話す機会をもっと設けてほしかった。
- スライドの作り方からスライド提出までの期間が短く感じました。
- 文献の検さく方法を詳しく知りたい
- 楽しかった。
- 実際に発表資料をつくりそれを何回か手直しできるのはよい
- 発表をする貴重な機会のある授業であるので、受けることができ良かったです。
- ありがとうございました。
- 毎週だされた課題が、身にならないわりに時間がかかるものが多く他の授業の課題が圧迫されて大変でした。
- 知らないことが基本的なことで多かったので、知れてよかった。

【教員コード】	荒一学び13
【教員名】	西谷 泉

【アンケート数】	23
【意見記入数】	5

- ○課題の添削において、「よくできてます」「もう少しです」というようなコメントでは不十分であると思った。  
もっと厳しく、丁寧に添削して欲しかった。
- 先生がお忙しいのは十分理解していますが、小論文の添削をもう少し丁寧にしてくれたら有難かったです。
- レポートが大変でした。
- ・討論を活発にできたのがよかった。  
・毎週ある小論文で書く力が身についた。  
・コミュニケーション能力が身についた。
- 2分間スピーチに対して、学生が評価するべきだと思った。

【教員コード】	荒一学び14
【教員名】	林 耕史

【アンケート数】	16
【意見記入数】	6

- レポートの書き方について形式的なことを序盤で教えてほしかった。
- 自分の人前で発言する能力が上がったと思う。
- 新たな観点を見出せるような授業だった。  
学びのリテラシーを通して自分なりに学びたいことを見つけられたので、充実した学びのリテラシー1だった。
- とても楽しく興味深い授業だった。
- 最後のレポートだけ、提出日がバラバラであったので、あのような大きなレポートの場合は、提出日を統一するべきだと思いました。
- 自分の専攻外に出てみても楽しいと思う。

【教員コード】	荒一学び16
【教員名】	濱田 秀行

【アンケート数】	25
【意見記入数】	5

- レポートの書き方についての説明をしっかりとしてほしいと思う。
- 全く何も知らないところから始めたので戸惑うことも多かったが、身につけたことはこれからの大学生活への重要な基礎になると思えた。
- この学びのリテラシーで、これから先に必要となっていく、「レポートの作成の仕方」や「発表の仕方」というものを学ぶことができました。  
最後のほうは時間が足りなくなってしまうほど、授業の内容が濃いものであったと思います。
- 論文をかいたことが今までなかったので大変でしたが、為になりました。
- 可能であれば、グループで話し合った内容を全体に伝えて欲しい。  
そうすることで、さらに自分にはない考え方や知識を吸収できると思う。

【教員コード】	荒一学び17
【教員名】	本村 猛能

【アンケート数】	11
【意見記入数】	5

- 学びのリテラシー1は、生徒の個性を大事にした授業でよかったと思う。
- 全体的にとっても充実した講義でした。  
課題とかは大変でしたが頑張ることで、技術や他の知識を身につけられました。  
さらに、自分が技術科であることを再確認させられる講義でもあったので、技術に対するモチベーションが高まりました。
- レジュメやパワーポイント、プレゼンテーションの仕方を学べたのでとてもためになった。  
これからもプレゼンの機会はあると思うので生かしていきたい。
- レジュメの書き方、プレゼンテーションの方法について色々を知ることができたのでよかった。  
一時期、事務の手違いで、教科書が他の専攻とかぶってしまうことがあったので改善されるといい。
- プレゼンテーションの機会などがあり、今後に生かしていける授業だった。

【教員コード】	荒一学び18
【教員名】	山口 陽弘

【アンケート数】	14
【意見記入数】	3

- 最後に行ったパワーポイントを使ったプレゼンテーションは思っていたよりも楽しかったし、自分の力になったと思う。  
また、他の人のプレゼンテーションは聞いてて楽しかった。
- 日本語を改めて学び直すことができた気がしました。  
また、これから大学でどのように学んでいけば良いのかを、考えることができました。
- 山口先生や生徒の一部がこだわり過ぎて周囲を混乱させていたように思える。

【教員コード】	荒一学び19
【教員名】	小谷 英生

【アンケート数】	23
【意見記入数】	5

- 大学での学びについてよく学べるともためになる授業でした。
- もっとしゃべればよかった
- 質問をする人が限られてしまう環境は不平等だと感じた。
- 学びのリテラシー1はディベート、プレゼンテーション、論文の書き方を主としているので、教授(講師)の質が直接関わってくると思う。  
自分の担当は論理的思考を第一に教授してくれたため、将来的にとっても役に立つ有意義な時間であったと感じている。  
このアンケートを基に低評価の教授が存在した場合、来年は、見直しが必要であると思う。
- 小谷先生の論理的な考えをきけるのはとても良かったしレポートの書き方、メールの送り方も教えてもらえて良かった。

【教員コード】	荒一学び20
【教員名】	福地 豊樹

【アンケート数】	21
【意見記入数】	11

- 保健体育の教師になるに当たっての心意気を学べた。
- 欲を言えば、もっと発言する機会があればよいと思いました。
- 本や映像などを用いて、体育について考えることができよかったです。
- 人前で自分のことを紹介したり、本について話したりと、普段できない経験をするのもできとても意義のある授業であった。
- ありがとうございました。
- もう少し自分の発表する機会が欲しいと思いました。
- 授業を通して、自分の専門の特性のようなものを理解できたので、そこは続けてほしいと思った。
- 授業の内容、量もちょうどよかった。  
人前で発表する機会があり、練習になった。
- 授業全体を通して、人前で発表など話す機会が多く、良い経験となった。
- 何について学ぶという、軸になるものが良くわからなかった。
- 将来、自分が教師になったとき、どのような気持ち、考えをもって生徒と接するかとても参考になった。

## 平成26年度後期授業評価（学びのリテラシー）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教 育 学 部	232	197	84.9
社 会 情 報 学 部	112	96	85.7
医 学 部 医 学 科	114	104	91.2
医 学 部 保 健 学 科	163	135	82.8
理 工 学 部	550	469	85.3
合 計	1,171	1,001	85.5

質問1. この授業は学びのリテラシー(2)の趣旨にそった形態(ゼミナール)であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.0	139	70.6	53	26.9	2	1.0	1	0.5	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	68	70.8	25	26.0	3	3.1	0	0.0	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	74	71.2	24	23.1	6	5.8	0	0.0	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	91	67.4	39	28.9	5	3.7	0	0.0	135	100.0
理 工 学 部	1	0.2	321	68.4	130	27.7	12	2.6	5	1.1	469	100.0
全 体	3	0.3	693	69.2	271	27.1	28	2.8	6	0.6	1,001	100.0

質問2. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	102	51.8	73	37.1	22	11.2	0	0.0	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	50	52.1	39	40.6	4	4.2	3	3.1	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	68	65.4	27	26.0	7	6.7	2	1.9	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	61	45.2	64	47.4	10	7.4	0	0.0	135	100.0
理 工 学 部	0	0.0	262	55.9	163	34.8	39	8.3	5	1.1	469	100.0
全 体	0	0.0	543	54.2	366	36.6	82	8.2	10	1.0	1,001	100.0

質問3. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	102	51.8	81	41.1	11	5.6	2	1.0	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	50	52.1	41	42.7	4	4.2	1	1.0	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	64	61.5	37	35.6	3	2.9	0	0.0	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	75	55.6	48	35.6	10	7.4	2	1.5	135	100.0
理 工 学 部	0	0.0	262	55.9	166	35.4	35	7.5	6	1.3	469	100.0
全 体	1	0.1	553	55.2	373	37.3	63	6.3	11	1.1	1,001	100.0

質問4. 教室での討論は活発であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	72	36.5	59	29.9	47	23.9	19	9.6	197	100.0
社 会 情 報 学 部	1	1.0	34	35.4	26	27.1	23	24.0	12	12.5	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	19	18.3	28	26.9	39	37.5	18	17.3	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	32	23.7	44	32.6	38	28.1	21	15.6	135	100.0
理 工 学 部	2	0.4	147	31.3	156	33.3	128	27.3	36	7.7	469	100.0
全 体	3	0.3	304	30.4	313	31.3	275	27.5	106	10.6	1,001	100.0

質問5. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	84	42.6	59	29.9	40	20.3	14	7.1	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	52	54.2	28	29.2	12	12.5	4	4.2	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	37	35.6	22	21.2	29	27.9	16	15.4	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	53	39.3	34	25.2	30	22.2	18	13.3	135	100.0
理 工 学 部	1	0.2	199	42.4	148	31.6	95	20.3	26	5.5	469	100.0
全 体	1	0.1	425	42.5	291	29.1	206	20.6	78	7.8	1,001	100.0

質問6. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	87	44.2	64	32.5	33	16.8	13	6.6	197	100.0
社 会 情 報 学 部	1	1.0	31	32.3	37	38.5	20	20.8	7	7.3	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	23	22.1	35	33.7	30	28.8	16	15.4	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	0	0.0	33	24.4	58	43.0	28	20.7	16	11.9	135	100.0
理 工 学 部	2	0.4	159	33.9	195	41.6	79	16.8	34	7.2	469	100.0
全 体	3	0.3	333	33.3	389	38.9	190	19.0	86	8.6	1,001	100.0



質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	127	64.5	60	30.5	7	3.6	2	1.0	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	53	55.2	38	39.6	5	5.2	0	0.0	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	61	58.7	37	35.6	6	5.8	0	0.0	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	1	0.7	80	59.3	45	33.3	8	5.9	1	0.7	135	100.0
理 工 学 部	2	0.4	282	60.1	158	33.7	21	4.5	6	1.3	469	100.0
全 体	4	0.4	603	60.2	338	33.8	47	4.7	9	0.9	1,001	100.0

質問8. 希望した科目を選ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.0	92	46.7	45	22.8	38	19.3	20	10.2	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	41	42.7	32	33.3	16	16.7	7	7.3	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	56	53.8	25	24.0	16	15.4	7	6.7	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	1	0.7	68	50.4	44	32.6	12	8.9	10	7.4	135	100.0
理 工 学 部	1	0.2	228	48.6	142	30.3	69	14.7	29	6.2	469	100.0
全 体	4	0.4	485	48.5	288	28.8	151	15.1	73	7.3	1,001	100.0

質問9. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	138	70.1	46	23.4	8	4.1	5	2.5	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	69	71.9	21	21.9	4	4.2	2	2.1	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	67	64.4	33	31.7	3	2.9	1	1.0	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	1	0.7	82	60.7	46	34.1	5	3.7	1	0.7	135	100.0
理 工 学 部	2	0.4	305	65.0	124	26.4	31	6.6	7	1.5	469	100.0
全 体	3	0.3	661	66.0	270	27.0	51	5.1	16	1.6	1,001	100.0

質問10. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	121	61.4	65	33.0	11	5.6	0	0.0	197	100.0
社 会 情 報 学 部	0	0.0	62	64.6	29	30.2	3	3.1	2	2.1	96	100.0
医 学 部 医 学 科	0	0.0	60	57.7	37	35.6	7	6.7	0	0.0	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	1	0.7	80	59.3	47	34.8	6	4.4	1	0.7	135	100.0
理 工 学 部	0	0.0	311	66.3	128	27.3	24	5.1	6	1.3	469	100.0
全 体	1	0.1	634	63.3	306	30.6	51	5.1	9	0.9	1,001	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	63	32.0	134	68.0	197	100.0
社 会 情 報 学 部	30	31.3	66	68.8	96	100.0
医 学 部 医 学 科	34	32.7	70	67.3	104	100.0
医 学 部 保 健 学 科	48	35.6	87	64.4	135	100.0
理 工 学 部	126	26.9	343	73.1	469	100.0
全 体	301	30.1	700	69.9	1,001	100.0

## 【その他自由記述欄記述内容】

【教員コード】	学び2-1
【教員名】	服部 健司

【アンケート数】	18
【意見記入数】	10

- 教科書ではないが、文庫本を教材としてつかう。  
教科書購入の時に、他のものと合わせて販売してもらえると初回からつかえると思う。  
(初回で通知があり、2回目から使用。  
数人そろわなかった。)
- 大勢の前で発言することに抵抗のある生徒が多いように感じた。  
なるべく3～4人ぐらいの少数グループでの討論をつんだのちに大勢での討論をした方が  
議論が活発化したかもしれない。
- 自分の未熟な面が次々と明らかになって、自分の講義の受け方を見直す意味でも、とても  
為になった。  
また、この講義のおかげで、講義の前に必ず予習するという習慣が他の科目でも生まれて  
理解できる機会が増えた。
- いい授業だと思った。
- 場面における考察を言うのだが、決まった発表者以外は、発表者の意見に対して何かを言  
うだけとなってしまっているのもっとブレインストーミングよりにして、自由に言い  
やすい風になると活気が出ると思う。
- 授業で使う本を生協に置いてほしい。
- ○グループによっては、読む量の差がかなり大きかったのもう少し差を縮めてほしい  
です。  
○映像で、目で実際見ることができたのはよかったです。
- 専門の科目と平行して自習時間をとることが大変でした。
- 授業を選ぶ際、授業の名前だけでなく、具体的な授業内容授業の進む形式などのより詳し  
い説明があると便利であった。
- 第一希望で通る人がいる一方で、全ての希望が通らない人も多く、極端な印象をうけたの  
で、改善してほしい。

【教員コード】	学び2-2
【教員名】	白尾 智明

【アンケート数】	19
【意見記入数】	7

- 様々な観点からのちどころについて学べた。
- 教授が無断で来ないことが多かったのもう困った。
- 休講の連絡を正確にして欲しい。
- 人と心について様々な点から考えることができた。
- 講義があるのかなのか事前に連絡がないことが何度かあったので、連絡はしっかりして  
ほしい。
- 休講情報がこない。  
教授が来ない。  
教授が遅刻。  
終了時間を超えたため、次の授業に遅刻してしまった。  
専門用語等が多く、内容がわかりにくい。
- 必要なし。  
この講義が必修である意味が分からない。  
やりたい人だけやればいい。

【教員コード】	学び2-3
【教員名】	鯉淵 典之

【アンケート数】	14
【意見記入数】	3

- 医学に関する内容なので、質疑応答が難しいと思った。
- 自分の学科にからめた内容の講義を受けれて非常に良かった。  
まだ教科書に乗っていないような研究内容を聴けて良かった。  
なんとなく知っていたことや、自分の興味のあることを、調べることができ、また、他グループの発表で他の知識も得られて良かった。
- 授業内容が医学の専門的なものが多く、教育学部の自分には難しく感じた。

【教員コード】	学び2-4
【教員名】	瀬戸 絵里

【アンケート数】	37
【意見記入数】	9

- 討論の時間を増やしてもいいと思った。
- 文系の私には、理解が難しい部分が多くあった。
- 色々な分野の先生の話が聞けて良かった。
- 理工学部では学ぶ機会のない内容の講義を受けることが出来て、大変おもしろかったです。
- 少し難しい気がする。
- インフルエンザについて詳しく学ぶことができて良かった。
- 後期の学びのリテラシーは何のために行っているのかははっきりしなかった。  
なくてもよいと感じた。
- GB154にはマイクもスピーカーもあるが、正直肉声で十分な部屋の広さだと思うし、  
マイクを使って話す声は大きすぎたので、もう少しボリュームを下げても良いと思う。
- 授業を受けてみると思った以上に面白い内容だった。

【教員コード】	学び2-5
【教員名】	鈴江 一友

【アンケート数】	32
【意見記入数】	6

- 少人数のグループでパワーポイントを使って発表するという機会はあまりなかったのでも勉強になった。  
評価のしかたについても適切であった。  
発表以外の授業の時はずっと聞いているだけだったのももの足りなさを感じた。  
もう少し参加型でもよかったと思う。
- もっと多くの人でのディスカッションがあってもいいのかもしれない。
- グループワークの力がついた。  
パワーポイントの目のつけどころがわかった。
- 学部ばらばらでグループを作って、そのグループでプレゼンをしてみて、知らなかった人とも協力をして、1つの発表を作ることができたのが、とてもよかった。  
講義でも、自分の興味のある寄生虫のことなどが聞けてよかった。
- 発表やレポートも楽しめて出来た。
- シラバスに書いてあった授業内容と実際の授業内容が異なりすぎて、授業を変更したかったが、前期から決まっていた授業だったので、変更できなかった。  
学びのリテラシーも他の教養科目と同じようにお試し期間を設けるべきだと思った。  
シラバスの授業内容を記載する欄も毎年更新して記載すべきだと思った。  
グループワークでは他学部の人と交流できて良かった。

【教員コード】	学び2-6
【教員名】	松元 宏行

【アンケート数】	36
【意見記入数】	19

- 1度だけ、とても難しく、興味の沸かないものがあつたため、内容の分野、その点のみ考慮していただきたい。
- 毎回違うテーマのビデオを取り上げてくれて、面白かった。
- 学びのリテラシーではどんな授業でも1回以上はグループ活動をするべきだと思う。
- 第6希望でとっていたこの授業でありましたが、多くのことを知れて良かったと思います。この授業を受けていなければ、知っていた話でも深いところまで知ることができませんでした。初回の授業で、どのようなものが見たいかアンケートをとると、生徒の意向にあつたものになるのではないかなと思いました。
- 普段は興味をもたない内容についても積極的に触れることができ、とても充実した授業だと思った。
- 学ぶことが多く、とても良い時間を過ごせました。
- 毎回のDVDは興味をそそられるものがほとんどで、楽しかった。特に改善するところはない…と思います。すごく楽しかったです。それと、先生と生徒が話す機会が多く、受け身！！という授業ではないので、それも楽しい理由だと思いました。毎回ネタが切れないのにビックリです。
- プロジェクトXなど、非常に身になるDVDをピックアップしてみせていただけて、科学技術の発展のようす、現代に活かされている産業技術について深く学べたのでよかった。
- 意外と興味が持てて、様々な知識を得られたので良かった。専門外なので難しいかと不安だったが、そんなことはなく、楽しかった。
- 映像自体は興味深い内容だったが、教授の話が嫌だった。広いベランダがついている家で、ジャグジーもあるとか昨日道にエロDVDが落ちていて今日の講義で配ろうと思ったとか全く授業に関係ない話だったりブルーレイディスクは不要だとか偏った意見ばかりだった。
- とても良い講義でした。
- 自分たちの興味のあることについて学べたので有意義な時間を過ごすことができた。
- projectXの動画が良かった。
- 普段の構義では学ぶことのできないことが、学べたので、とても有意義な時間をすごせた。
- 毎時間ビデオを見ることで、楽しく科学技術を学ぶことができた。
- 「プロジェクトX」の課題は見たことあるものが何本かあつた。
- すこし教室が寒い時があつた。
- 日本の科学を支えている、たくさんの科学技術や外国の科学技術のビデオを見ることで、知識が増えた。
- 著作物についてまとめるプリントが後日提出だったのが、授業終了時に提出になったが、家に忘れてくるのを防いだり、家に宿題として持って帰ったりということがなくなったので良かったと思う。また、短い時間でまとめる練習にもなった。各回ごとにジャンルが違う著作物で飽きなかったし、グループワークが大嫌いなので、精神的にも参加しやすい内容であつた。

【教員コード】	学び2-7
【教員名】	小林 正行

【アンケート数】	30
【意見記入数】	9

- 自分の全く手をつけていない分野に対して専門的に課題を出されたりするとついていけない場合がある。  
学部がごちゃ混ぜだとその専攻にとっては易しい難しいといった格差がうまれると思う。
- 資料に関するURLや出典元などを示して下さり、後日確認や興味を深めるきっかけになり、大変有難かったです。
- 教室が少し寒かった。  
自分は古典文学などに詳しくなかったため、少しわかりづらい授業があった。
- 教員の教室移動が遠くの教室の間のため、たいへんそうであった。
- 課題が難しかった。
- 知らなかったことを沢山知れてよかった。  
特にレポートの書き方はとても自分のこれからの為にもなったと思う。  
ただ討論してくださいと言われても、机の配置や座った場所によっては、あまり出来ないこともあったので、話しあうのにもっと動きやすい教室で講義を聞きたかった。
- レベルの高い授業だなと思いました。
- 内容が専門的すぎると思った。
- 教室が寒い時があった。

【教員コード】	学び2-9
【教員名】	森谷 健

【アンケート数】	7
【意見記入数】	2

- 意見を出させるためのインセンティブが足りないと思った。
- 授業のレベルがやや専門的でついていけないことが多かった。

【教員コード】	学び2-11
【教員名】	村田 祥子

【アンケート数】	8
【意見記入数】	4

- 前半は参加型の内容で興味を引き出すように工夫されていた。
- 少人数だったので、発言がしやすかった。
- 自身が希望した講義ではなかったが、だからこそ自分の知らないことを自覚することが出来た。  
特に、自分がいかに本をきちんと読んだことか否かを自覚した。
- 人数がもう少しいるとよかったと思います。

【教員コード】	学び2-12
【教員名】	上宮 英之

【アンケート数】	18
【意見記入数】	4

- 特に、自分自身が積極的に課題に取り組むことの大切さやおもしろさをよく理解できてよかったです。  
特に、調べ学習はとても楽しいものでした。
- 虫15匹がけっこう難しいです。
- 虫は生きたままでも提出してよいように改善すべきだと感じた。
- 虫の授業は前期にやりたかったです。

【教員コード】	学び2-14
【教員名】	尾崎 広明

【アンケート数】	22
【意見記入数】	6

- 少人数で講義、実験、発表など幅広い活動ができ、コミュニケーションも取ることができてよかった。
- 発言する際の人数が、2人1組という感じだったが、もう少し人数を増やしてもよかったかもしれない。
- 英語が苦手なので英語の課題はだしてほしくなかった。
- 元素発表用のプリントが英文だったことで、時間をかけて調べ、頭に残りました。
- 実験を通して化学への理解が深まりました。  
化学の元素に関する英文を読む貴重な機会があり、とても勉強になりました。  
また、先生が身近なことで化学に関するお話を下さり、興味深かったです。  
発表では、プレゼンテーション能力やペアの方とのディスカッション能力を身につけられたように思います。  
学びのリテラシー(2)を受講できて良かったです。
- 改善すべき点はない。  
良い授業配分であったと思う。

【教員コード】	学び2-15
【教員名】	後藤 民浩

【アンケート数】	22
【意見記入数】	5

- ホワイトボードが見にくかった。  
それゆえ、先生の説明が全て整理することが難しかった。
- 最初は女子一人なので、少し憂鬱だったが、実験が楽しくて気にならなくなった。  
自分は、ホログラムを詳しく知りたくてこの授業を選択したのもう少し時間をかけて学びたかった
- 講義の種類が多いのはよいが、内容が同じようなものが多かったりするので、色々な選択があればよいと思う。
- もう少し希望した科目の授業を受けさせてほしかった。  
第5希望だと多すぎて、本当に受けたいと思う物を受けられないと思う。
- 興味は持てたが、やはり概念が難しいものだったので、完全には理解できるものではなかった。  
だが、2年以降で教わる専門的分野のさわりの部分だけでも学習できたので良かった。

【教員コード】	学び2-16
【教員名】	大塚 岳

【アンケート数】	17
【意見記入数】	8

- 高校の内容をより深く掘り下げた興味深い内容だった。
- 次も講義がある人にとっては、講義の延長はつらい。
- もっと、自身が希望したものになるようにしてほしいです。
- ○多くの人が初めてやることもあり、それについての解説をつけた方がよいと思った。
- 選択した授業のレベルが高くて行けなかった。
- 今まであまり気にしたことがない点に、重点をおいてあって、新しい考え方が少しできるようになりました。
- 内容が難しかったです。  
題材については、良かったと思います。
- 体験が欲しかった。

【教員コード】	学び2-17
【教員名】	俵山 雄司

【アンケート数】	25
【意見記入数】	12

- 全体的にたのしかったです。
- ポスター発表がいちばんおもしろかったです。いろいろな人としゃべれて、楽しい授業でした。
- ポスター発表楽しかったです。
- 基本的に配付物を読んで討論することが多かったため、より色々な方法で授業が行われたらもっと良かった。色々な人と話をする機会が得られたのでコミュニケーションをたくさんとることができた。
- 事前学習をして、取り組んだレポートや発表だったのでとても有意義な授業でした。
- 最後のポスター作りの時間がなかなか忙しかった。
- この授業を通して、言語に関する問題が分かったり、その問題について考えを深めたりすることができ、よかった。
- ポスターとか書くのが手書きでかなり面倒でした。パワーポイントとかで発表できたらよいと思った。
- 周りの人と会話(相談)をすることが多かった。
- もう少し希望に沿った講義が受けられるとよいと思いました。第5、第6希望は仕方なく書いた人が多いと思います。ただ、この講義も面白かったです。
- グループワークの時間がもう少しあったほうが良い。
- 自分が今まで聞いた事がない、または、体験したことのないような授業だったので、とても新鮮だった。

【教員コード】	学び2-18
【教員名】	相澤 省一

【アンケート数】	35
【意見記入数】	10

- レポートが理系的な内容だったので、もしよければ文系の人には文系向きのレポートを出していただくとよかった。
- 実験の数をより多くした方が良い。パワーポイント発表の時間も欲しかった。
- 色々な分野を学ぶことができるのは良いと思った。
- もっと広い教室の方が良かったかなと思いました。
- もう少しくわしく実験したかった。
- 理系の科目で実験があったが、人が多過ぎて実験しづらかったので、人数を減らした方がよいと思う。
- 文系としては少し難しかったけれど、新しい知識をもてました。
- 教室での水の話は、もっと簡結にしたほうが、伝わりやすいかもしれない。
- 実験、楽しかったです。レポートに対する先生のコメントは参考になりました。
- 普段も、これからもできないような実験ができて楽しかった。レポートにも文系・理系に違いがあることが知られて良かった。



【教員コード】	学び2-19
【教員名】	近藤 浩子

【アンケート数】	25
【意見記入数】	7

- グループワークがほとんどであり、その中で学ぶことが多く、とても自分のためになる授業であった。  
また、他学部ともコミュニケーションをとれる良い機会であり、楽しかった。
- ストレス1つに目を向けても本当に様々であることを感じた。  
その上で人を理解することは大変だと思ったが、今回の授業のおかげでより理解が深まり自信がついたように感じられて良かった。
- グループをテーマごとに作る点は問題ないと思うが、中での男女比がまちまちな点を改善できたらなお良いのではないか。  
自分たちの意見で進む講義なので、男女の意見それぞれがあることも大切ではないか。  
また、欲を言えば、学部学科も混ぜることでより多くの意見交換ができると思う。
- より様々な分野の授業(スポーツ科学など)を展開したらおもしろいと思った。
- 医療職を目指す身として今回受けられたものは将来の自分にとって大きなプラスになると思う。  
グループワークの仕方、プレゼンテーションの効果的なやり方も同時に学べてよかったと思う。  
グループワークをするからといってそのまま放置ではなく随時まわってきてくださったので、助かった。
- 自分の希望に沿った科目が選べると尚良い。  
授業の内容について、事前の説明がより充実していると、もっと選びやすくなると思います。  
先生がとても優しく、授業は楽しくて良かったです。
- とっても楽しく授業に臨めました。  
もう少し授業数の多い中で取り組みたいと思うこともありましたが、とてもためになった授業だったと感じています。  
ありがとうございました。

【教員コード】	学び2-21
【教員名】	金澤 貴之

【アンケート数】	25
【意見記入数】	9

- 最初雑談のような話の進め方が多く、前期の教員担当授業に比べて不安を抱いたが、学生の発表の過程では大変良く、受けて良かったと思える授業だった。
- 良かったと思います。  
来年もすべき。
- 本講義を実際に受け、他方面に生かせる知識も身につけることができ、非常に良かったです。
- この授業をとれて良かったです。
- グループワークでは、班員の学部がバラバラのため、授業以外では全員が集まることができず、スライド作りや原稿作りが大変だったので、もう少し多めに、授業時間でのグループワークの時間をとってくださるとありがたかったかなあとと思います。
- 誰かが失敗などしても、「大学生にもなって、こんなこともできないのか」ってなるのではなく、改善点なども丁寧に教えて下さったので、とてもわかりやすかったし、学ぶことが多かったです。  
学びのリテラシー2は、希望制であり、実際、自分は取りたかった授業を取れたわけではないけれど、この授業を受けられて良かったと思っています。

- 前半は、講義やテイカー講習が中心で、後半は、グループ発表に向けての作業だった。グループワークでは、他学部の学生がバランスよくなっていたので、良いグループワークをすることができた。
- グループ学習や発表など教養などでは体験できたのとテイカーとしての体験ができたので良かった。しかし希望が通ってとれた科目ではなかったためその点は残念だった。
- とても楽しかった。毎回授業が楽しみだった。悩んでいたりしたことが、この授業で解決できた。

【教員コード】	学び2-22
【教員名】	田中 麻里

【アンケート数】	15
【意見記入数】	4

- 大学のある「群馬」についての地域性を深く知ることができた。
- 私は一体何を得たのかは、後日発見できると思う。
- 何かを特別得たという実感はない。
- 大学内にかぎらず、小学生と関わることができ、よかった。

【教員コード】	学び2-23
【教員名】	永由 徳夫

【アンケート数】	19
【意見記入数】	19

- 書道に興味を持つことができ、とても楽しい授業でした。もう少し、教室があたたかいとうれしいです。
- 書道は普段はなかなかやる機会がなく、久しぶりにやるととてもたのしかったです。
- 先輩方や、他学部の人たちとの交流ができて良かったです。楽しい授業をありがとうございました。
- 授業の内容も充実していて楽しかった。硬筆も毛筆も両方丁寧にやるのは初めてだったので良い機会だった。ただ、寒くて手が思うように動かなかった。
- 教室の環境は比較的よかったと思います。テストが思ったより難しく、配点も大きい気がしました。もう少しテスト勉強に時間をさくため、一週くらい後だと嬉しかったです。それ以外の不満点はありません。半年間とても楽しい授業でした。ありがとうございました。
- 最初の道具が高い気がしました。
- 特にありません。充実した授業でとてもたのしかったです。
- とても分かりやすい授業で楽しく書道を学ぶことができました。
- 道具の値段が高いので、もう少し低くしてほしい。
- 先輩方が優しくかった。
- テストが難しいです。もっと範囲を絞って出提してほしいです。
- 書道は思ったよりも楽しく興味をもてる内容でした。グループの人数も適当で良い環境で臨むことができました。

- 試験が難しすぎだった。  
学部・専攻関係ないグループだったのでとても楽しかった。
- 書道はすごく楽しくて、いつも授業を楽しみに教室に向かいました。  
他学部の人ともすごく仲良くなれて良かったです。  
今日清書を行いました、せっかく清書はきれいに書けたのに、自分の名前だけが、楷書ですし、せっかくの作品が自分の名前の文字で価値が下がってしまうような気がしましたので、自分の名前のお手本もあれば良いなあと思います。
- 足がとても寒かった。  
落ち着いた空間で集中できた。
- 教室が寒かったです。
- ○普段、書道をやる機会はないので授業でできて楽しかったです。  
○各テーブルに先輩がついてくださっていたので、不明な点を気軽に聞くことができたし、実際に書いているところを隣でみれたりして、とてもよかったです。  
○エアコンを入れないと寒いけど、入れると墨が乾いてしまうので、どっちにしても大変だと思いました。
- テストが難しかった。
- 高崎まで写真展を見に行くのは、時間と手間がかかった。

【教員コード】	学び2-24
【教員名】	西蘭 大実

【アンケート数】	29
【意見記入数】	3

- 現代の食と環境がとてもよかった。  
来年もぜひ行うべきだと思う。
- 現代の食と環境を通じパワーポイントを使った発表の構成や、方法などがよくわかった。
- 多少は興味をもっているしらべていなかったことを調べて知るきっかけができたのでよかったです。

【教員コード】	学び2-25
【教員名】	松沼 美穂

【アンケート数】	24
【意見記入数】	1

- 良かったです。

【教員コード】	学び2-26
【教員名】	結城 恵

【アンケート数】	15
【意見記入数】	1

- とてもためになりました。

【教員コード】	学び2-27
【教員名】	山下 孝之

【アンケート数】	25
【意見記入数】	6

- 興味のあることについて学べてよかったが、ときどき難しすぎる内容もあった。
- パワーポイントを使った講義だったが、先生によっては、レジメがある人ない人があった。  
字が小さくて見えなかったり、次のスライドに変わるのがはやかったりするのでレジメがあったほうが、より理解できると思った。
- 専門すぎること高校などでとってなかった科目の説明をもっとわかりやすくしてほしい。
- プロジェクターのみだと切り替えが早くて内容が頭に入ってこないため、レジメが必要だと感じた。
- とる授業によって課題や充実度の差が大きいと感じました。
- 医療系の分野に興味があっても、なかなか講義をうける機会がなかったため、今学期この講義をうけることができ、本当によかった、と思うし、興味をもてることがふえました。

【教員コード】	学び2-28
【教員名】	蒲 貞行

【アンケート数】	16
【意見記入数】	3

- 「生命現象」について演習を行っていったが、個人での活動が多かったので、グループなどを作り、自分の意見に対して他者の意見も聞けるような機会があるとさらに深まるのではないかと感じました。
- 少人数で授業を展開することにより、教員との距離が近く感じ、積極的に参加することができたと思う。
- ホチキスが突っ出していて危なかった。

【教員コード】	学び2-29
【教員名】	上宮 英之

【アンケート数】	19
【意見記入数】	1

- 前期に行うべきだと思う。

【教員コード】	学び2-31
【教員名】	濱元 信州

【アンケート数】	15
【意見記入数】	1

- 実習が多い講義だったため、学んだことのアウトプットにつながり知識や、実体験の中で習得するノウハウを確得できたと思います。

【教員コード】	学び2-32
【教員名】	大和 啓子

【アンケート数】	16
【意見記入数】	10

- 留学生の方々と沢山話す機会があつてとても良かったし、多くのことに気付くことができたので受講して良かったです。
- コミュニケーション力、プレゼン力をきたえあげられる素晴らしい授業でした。
- とても分かりやすく楽しく興味の持てる授業だった。
- 希望した科目ではありませんでしたが、とても楽しかったです。
- 留学生とたくさん交流ができて、楽しかったし、とても勉強になることばかりだった。もっと日本について知るべきなのは日本人の方ではないかと思った。
- 留学生と話す機会が普段ないので良かった。授業案内に書いてあった事と少しイメージが違った。
- とても楽しく勉強になる授業であった。基本的なプレゼンの仕方レポートの書き方だけではなく、留学生から学ぶ事があつたりと、素晴らしい授業だと思った。
- 日本人学生とも話せない。  
■や留学生をやというところであったが、留学生と上手にコミュニケーションする環境が■えられていたように思う。
- 改善すべき点も特に見つからず、よく練られた楽しい授業だと感じました。
- 自分の知らないことをたくさん知れて、面白かった。

【教員コード】	学び2-33
【教員名】	柿本 敏克

【アンケート数】	20
【意見記入数】	16

- グループワークの時間が多く、自分の意見や他人の意見が取り入れられる機会に恵まれた自分が楽しくディスカスすることができたし、ただ単に90分間教授がつまらない話を喋り続ける講義より全然おもしろく、自分の身になる講義だった。

- 第1志望ではなかったのだが、人間関係についての発表を聞いて、それについて討論することは面白かったし、非常にためになった。  
特に先生の意見は、自分達が考えつかなかったような意見を言ってくれたりしてなるほどなどと思う機会が多かった。  
ただ聞くだけの授業よりも有意義なものだった。
- 第6希望まで提出したうち、第6希望が通りました。  
楽しかったので結果としてはよかったです、どのように抽選を行っているのか気になりました。
- よく知られていることから専門的なことまで、人間関係に関する事を学ぶことができた。
- この授業では討論を多く行いました。  
私が一番得られたのはパワーポイントを使った発表の仕方です。  
今後も生かしていけそうです。
- まず希望するものと程遠いものが選択されたことに対してどうかと思った。  
周りの子もそのような子が多かったののでしっかり学びたいことを学べるようにしてほしい。
- 先生が私たちに考える機会やディスカッションする機会をくれてとても良い経験になりました。
- 少人数で、講論も活発で、とてもよかったと思う。
- 第1希望ではありませんでしたがパワーポイントを使ったプレゼンテーションの作り方を学べる良い機会になりました。  
この授業で良かったと思います。
- たくさんコミュニケーションをとって意見交換できて良かった。
- プレゼンテーション後のグループワークに先生も参加していた点が良かった。
- 事前学習をしっかりとやる事で授業内容をよりよいものとする事ができた。  
その一方、一部、発表を聞く姿勢をよくした方が良いと自分の反省点であった。
- 普段、人間関係というものについて深く考えたことはなかったのですが、自分の人間関係を見つめ直す良いきっかけになりました。
- 自分の第一希望の授業ではありませんでしたが、多くの発見があつて楽しかったです。
- この授業では形態的に他の学生や教員とのコミュニケーションが多くとれるので非常に有意義なものであった。  
内容的にも濃いもので、この授業で学んだことは日常生活で活かすことができた。
- 毎回の発表テーマについてディスカッションの時間が設けられていたため、他の学生と意見を交換し合うことができ、有意義なものであった。

【教員コード】	学び2-34
【教員名】	前田 亜紀子

【アンケート数】	22
【意見記入数】	1

- 科目の決定方法がよく分からない。  
自分が第一志望にしていたが受講できなかった科目が第二志望にしていたが受講できた人がいた。  
科目の決定方法を平等・明確にすべきである。

【教員コード】	学び2-35
【教員名】	豊村 暁

【アンケート数】	10
【意見記入数】	2

- 昭和キャンパスまで週一回行くのは正直大変でした。
- 予定がうまく合わない場合が多かった。

【教員コード】	学び2-36
【教員名】	松元 宏行

【アンケート数】	21
【意見記入数】	7

- 人体の構造や、ほ乳類の誕生などをビデオで楽しく学ぶことができた。
- 自分は希望のものをとれたのでよかったが、とれなかった人は学ぶ意欲を失ってしまわないかな、と思った。
- 普段自分では観ないビデオを観ることができ、そこから色々な新しい知識を得ることができたので良い機会でした。
- ビデオがおもしろかった。
- 教員とコミュニケーションをとる場が多く、内容にそった面白い授業であった。
- 講義で見たDVDは知らないことが多く入っているもので、新しいことを得られる講義時間はとても有意義なものであった。
- 未知のことがここまであるとは思わなかったので知ることができてとてもよい勉強になった。

【教員コード】	学び2-37
【教員名】	牧原 功

【アンケート数】	21
【意見記入数】	1

- 日常で使っている日本語を改めて考え直すことができ、楽しかった。

【教員コード】	学び2-38
【教員名】	白倉 賢二

【アンケート数】	36
【意見記入数】	7

- 教養科目にしては専門的すぎると思った。
- 科目によって、難易度の差がありすぎる。希望していない科目かつ難しい科目にあたった場合に不公平さが大きいと、各教員に統一させるべきであると考えた。
- 自分が受講したのは別の学びのリテラシー(2)を担当する先生方とお話した時、学びのリテラシーの趣旨を知らない先生がほとんどでした。
- 最後に一回のテストよりも前期の「身近な医学1」のように各講義毎の小テストの方が良いと思う。
- 医学についての知識が増えた。これからの生活で役立つと思う。
- 「学びのリテラシー」という授業趣旨にはそっていませんでしたが、医学に関する話を興味をもって聞くことができました。
- それぞれの学びのリテラシーで、“大変さ”が異なるのは、少し疑問があった。出席点、試験の有無等、そろえてほしいと感じた。

【教員コード】	学び2-39
【教員名】	岩永 健司

【アンケート数】	10
【意見記入数】	10

- 討論が活発ではなかったので、学生と教員両方に討論を行いやすい工夫が必要であると思いました。
- 討論があまり活発に行われなかったり、意見を言う人が固定化されつつあった気がした。
- 理系の学部の自分が文系科目の内容でレポートを書くのがとても新鮮でした。発表の仕方も個人の自由が優先されていて、とても有意義だったと思います。気になった点は、発表20分、質疑応答20分の計40分の時間をあまり正確に計っていませんでした。2人で発表のときに、後半の人が長すぎたり短すぎたりしたのが気になりました。

- はじめはレポートの書き方やどんな風に考察すればいいのかと戸惑いもありましたが、ここでは他の学生と協力して一緒に参考資料を探したり、先生がアドバイスして下さったので未熟なりにレポートを発表することができました。  
ありがとうございました。
- 今回私が受けた授業は、学びのリテラシーの主旨に適したよい授業であったと思う。改善すべき点はほとんどないと思うが、グループワークがなかったのは少しばかり気がかりではある。
- 質疑応答が1対1であることが多かったので、その質疑に対して他の人が話し合いに参加してもおもしろいのではないかと思いました。
- よく知らない時代の比較考察発表を理解するのが難しかった。
- 高校で歴史を選択していない学生に対し、もう少し配慮した方がよいのではないかと思った。
- 自分の専門外である科目であり、納得のいくレポートにはいたらなかったが、「学びのリテラシー」という点では、多くのことを学べたと思う。  
レポートや発表のしかたについて、今後に生かしていきたいと思う。
- 人数・教室の規模等は授業内容とのつり合いがとれており、適切であったと考える。少し残念に思ったことは、もっと学生同士の議論が盛んに行われるという期待と実際の授業の様子とが多少異っていたことである。  
あまり議論が発展することなく、仕方なく先生が発言・批評をすると学生が聞いているだけ、という流れが多かったように感じた。  
当然、自分も参加学生としてもっと積極的な発言が必要であったことは言うまでもなく、責任の一部が自分にあることは認めざるをえない。  
初対面の人同士、なかなか議論しにくいという点はあると思うが、もう少し積極性のある学生が集うと、全くちがった様子の授業になると考えた。

【教員コード】	学び2-40
【教員名】	江森 英世

【アンケート数】	16
【意見記入数】	7

- 普段、体験できないことを味わうことができました。  
とても素晴らしい授業でした。  
自分の中で、ベスト・ティーチャー賞を与えたい先生です。  
他の先生も江森先生のスタンスを取り入れていただきたいです。
- 楽しい授業でした。  
今後も続けて行って欲しいと感じました。
- 改善すべき点などない。  
この講義は江森教授が群馬大学にいる限り、続けていくべきだ。  
机の上の勉強よりも、学述などよりも、もっともっと大切なことを学ぶことができた。  
最後に、数ある大学の講義の中で、本講義は最も教養を深め、人生を豊かにしてくれる講義であると断言する。
- 有意義な時間をありがとうございます。  
これからの人生の中でこの授業をふと思い出すと思います。
- 男女比の差が大きかった。
- 良い授業だったと思う。  
来年もやって欲しい。
- この授業を取って良かったと思う。  
後は、先生に伝えました。

【教員コード】	学び2-41
【教員名】	徳永 文稔

【アンケート数】	38
【意見記入数】	10

- 資料配布の有無については全講義を通して決めてほしい。  
資料があるかないかで、ノートを取る量が変わってくる。
- 希望したところに配属されなかったのが残念だった。  
結局第4希望に配属されてしまった。  
興味のない講義内容だったのでつまらなかったです。
- 専門用語ばかりというわけではなく、きちんと基礎的なところの説明が入っていてとても助かった。
- 後ろの方で私語をしている学生がいて、うるさかった。  
先生に注意してもらいたかった。
- スライドに写真があって見やすかった。
- 様々な分野の研究が知れて良かった。
- 授業中の学生の私語が気になりました。
- 自分の勉強していることがわかりやすく説明されていて、有意義だった。  
とくに改善点などはない。
- 学びのリテラシー(1)との連同性をまったく感じなかったが、授業自体は毎回、興味をそそられ、充実していたと思う。
- 「細胞から病気を考える」という名前が授業に合っていないような気がした。

【教員コード】	学び2-43
【教員名】	小竹 裕人

【アンケート数】	8
【意見記入数】	2

- 最初は人数が少なくて不安だったが、意見を出し合うには調度よい人数だと思った。  
他学部の人とフィールドワークに出たりコミュニケーションをとることもできたので人の輪がくれた。  
新聞を読み、もっと世の中について現状を把握しようと思った。  
教室は寒かった。
- 半年間ありがとうございました。

【教員コード】	学び2-44
【教員名】	新井 康平

【アンケート数】	7
【意見記入数】	1

- 思ったよりおもしろかったです。

【教員コード】	学び2-46
【教員名】	岩永 喜久子

【アンケート数】	17
【意見記入数】	3

- ・自分の生活に活用できるいい内容だった。
- ・この講義で学んだこと必ず役に立つものばかり。  
本当よかった
- 楽しかったです。  
ありがとうございました。



【教員コード】	学び2-47
【教員名】	篠崎 博光

【アンケート数】	19
【意見記入数】	17

- ・もう少し男女比を整えてほしかった。  
・講義形式の授業をもう少しやりたかった。
- パワーポイント等で発表を行うことはとても勉強になるが、もう少し作成の時間を取ってほしいと思う。  
また、自分のパソコンを持って来ることができない人もいて授業の中で行うのには限りがあるので、グループでの発表は良いと思った。  
個人だと環境面で差ができてしまう。
- もう少し講義形式のものがあっても良いと思った。  
ディベート形式の授業だったが、グループが固定だったので、他の人と話す機会が少なかったと感じた。  
ディベートや発表の内容を考えるのには適切な課題や論点があげられた。  
私は学リテの第5希望が通ったのでちょっと不満なところもありました。
- 学びのリテラシーで、これから社会に出ていくうえで、これから医療職に就こうとするうえで、知っておいて絶対に損のない、知っておかなくてはいけないことを学ぶことができたのが良かったと思います。
- 学びのリテラシー(1)よりも、専門的な内容で、他学部の学生と交流することができたので良かったと思う。  
グループワークが主体であり、グループ内討論を重ね、パワーポイントでスライドを作成し全体発表という形式であったが、専門的内容ならではの講義をもう少し増やしてほしいと思った。  
学びのリテラシーの趣旨とは少しずれてしまうかもしれないが、特別な知識を吸収するのも同時に必要なことで、その方が授業がより楽しくなると思う。
- もう少し先生自身の体験・知識などを知る機会があったら良かったなと思いました。  
でも、生徒同士でたくさん話し合うことができ得るものもたくさんあったので、結果的には受けて楽しい授業でした。  
パワーポイントの使い方にも少し慣れることができ良かったです。
- 司会の人を立てることで、話し合いをより活発化させることができたのではないかなと思う。  
毎回各グループが進捗状況や話し合いでまとまった意見などを発表することにより、他のグループの意見を聞くことができたり、他のグループと自分のグループとの比較をすることができ、よかったのではないかなと思う。
- グループワークは良かったが、専門的な内容をもっと聞けると良かった。
- 他の学部・学科の人と関ることのできる良い機会だった。
- シラバスの記述があいまいである。  
どのように講義を行うのか(調べて発表をすることが中心か構義形式が中心か)を具体的に書いてほしい。
- 討論が活発になるための工夫がもう少しあると、やりやすかった。
- 講義が少なく、グループワークが多かったが、その分コミュニケーションをとる機会が多くて、司会や書記になることがあったので、グループワークの進め方なども学べてよかった。
- 希望する授業を取ることができ、理解を深めたいと思っていた分野について学習することができた。  
普段の授業は同じ学部学科の人と受けることが多く、たとえ違う学部の人と一緒に授業を受けていても話すことはなかったので、その点で学びのリテラシー(2)はとても有意義なものだったと思う。

- グループワークを中心にすることで、学生が主体的に参加できた。  
また、円滑な討論にするために意欲や協調性をもって取り組めた。
- ディベート中心の講義であったが、教授が現場で実際に行っていることや教授のこの学びに関する経験について、なども聞きたかった。
- 講論中心の授業で他の学生と多くのコミュニケーションをとれたが、自分の調べたことが正しいのか疑問をもったり、なかなか最新の情報がさがせなかったりということがあったので、先生の知識も少し欲しかった。
- 第1希望の科目を受講できた。  
具体的な授業の内容については知らないまま選んだのだが、グループワーク形式によってより知識や理解が深まったし、友人関係も発達し、非常に良い経験となった。

【教員コード】	学び2-48
【教員名】	平井 光博

【アンケート数】	11
【意見記入数】	2

- 実験ができて楽しかった。  
他の授業よりも、先生のペースで進められていく授業だったので良かった。
- もっと実験を行いたかった。

【教員コード】	学び2-49
【教員名】	京免 徹

【アンケート数】	14
【意見記入数】	5

- 志望届は第3希望くらいまでの表記にしてほしい。
- 今回の授業に限って言えば、もっと班同士の意見交換をすべきだと思う。  
そうすればより結晶を作る効率が上がると思う。
- 他の授業と時間が被らないよう時間割を作ってほしい。
- 自分の興味のあることが選択できるので楽しかった。  
意欲的に行動できたと思う。
- 第1希望のものではなかったが、楽しい授業でよかった。  
色々な学部の生徒とも交流できてよかった。

【教員コード】	学び2-50
【教員名】	高橋 浩

【アンケート数】	25
【意見記入数】	8

- 学びのリテラシー(2)がなければ、知ることのないであろう内容について学ぶことができて有意義であった。
- 好きな音楽について調べることができて楽しかったです！
- ちょっと寒いので暖かくしてほしい
- 教室の机の真ん中に蛍光灯があつてつい立てのようになってしまつてグループワークが少ししづらかったと思います。  
出来れば他の教室でやりたかったです。
- 専門用語が出てきすぎて分からない時が多々あった
- グループワークの際、机上の棚が邪魔になってやりにくかった。
- 後半はテーマ別によってグループ学習を行い、調査やプレゼンのやり方を学ぶだけでなく、他学部の人とも交流できたので良かったです。
- 講義を受けているような感じでした。  
学生間での意見の話し合いが少なかったと思います。

【教員コード】	学び2-51
【教員名】	野田 岳人

【アンケート数】	25
【意見記入数】	5

- Good Job !
- 後期は様々な選択肢があつてすばらしかった。他の授業もぜひ受けたいと思った。
- 興味を持って講義に臨めた
- 発表機会を複数回に分け、「人の前で発表する機会」を増やすべきであると考えた。
- 中間テストとかぶって、じっくり発表の準備ができなかった。もう少し前もってやればよかったと思った

【教員コード】	学び2-52
【教員名】	小林 英樹

【アンケート数】	18
【意見記入数】	8

- 論文の書き方はこの先も使うはずなのでとても為になった。グループワークもあって良かったと思う。
- グループワークがもうすこしすくない人数の方が良かった。人が多くなると、それだけしゃべらなくなる人が増えたように思えた。
- 論文を一から説明してくれたので、とても分かりやすかったです。日本語を分析するのは難しいけど様々な法則がありおもしろかったです。
- グループワークがあつたり、先生も研究テーマを決める際に一人ひとりにアドバイスをしてくださってコミュニケーションをとる機会が多くあつた。講義でよかったと思う。これからレポートを書くときや卒論を書くときに多いに役立つことを勉強できたと感じている。黒板がたくさんある教室だったので、グループで分かれて議論するときや発表するときの効率がよかつたように思う。
- 私は理系であるから、レポート、論文の形式が学びのリテラシー(1)で習ったものと異なっていた。その点にも触れてほしかった。
- そのつど、例がたくさんでてくるのがおもしろかつた。理解度を高めてくれた。
- 論文の書き方がまだまだわからない事ばかりでしたが、論文の進め方、参考文献の表記の仕方などとても参考になりました。
- とても楽しく、おもしろい授業だった。日本語がもっと好きになれると思う。来年も開講してほしい。後輩にも勧めたい。

【教員コード】	学び2-53
【教員名】	日置 英彰

【アンケート数】	37
【意見記入数】	10

- 人によって化学の内容を書いてある人もいるが科学について書いている人もいるので人によってスライドの内容が濃くなりすぎたり薄かつたりする人もいた。
- この、授業では、個人で発表を行ったが、そうすると、他の生徒との関わりが薄いままになつてしまうように感じた。自分が医学科1名だけで、他の学部学科ごとにかたまっているのあまり人と関わらない授業だった。発表については、個人で行つたため、レベルの差を感じた。小人数のグループを、作つて、そのグループで発表を行つても良いと思う。

- 他のクラスはグループワークが多いのに対して1人でのプレゼンテーションで不安だったが、やってみると良い経験になりこの授業を受けて良かったと思った。プレゼンテーションにとっても興味を持つ良い機会になった。ありがとうございました。
- とても興味を持ってとり組むことができた。全体的にみて飽きることはなかったと思う。
- 他の学生のプレゼンが予想を上回るほど興味深く、勉強になりました。毎週の楽しみだったので、来年も続けて欲しいと思います。
- このままの状態で大丈夫だと思いました。
- 質疑応答をもっとするため発表時間を10分にしてほしいと思いました。
- 発表することは良かったなと思った。
- 他の人のプレゼンを聞くことができたので、これから自分のプレゼンにも生かせるよい機会となりました。
- 講義の多い大学の中で、自主的にテーマを決め、調べてパワーポイントで発表する機会を作ることができたので良かったと思った。

以下の質問項目について、該当するものを選択してください。

設問1 所属学部

設問2 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)についてどう感じましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	30	40	13	2	3	88
2	24	37	9	2	1	73
3	12	16	6	6	3	43
4	16	44	14	5		79
5	121	190	62	18	6	397
総 計	203	327	104	33	13	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	30	34.1	40	45.5	13	14.8	2	2.3	3	3.4	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	24	32.9	37	50.7	9	12.3	2	2.7	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	12	27.9	16	37.2	6	14.0	6	14.0	3	7.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	16	20.3	44	55.7	14	17.7	5	6.3		0.0	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	121	30.5	190	47.9	62	15.6	18	4.5	6	1.5	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	203	29.9	327	48.1	104	15.3	33	4.9	13	1.9	680	100.0

\*「1」:大変役に立った 「2」:少し役に立った 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり役に立たなかった 「5」:役に立たない

設問3 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	26	38	19	4	1	88
2	12	43	11	6	1	73
3	7	19	13	3	1	43
4	9	45	17	6	2	79
5	70	204	84	32	7	397
総 計	124	349	144	51	12	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	26	29.5	38	43.2	19	21.6	4	4.5	1	1.1	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	12	16.4	43	58.9	11	15.1	6	8.2	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	16.3	19	44.2	13	30.2	3	7.0	1	2.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	9	11.4	45	57.0	17	21.5	6	7.6	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	70	17.6	204	51.4	84	21.2	32	8.1	7	1.8	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	124	18.2	349	51.3	144	21.2	51	7.5	12	1.8	680	100.0

\*「1」:大変役に立った 「2」:少し役に立った 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり役に立たなかった 「5」:役に立たない

設問4 事務窓口(各学部)の対応についてはどう感じましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	9	36	29	7	7	88
2	24	31	14	3	1	73
3	9	12	12	9	1	43
4	12	37	12	16	2	79
5	85	155	125	21	11	397
総 計	139	271	192	56	22	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	9	10.2	36	40.9	29	33.0	7	8.0	7	8.0	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	24	32.9	31	42.5	14	19.2	3	4.1	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	20.9	12	27.9	12	27.9	9	20.9	1	2.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	12	15.2	37	46.8	12	15.2	16	20.3	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	85	21.4	155	39.0	125	31.5	21	5.3	11	2.8	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	139	20.4	271	39.9	192	28.2	56	8.2	22	3.2	680	100.0

\*「1」:大変役に立った 「2」:少し役に立った 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり役に立たなかった 「5」:役に立たない

設問5 事務窓口（学生センター）の対応についてはどう感じましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	9	33	33	5	8	88
2	15	32	14	8	4	73
3	10	13	12	5	3	43
4	10	32	19	15	3	79
5	97	156	95	33	16	397
総 計	141	266	173	66	34	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	9	10.2	33	37.5	33	37.5	5	5.7	8	9.1	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	15	20.5	32	43.8	14	19.2	8	11.0	4	5.5	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	10	23.3	13	30.2	12	27.9	5	11.6	3	7.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	10	12.7	32	40.5	19	24.1	15	19.0	3	3.8	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	97	24.4	156	39.3	95	23.9	33	8.3	16	4.0	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	141	20.7	266	39.1	173	25.4	66	9.7	34	5.0	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問6 教養教育GB棟1階の学習スペースはよく利用しましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	7	24	6	26	25	88
2	1	21	3	22	26	73
3	9	17	4	9	4	43
4	11	34	3	11	20	79
5	54	116	34	96	97	397
総 計	82	212	50	164	172	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	7	8.0	24	27.3	6	6.8	26	29.5	25	28.4	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	1	1.4	21	28.8	3	4.1	22	30.1	26	35.6	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	20.9	17	39.5	4	9.3	9	20.9	4	9.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	11	13.9	34	43.0	3	3.8	11	13.9	20	25.3	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	54	13.6	116	29.2	34	8.6	96	24.2	97	24.4	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	82	12.1	212	31.2	50	7.4	164	24.1	172	25.3	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問7 学生支援体制についてはどう感じましたか。

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	8	33	37	7	3	88
2	6	26	34	5	2	73
3	3	11	23	6		43
4	5	33	35	5	1	79
5	55	137	184	16	5	397
総 計	77	240	313	39	11	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	8	9.1	33	37.5	37	42.0	7	8.0	3	3.4	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	8.2	26	35.6	34	46.6	5	6.8	2	2.7	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	3	7.0	11	25.6	23	53.5	6	14.0	0	0.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	5	6.3	33	41.8	35	44.3	5	6.3	1	1.3	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	55	13.9	137	34.5	184	46.3	16	4.0	5	1.3	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	77	11.3	240	35.3	313	46.0	39	5.7	11	1.6	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問8 入学時に行った全学オリエンテーション(学園生活, 教養教育, 図書館, パソコン利用, 健康支援総合センター, 教務システム操作説明)についてどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	22	37	17	8	4	88
2	18	41	6	6	2	73
3	9	21	5	8		43
4	20	38	10	11		79
5	125	176	67	21	8	397
総計	194	313	105	54	14	680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	22	25.0	37	42.0	17	19.3	8	9.1	4	4.5	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	18	24.7	41	56.2	6	8.2	6	8.2	2	2.7	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	20.9	21	48.8	5	11.6	8	18.6		0.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	20	25.3	38	48.1	10	12.7	11	13.9		0.0	79	100.0
理工学部	0	0.0	125	31.5	176	44.3	67	16.9	21	5.3	8	2.0	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	194	28.5	313	46.0	105	15.4	54	7.9	14	2.1	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問9 授業のシラバスはよく利用しましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	9	54	17	8		88
2	12	56	5			73
3	13	20	8	2		43
4	11	56	11	1		79
5	50	263	73	11		397
総計	95	449	114	22		680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	9	10.2	54	61.4	17	19.3	8	9.1		0.0	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	12	16.4	56	76.7	5	6.8		0.0		0.0	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	30.2	20	46.5	8	18.6	2	4.7		0.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	11	13.9	56	70.9	11	13.9	1	1.3		0.0	79	100.0
理工学部	0	0.0	50	12.6	263	66.2	73	18.4	11	2.8		0.0	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	95	14.0	449	66.0	114	16.8	22	3.2	0	0.0	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問10 入学時に配付した教養教育の「授業案内」「履修手引」等は役立ちましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	49	30	6	2	1	88
2	41	28	2	2		73
3	19	18	5	1		43
4	34	35	6	4		79
5	170	171	38	15	3	397
総計	313	282	57	24	4	680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	49	55.7	30	34.1	6	6.8	2	2.3	1	1.1	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	41	56.2	28	38.4	2	2.7	2	2.7		0.0	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	19	44.2	18	41.9	5	11.6	1	2.3		0.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	34	43.0	35	44.3	6	7.6	4	5.1		0.0	79	100.0
理工学部	0	0.0	170	42.8	171	43.1	38	9.6	15	3.8	3	0.8	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	313	46.0	282	41.5	57	8.4	24	3.5	4	0.6	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問11 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	17	43	20	5	3	88
2	21	39	8	4	1	73
3	8	17	8	6	4	43
4	13	43	16	6	1	79
5	89	202	62	34	10	397
総計	148	344	114	55	19	680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	17	19.3	43	48.9	20	22.7	5	5.7	3	3.4	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	21	28.8	39	53.4	8	11.0	4	5.5	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	18.6	17	39.5	8	18.6	6	14.0	4	9.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	13	16.5	43	54.4	16	20.3	6	7.6	1	1.3	79	100.0
理工学部	0	0.0	89	22.4	202	50.9	62	15.6	34	8.6	10	2.5	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	148	21.8	344	50.6	114	16.8	55	8.1	19	2.8	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

以下の授業科目および学部別科目について、履修してみてどう思いましたか。

設問12 学びのリテラシー（1）

区分	1	2	3	4	5	総計
1	43	35	8		2	88
2	12	43	4	11	3	73
3	12	18	7	3	3	43
4	15	39	15	7	3	79
5	94	201	61	25	16	397
総計	176	336	95	46	27	680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	43	48.9	35	39.8	8	9.1	0.0	2	2.3	88	100.0	
社会情報学部	0	0.0	12	16.4	43	58.9	4	5.5	11	15.1	3	4.1	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	12	27.9	18	41.9	7	16.3	3	7.0	3	7.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	15	19.0	39	49.4	15	19.0	7	8.9	3	3.8	79	100.0
理工学部	0	0.0	94	23.7	201	50.6	61	15.4	25	6.3	16	4.0	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	176	25.9	336	49.4	95	14.0	46	6.8	27	4.0	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問13 学びのリテラシー（2）

区分	1	2	3	4	5	総計
1	28	34	12	9	5	88
2	21	37	5	7	3	73
3	8	15	8	7	5	43
4	11	37	19	8	4	79
5	104	162	80	35	16	397
総計	172	285	124	66	33	680

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	28	31.8	34	38.6	12	13.6	9	10.2	5	5.7	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	21	28.8	37	50.7	5	6.8	7	9.6	3	4.1	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	18.6	15	34.9	8	18.6	7	16.3	5	11.6	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	11	13.9	37	46.8	19	24.1	8	10.1	4	5.1	79	100.0
理工学部	0	0.0	104	26.2	162	40.8	80	20.2	35	8.8	16	4.0	397	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	172	25.3	285	41.9	124	18.2	66	9.7	33	4.9	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない



設問14 英語

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	16	41	19	7	5	88
2	11	41	7	11	3	73
3	9	15	11	4	4	43
4	12	38	20	7	2	79
5	98	164	77	33	25	397
総 計	146	299	134	62	39	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	16	18.2	41	46.6	19	21.6	7	8.0	5	5.7	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	11	15.1	41	56.2	7	9.6	11	15.1	3	4.1	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	20.9	15	34.9	11	25.6	4	9.3	4	9.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	12	15.2	38	48.1	20	25.3	7	8.9	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	98	24.7	164	41.3	77	19.4	33	8.3	25	6.3	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	146	21.5	299	44.0	134	19.7	62	9.1	39	5.7	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問15 情報

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	25	42	14	2	5	88
2	27	36	6	3	1	73
3	8	14	10	7	4	43
4	17	42	15	2	3	79
5	93	192	65	34	13	397
総 計	170	326	110	48	26	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	25	28.4	42	47.7	14	15.9	2	2.3	5	5.7	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	27	37.0	36	49.3	6	8.2	3	4.1	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	18.6	14	32.6	10	23.3	7	16.3	4	9.3	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	17	21.5	42	53.2	15	19.0	2	2.5	3	3.8	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	93	23.4	192	48.4	65	16.4	34	8.6	13	3.3	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	170	25.0	326	47.9	110	16.2	48	7.1	26	3.8	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問16 就業力（理工学部・社会情報学部のみ回答）

区 分	1	2	3	4	5	(空白)	総計
1	1		1		1		85
2	10	38	14	7	4		73
3	1		2				40
4							79
5	89	173	78	38	19		397
総 計	101	211	95	45	24	204	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	85	96.6	1	1.1	0.0		1	1.1		0.0	1	1.1	88	100.0
社会情報学部		0.0	10	13.7	38	52.1	14	19.2	7	9.6	4	5.5	73	100.0
医学部医学科	40	93.0	1	2.3	0.0		2	4.7		0.0		0.0	43	100.0
医学部保健学科	79	100.0		0.0	0.0			0.0		0.0		0.0	79	100.0
理 工 学 部		0.0	89	22.4	173	43.6	78	19.6	38	9.6	19	4.8	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	204	30.0	101	14.9	211	31.0	95	14.0	45	6.6	24	3.5	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問17 人文科学科目群

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	19	42	17	6	4	88
2	18	37	14	3	1	73
3	7	11	14	5	6	43
4	11	43	18	6	1	79
5	65	182	91	39	20	397
総 計	120	315	154	59	32	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	19	21.6	42	47.7	17	19.3	6	6.8	4	4.5	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	18	24.7	37	50.7	14	19.2	3	4.1	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	16.3	11	25.6	14	32.6	5	11.6	6	14.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	11	13.9	43	54.4	18	22.8	6	7.6	1	1.3	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	65	16.4	182	45.8	91	22.9	39	9.8	20	5.0	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	120	17.6	315	46.3	154	22.6	59	8.7	32	4.7	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問18 社会科学科目群

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	23	39	14	7	5	88
2	24	32	15	1	1	73
3	6	7	18	6	6	43
4	14	38	19	7	1	79
5	85	174	100	27	11	397
総 計	152	290	166	48	24	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	23	26.1	39	44.3	14	15.9	7	8.0	5	5.7	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	24	32.9	32	43.8	15	20.5	1	1.4	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	6	14.0	7	16.3	18	41.9	6	14.0	6	14.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	14	17.7	38	48.1	19	24.1	7	8.9	1	1.3	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	85	21.4	174	43.8	100	25.2	27	6.8	11	2.8	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	152	22.4	290	42.6	166	24.4	48	7.1	24	3.5	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問19 自然科学科目群

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	23	31	21	7	6	88
2	6	27	36	1	3	73
3	7	12	16	3	5	43
4	10	39	24	4	2	79
5	84	155	131	14	13	397
総 計	130	264	228	29	29	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	23	26.1	31	35.2	21	23.9	7	8.0	6	6.8	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	8.2	27	37.0	36	49.3	1	1.4	3	4.1	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	16.3	12	27.9	16	37.2	3	7.0	5	11.6	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	10	12.7	39	49.4	24	30.4	4	5.1	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	84	21.2	155	39.0	131	33.0	14	3.5	13	3.3	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	130	19.1	264	38.8	228	33.5	29	4.3	29	4.3	680	100.0

\*「1」: 大変役に立った 「2」: 少し役に立った 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり役に立たなかった 「5」: 役に立たない

設問20 健康科学科目群

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	34	38	10	4	2	88
2	14	33	21	3	2	73
3	11	16	12	2	2	43
4	20	36	18	3	2	79
5	82	168	125	13	9	397
総 計	161	291	186	25	17	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	34	38.6	38	43.2	10	11.4	4	4.5	2	2.3	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	19.2	33	45.2	21	28.8	3	4.1	2	2.7	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	11	25.6	16	37.2	12	27.9	2	4.7	2	4.7	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	20	25.3	36	45.6	18	22.8	3	3.8	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	82	20.7	168	42.3	125	31.5	13	3.3	9	2.3	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	161	23.7	291	42.8	186	27.4	25	3.7	17	2.5	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問21 外国語教養科目群（履修者のみ回答）

区 分	1	2	3	4	5	(空白)	総計
1	22	35	15	5	4	7	88
2	24	30	7	1	1	10	73
3	9	19	8	1	5	1	43
4	15	21	7	4	3	29	79
5	47	82	69	8	12	179	397
総 計	117	187	106	19	25	226	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	7	8.0	22	25.0	35	39.8	15	17.0	5	5.7	4	4.5	88	100.0
社会情報学部	10	13.7	24	32.9	30	41.1	7	9.6	1	1.4	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	1	2.3	9	20.9	19	44.2	8	18.6	1	2.3	5	11.6	43	100.0
医学部保健学科	29	36.7	15	19.0	21	26.6	7	8.9	4	5.1	3	3.8	79	100.0
理 工 学 部	179	45.1	47	11.8	82	20.7	69	17.4	8	2.0	12	3.0	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	226	33.2	117	17.2	187	27.5	106	15.6	19	2.8	25	3.7	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問22 総合科目群

区 分	1	2	3	4	5	総計
1	27	43	15	1	2	88
2	22	36	11	3	1	73
3	6	13	15	3	6	43
4	16	42	12	7	2	79
5	111	180	82	13	11	397
総 計	182	314	135	27	22	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	27	30.7	43	48.9	15	17.0	1	1.1	2	2.3	88	100.0
社会情報学部	0	0.0	22	30.1	36	49.3	11	15.1	3	4.1	1	1.4	73	100.0
医学部医学科	0	0.0	6	14.0	13	30.2	15	34.9	3	7.0	6	14.0	43	100.0
医学部保健学科	0	0.0	16	20.3	42	53.2	12	15.2	7	8.9	2	2.5	79	100.0
理 工 学 部	0	0.0	111	28.0	180	45.3	82	20.7	13	3.3	11	2.8	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	182	26.8	314	46.2	135	19.9	27	4.0	22	3.2	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問23 学部別科目（医学部・理工学部のみ回答）

区 分	1	2	3	4	5	(空白)	総計
1	2	2			1	83	88
2	1	5	1			66	73
3	18	16	5	3	1		43
4	49	20	9			1	79
5	159	179	37	8	6	8	397
総 計	229	222	52	11	8	158	680

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	83	94.3	2	2.3	2	2.3		0.0		0.0	1	1.1	88	100.0
社会情報学部	66	90.4	1	1.4	5	6.8	1	1.4		0.0		0.0	73	100.0
医学部医学科		0.0	18	41.9	16	37.2	5	11.6	3	7.0	1	2.3	43	100.0
医学部保健学科	1	1.3	49	62.0	20	25.3	9	11.4		0.0		0.0	79	100.0
理 工 学 部	8	2.0	159	40.1	179	45.1	37	9.3	8	2.0	6	1.5	397	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	158	23.2	229	33.7	222	32.6	52	7.6	11	1.6	8	1.2	680	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

**設問24 本学の教養教育について希望、意見がありましたら、記述ください。**

**また、「ほとんど意味がなかった」などの回答をされた場合も、その理由も記述ください。**

- ・特に、教養科目については、将来社会の中で生きて行く上でとても役立てるものになるだろうと考えています。  
このままのやり方で、これからも授業を行ってください。
- ・このアンケートは、役に立つか、立たないかを問うているが、そもそも履修してすぐに役に立つような講義がいい講義といえるのだろうか。もちろん、レポートの書き方の指導は教養教育の過程で行われるべきであるし、そのような講義はすぐに役に立つものでなければいけないのだが、もしも履修してすぐ役に立つような講義を目標とするのならば、教養科目は単にハウツーを学ぶ場となってしまうのではないだろうか。私の考えを述べることになってしまい恐縮だが、私は、教養教育を専門課程に入るための準備、あるいは、すぐに役立つハウツーを学ぶ場所だとは思っていない。教養教育を通して、自分の専門外の分野について見識を深めたいと思っている。また、それを通して物事を多様な見方でみる能力や、自分の生き方について考えることができればと思っている。これらの能力は、講義を受けてすぐに役に立つようなものではないと思う。むしろ、数十年後にならなければそのありがたさを感じることはできないのではないかと思う。教養教育のルーツは、旧制高校での教養を重んじた教育にある。旧制高校では、すぐに役立つ知識や技能を教えていたのだろうか？私はそうは思わない。以上、教養教育に求められている物は何なのか、ご検討をお願いします。
- ・2年次にキャンパスを変えないで欲しい。
- ・コマの配置が他のクラスと比べると酷い。
- ・さまざまな種類の教科が選択でき自分の学びたいものを見つけることができたので、非常に役に立った。しかし、私の学びたい科目が同じ時間に重なってしまっていたので残念だった。
- ・テスト範囲を具体的に教えて欲しい。
- ・とくにありません
- ・とても良いと思う。先生方も優しいである。
- ・もう少しキャンパスと駅のアクセスをなんとかできないでしょうか
- ・英語すら使えないのに第二外国語をやるのはどうかと思う
- ・英語の授業について  
たまに行う小テスト、授業内容、全てにおいて高校以下。あれではTOEICの点数も変わらない。むしろ下がる一方で、英語を話せるようにもならないと思う。高校生に時よりも英語力が低下したのは明らか。自己責任と言われてしまえばそれまでもかもしれないが、もっとこれから先使える英語を指導していただけたらと感じた。具体的には、TOEIC対策としても有効活用できるような授業。または、英語の会話能力

向上のため、教室内では英語以外禁止などである。

また、powerwords や多読など、課題を多くするやり方よりも、自ら英語を学びたい、学ばざるをえないような授業展開を望む。

- 学びのリテラシー(I)はこれからの学生生活において、必要なことを学べるカリキュラムになっていたもので、役に立つと思う。しかし、後期の学びのリテラシーは取るものによって、することが違うと考えた。なぜなら、文系の方はプレゼンを作り、発表をする機会があり、色々人とコミュニケーションをとることが可能であるのに対し、理系の方は、実験があり、結果のまとめるレポートがあるが、それに趣をおきすぎて、発表する機会がなかったためである。なので、もう少し文系、理系のバランスをとるべきだと思う。次に、教養教育科目について述べたいと思う。分野、先生によって、授業の仕方や単位の取得方法が違うことは仕方のないことであると思う。

しかし、先生によっては授業で出席状況を確認をしない先生がいらっしゃいますが、これは単位の修得可能な2/3の授業に出席せずに単位を獲得する人が出ると思われますが、どのようにお考えでしょうか。私自身は授業に出席するか否かは個人の自由なので、その人の意思を尊重しますが、これでは単位取得についての大学側の規則とは矛盾が生じると思うので、来年度からそここのところをはっきりした方が賢明かと思う。英語の授業について述べたいと思う。まず、多読の方針については変えるべきだと思う。なぜなら、多読テストを受けられない時間を設けているが、まる1日あかないと受けられないのは非常にテストが受けにくい。次に、power wordsについて述べるが、この活動について異議を申したいと思う。これは、英語力の向上に繋がっていないと思う。なぜなら、期末前にまとめてしている人が多く見受けられる。これでは単に授業点稼ぎをしたいだけで、大学側の意図とは異なると思う。この活動を続けるのであれば、それなりの対策が必要だと考えられる。

また、授業に関しては先生方が英語で授業をするのは素晴らしいと思う。しかし、授業内容に関しては及第点があると思う。私は今年度授業を受けて、していることのレベルが低すぎると思う。英語を親しむ上では良いかもしれないが、内容的には高校入学レベル同等かそれ以下だと思う。東アジアの他国と比べて、英語力が欠如が懸念されている日本人がこのままでいいのでしょうか。本当に英語力を向上したいのであれば、授業の改善をした方が良いと思われる。以上のことをご検討して頂くと幸いです。

- 学びのリテラシー2で、わたしが第一希望したところに、第二希望で通って履修している学生がいるのはなぜか分からない。
- 教科書が必要な場合は、必要な教科書の名前と値段を提示しておいてほしい。
- 教養教育が役に立つのかがよく分からない。ただ学びのリテラシー(2)の授業は考えさせられることが多く、大変楽しく自分のためになったと感じた。
- 教養教育だからどの学部の学生が履修してもよいし、講義内容もそうなっているはずなのに、「ある講義は専門的なものだからその専攻している学生に合わせてやる」と言って講義を進めていた先生がいて、講義が専門的すぎて専門用語などの解説もしてもらえずわからなかった。
- 荒牧でやる意味がわからなかった。そこまでして教養を学ぼうとは正直思わなかった。

- 荒牧の学生支援センターは、学生の目線に立って、学生のことを思って対応して欲しい。あまり親切ではない気がする。
- 講義受講の自由度がもう少しほしい
- 高校とは異なり全てが新しいものだったが、丁寧な説明と親切な対応により、1年間の大学生活が楽しく充実したものになった。
- 高校までの知識の確認やこれからの学習に役立てられると思うのでよかった
- 国際法について触れた法学の授業を開講してほしい。
- 私は化学・生物化学科に所属しています。  
化学を学習する上で、物理がとても重要であるのはわかりますが、生物化学と名前にあるのに物理学を優先させすぎではないか、と思います。  
もう少し、生物学の内容を含んだ勉強をしたいです。
- 自分の学部では学べないような内容も学ぶことができ、自分にとってよい機会になったと思います。ただ、学びたい科目が同じ時限でまともまらなくなってしまっていて取れないということもあったので、もう少し科目の時限の重複がまんべんなくなると嬉しいと思います。
- 授業のクオリティに差があり過ぎる。教養の教育学の授業は村田先生の本気度が伝わってきたしそれに応えようとする履修者の意欲も感じた。一方、学びのリテラシーなどは、教授の方々にとって授業内容をプレゼンやグループワークに無理やり結びつけることに違和感を感じているように思えた。GA棟の事務の方の態度があまりに冷たいときがある。学生にとっての相談窓口としての役割もあるはずなので、その意味での職務を全うしてほしい。
- 専門科目よりも教養科目のほうが内容的に充実していて楽しかった。専門科目に不満を抱いているわけではないが、一年生だからと言って初歩的なことだけで終わらせるのはどうかと思う。高校の復習みたいなものはもう少し減らしてもいいのではないか。
- 線形代数学IIの、授業毎の部分点の無い小テストで0点を取ると、欠席と同じ扱いにしてしまう教員がいる。その教員は理由を面倒くさいからだと言っていた。この様な授業の進め方は問題であるから改善してほしい。
- 前期にあった物理学概論の斎藤勝男は黒板の使い方がへたくそすぎてノートとっても意味がないレベルだったし、声もあまり聞こえなくてとてもじゃないけど意味がある講義とは思えなかった。  
後期の基礎微分方程式の渡辺雅之は学生に練習問題を出しといて解き方どころか答えすら教えない。これでは練習をしてもわからない問題はわからないままで、とりあえず解けた問題も合っているかわからない。ゆえにほぼ独学となり講義の意味がないように思える。
- 多読は流し読みや単語をあまり調べないことが推奨されているにもかかわらず、多読のクイズは内容を細かく把握していないと分からないものがある。多読のクイズを流し読みでも分かるような問題にするか、1日一回制限をなくしてほしい。

- 多読を1日何回も受けられるようにしてほしい。
- 台風の時に教務システムで休講または通常通りの情報を早く載せて欲しかった。
- 特になし。
- 特になし。いまのままでいいと思う。
- 必修の科目を空きコマを作らないように設定してほしいです。  
前期の月曜日の授業が1, 3, 5コマで空きコマが多かったので時間を無駄にしまった気がします。
- 様々な分野の科目を学べて非常に勉強になりました。
- 理系科目が多い。歴史分野の科目の開講数を増やしてほしい。二年次になると学部専門科目と時間帯が被るために、興味のある授業でないものを渋々取らなくてはいけない仕組みになっているのを改善してほしい。
- 理系学生には最低一科目文系の教養科目を受けさせ、文系学生には最低一科目理系の教養科目を受けさせるのが良いと考えます。理由としては、文系学生も理系学生も別の領域の教養科目を学ぶことによって、異なる視点から物事を見られるようになると考えたからです。
- 「哲学」は、今後の大学での勉強への取り組み方だけではなく、人生の歩み方についても考えさせられ、教養として大変よかったです。
- いろいろな経験ができました。  
前期のマナリテも、選択があるとよりいっそう興味を抱いて教養教育を受けられるかなとおもいました。
- このようなアンケートを実施するならば、学生による授業別の評価をした方がいい。学生の立場から周囲の意見を総合すると、どの学年のどの人に聞いてもおおむね悪評が立っている授業というのがある。そういう授業がなぜ評判が悪いのか？について検討したほうがずっと良いのではないか。もちろん学生にとって評判が悪い授業⇒悪い授業という訳ではない。アンケートを実施するならば、個別に評価の良し悪しをしない限り、本当のところの学生の意見は聞けないと思う。さらに、英語は半期ごとではなく通年で同じ先生にすべきだと思う。語学とはそういうものだと思う。
- シラバスを読んで受講したいと思ったものを履修登録期間中にきちんとその授業を聞きに行き履修しようとしていたのだが、最初の授業できちんと授業形態などの説明がなかった講師もいたし、また最初の方は自分が望んでいた授業を行ってほくれたが、最後のほうになるとシラバスから遠く離れてしまった内容になっていた講師が数人いた。また、抽選科目に落選してしまったときにその変わりに入れる授業を体験したいのに履修期間が短いために体験することができなかつたし、講師が最初の授業のときにしか授業形態の説明を行わないので詳細が分からなくとても混乱した。また、履修届を出す講師と出さない講師がいたので、そこをしっかりとどちらかに決めてほしかった。



- ただ聴くだけでなく、もっと学生が参加できるような講義がいいです。
- なるべく抽選にしてほしくないです
- はっきりいって生徒をなめている。特に英語。教科書を変えたほうがいい。
- ほとんど意味がなかったのは受けたと思った授業ではなかったため。
- もう少し初心者でも受けられる音楽の講義を増やしてほしいと思いました。また、健康科目の定員数をもっと増やした方がいいと思いました。特に、リラクゼーション関係の定員数を増やしてほしいです。
- 違う分野の知識も身につけることができ、良かった。
- 一期毎にとれる単位が30までであることはなぜか。
- 英語に力を入れるようにしているようですが、私は英語を必修にすべきだとは思いません。将来、世界で仕事をする時に便利だからと先生だったり大人は言います。でも、世界規模の企業なら通訳を雇えばいいです。それくらいのお金はあるはずです。世界規模なんですから。外国で仕事をしたい人なんかは学んだほうがいいとは思いますが。実際そういう人は、ほとんど全くと言っていいほどいません。だから、英語を必修ではなく選択科目にすべきだと考えています。それにいまだきどこも英語熱心なので、おもしろみがないです。そのかわりに一年間で自分がやりたいこと、できるようになりたいことを目標に設定して、自分でスケジュールを組ませて、大学内のどこでもいいから活動する、こんな講義があったら魅力的です。やりたいとは思ってるんだけどなかなかやれていないって人は多いです。私もです。何を始めるにしても最初は努力が必要ですし、簡単ではないです。ただ、きっかけがあれば始めやすいと思います。そのきっかけを大学が用意してくれたらとてもありがたいですし、とてもおもしろいです。
- 英語のリスニングの授業を、もっと計画的に行ってほしい！
- 英語はクラス分けをするのであればレベルにあった先生をクラスに振り分けるべきだと思った。  
もしくは希望する英語の教師の授業を選択できるようなシステムにして、人気のあるクラスに対しては成績順に振りわけるとしてほしかった。  
日本人教師は一人大学教育レベルに達していない方がいると思われる。  
また、せっかく大学に来て英語を勉強しようと思ってもクラス二人とも日本人教師ではほかのクラスのような実のある勉強を満足にできていないように思える。  
もちろんこの二人は悪くなく、授業をうけさせていただいている私から見ればよい先生なのだが、数いる教師の中で英語のクラスが二人とも日本人とならないようにしてほしい。  
クラス分けについてもっと考えてほしい
- 英語教育については、自分の分野に関係ある内容を通じて単語等の学習を進めれば更に有用性があると思います。  
学びのリテラシー 1 は基礎的な内容をゆったりとした時間の中で行っていたように感じました。分かっている人には少し退屈だったと思います。

- キャリア計画は、どのように役立つのかが今一つよくわからない回が何回かありました。学外から講師を呼ぶのは、とても参考になりますし学生も楽しめます。
- 学部別の専門授業は初めての事ばかりなのでいきなり専門用語を出されても理解が難しく、ついていくのがやっとなのにも関わらずどんどん先に進むのももう少しペースを落としてもらいたです。
- 学部別の必修科目で前1列にしか届かないような声で講義をし、黒板も使わないという先生がいました。また教科書の内容をただ繰り返す先生や、今日初めてこの問題を解いていますと言わんばかりに黒板の前で30分近く考えあぐねている先生もいました。いくら一年の教養科目と雖も必修だし、真面目に勉強をしたい生徒もいるので、もう少し教え方を考えて欲しいです。  
教養基盤科目では面白い講義が多くありました。自分の専門外でも、マニアックな話を聴けるチャンスはもう無いと思うとかなり有意義な時間だったと思います。学びのリテラシー(2)も興味のあることを掘り下げて知ることができ、毎週楽しみにしています。  
それと、情報の講義でオンラインテストを期限までに合格しないと筆記試験が受けられないと言われ、期限までに合格したのに担当の方に合格が確認出来ないで筆記試験は受けられないと言われました。話を聞けばきちんと確認はしておらず、担当は自分では無いし、前日までに受けるのが当たり前と言いつつ後「試験は受けられないと思います」と言われました。その後電話で「確認をしたところ合格していたので筆記試験はきちんと受けるように。」と言われましたが、私もふざけて大学に通っているのではありません。単位を落とすかもしれないと脅しておきながら謝罪の一言も無かったことは、今でも思い出すと腹立たしいです。
- 教科書を指定するならその通りに進めて欲しい、復習しづらいです。
- 教養を必修にすること自体おかしいし、無意味すぎる無駄な授業でした。  
必修の英語なんかは酷すぎる。あんなてきとうな授業で英語力上がるわけなし。いらない。
- 教養教育によってさまざまな事を学べ、大変良かった。
- 興味のある科目を自分で選択して履修することができるので、とてもよかった。
- 生に移る理工しかとらない授業が荒牧でしかやらないのはどうなのか。
- 個人的に興味あまり湧かないものばかりであったため、また 質の面でも自分の期待していたものとは違ったため。
- 後ろの席でも見える黒板がよい。
- 後期の学びのリテラシーは抽選が外れすぎて理不尽さを感じた。  
他学部との交流を持てたのはよかったが、医学部の自分にはよくわからないし興味の無い内容の授業だったし、まず同じ学部の間が少なすぎるし、そのうえ課題が毎回大変でほかの教科にも支障をきたした。正直意味があるように思えなかった。
- 後期の教養教育の時間割は、重なる科目数を減らして欲しかったです。

- ・講義の先生の話が全く分かりずらく、理解することが出来なかった。
- ・受きたい授業が重なっていたので時間割の配置を考えて欲しい。
- ・受講希望者の多い講義は定員を増やしてほしい。  
学びのリテラシーは前期後期ともに学ぶ内容を平等にしてほしい。
- ・授業科目を聞いても何をするのかよくわからない授業が多いと感じた。もう少し分かりやすい授業名にすれば履修登録しやすいと感じた。
- ・充実した大学生活を送れていると思います。  
たまに、この授業って何のの意味あるんだ？と、思うときもありますが、とても楽しい学校だと思います。
- ・色々なことを学ぶことができたので良かった。
- ・人気の講義は抽選で選ばれるが、人数が多い場合はその同じ講義を2つに増やして欲しいです。  
教養科目は様々なジャンルのものを学べるので、新しい知識も増えて良かったです。
- ・人気の授業はもっと違う日にもやるなどしたほうがよい。基本的に抽選で履修が決まるのはとても不愉快。医学部は月曜金曜は昭和キャンパスなのでそこも考慮すべき。前期の日本国憲法とか。金曜日に違う人の授業あってもとれないんだから、理工とか教育の人がとるようにするとか、もっと考えて欲しい。それか金曜の授業を火曜水曜木曜のどれかにするとか、考えて欲しい。
- ・生徒の顔も見ず板書ばかりで何も喋らない先生がいます。なるべく生徒の顔を見て理解しているか確認しながら授業して欲しいです。
- ・前期抽選で2つ落としてしまって授業決めが大変だったので授業数をふやしてほしい。
- ・大学にきてまで興味のないこと（人文・社会科学科目群）を学ばなければならない意味がわからない。興味のないことを学習しようとしても意欲は低下し、学習効果が薄れ、習得には至らない。義務ではなく、興味のある人だけが履修できるようにすればいい。
- ・同じ学部の同じ科目（化生は3つのクラスに分かれているので）は統一のテストにしてほしかった。統一のテストもあったが、別々のテストもあったので、不公平さを感じたので改善してほしい。
- ・特にないです。
- ・特になし。
- ・特に何も言うことはない。
- ・微分積分学の山田先生の授業は、板書するだけで口頭での説明が不足していると感じた。もっと丁寧な授業をしてほしいと思う。

- 文系科目の選択肢が少ない。  
抽選に漏れた場合，やる気をなくす。自分は，前期と後期の両方で抽選に漏れたのでさらにやる気をなくした。救済が欲しい。
- 履修の選択数をもっと欲しい。
- 理工学部の教養教育も桐生に統合して欲しい。

総計

## 2 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成26年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

### 2.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

#### 2.1.1 免除申請者数、免除者数

平成26年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 120人、免除者数 47人

10月1日入学：免除申請者数 11人、免除者数 10人

#### 2.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成26年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 34人、徴収猶予者数 30人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

### 2.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院（修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程）に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

#### 2.2.1 免除申請者数、免除者数

平成26年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

前期：免除申請者数 847人、免除者数 716人

後期：免除申請者数 848人、免除者数 761人

#### 2.2.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成26年度授業料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

前期：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

後期：徴収猶予申請者数 0人，徴収猶予者数 0人

## 2.3 寄宿料免除

本学では、学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納入が著しく困難と認められる場合、免除を行っている。

### 2.3.1 免除申請者数，免除者数

平成 26 年度寄宿料免除申請者数，免除者数は，次のとおりである。

免除申請者数 0人，免除者数 0人

## 2.4 奨学金

本学では、日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお、日本学生支援機構の奨学金には、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があり、いずれも貸与終了後には、返還が必要となる。

### 2.4.1 日本学生支援機構奨学生数（平成 26 年 10 月 1 日現在）

第一種：学部生 902 人，大学院生 292 人

第二種：学部生 1,092 人，大学院生 84 人

（詳細は資料のとおり：「学部生」には、専攻科生を含む。）

### 2.4.2 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成 26 年 10 月 1 日現在）

学部生 28 人，大学院生 3 人

（「学部生」には、専攻科生を含む。）

## 2.5 学生相談体制及び学生相談

本学は、次のような学生相談体制を設け、学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

### 2.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を、また、理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

### 2.5.2 主な相談事項

主な相談事項は、勉学・進路、メンタルヘルス、クラブ・サークル活動、経済的事情・アルバイト、友人（男女）関係についてなどである。

### 2.5.3 学生相談アンケートの実施及び活用

平成 26 年 12 月に講師以上の全教員に対して、平成 26 年 4 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談アンケート」を実施し、回収率は 50.3%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し学生指導に活用している。

## 2.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

### 2.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成 26 年度前期欠席者数：37 名（詳細は資料のとおり）

主な欠席理由：身体的病気怪我，進路の迷い，精神的な悩み，早朝に授業があるため寝坊等

平成 26 年度後期欠席者数：83 名（詳細は資料のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊，授業が理解出来ない，身体的病気怪我，進路の迷い等

### 2.6.2 実施方法，時期

#### 1) 実施方法

- ・実施時期は，5 月（前期）と 11 月（後期）の年 2 回を実施基準月とする。
- ・調査対象は，卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部全学生とする。
- ・調査科目は，各学部が指定した科目とする。  
ただし，1 年次は，学部の依頼により教育基盤センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は，調査科目について連続 4 回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は，各学部担当事務（1 年次生は学務部）が行う。
- ・4 回のチェックのうち 3 回（理工学部は 2 回）以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号，所属，氏名，住所，電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1 年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて，クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

#### 2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・調査方法は，クラス担任等が対象者を呼び出し，直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い，かつ，精神科医の面談の可否を判断し，その内容を面接票に記載して，その都度学部長（1 年次生は学務部）に提出する。

#### 3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1 年次生は学務部）に提出された面接票を健康支援総合センター医師に回付し，医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い，必要なカウンセリング等を行う。

## 2.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ，十分な教育を受け，学生生活を送ることができるよう，大学教育・学生支援機構学生支援センターの中に，障害学生支援室を設置している。

### 2.7.1 障害学生数

平成 26 年度に障害学生支援室が障害のある学生と認定し，修学支援の対象となっている学生 18 名（聴覚障害者 9 名，肢体不自由者 4 名，内部障害者 1 名，発達障害者 4 名）が在

籍している。

### 2.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には、個別に障害の種類及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また、全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には、授業ごとに必要に応じて FM 補聴器の貸し出しや、パソコンテイクと手話通訳による支援等を行い、肢体不自由学生には、休憩室の設置、車椅子対応の施設整備、低身長者のための踏み台の設置、介助者による移動介助などの支援を行い、内部障害学生には、講義中のトイレ退席等の配慮、また、発達障害学生には、休憩室の設置、健康支援総合センター医師による面談、履修相談などの支援を行っている。

## 2.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

### 2.8.1 加入者数

平成 26 年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料のとおりである。

### 2.8.2 請求種別保険金請求件数

平成 26 年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料のとおりである。

## 2.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生が J R，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。

学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離 100km を超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区及び桐生地区で証明書自動発行機にて行っている。

### 2.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成 26 年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は，資料のとおりである。

## 2.10 学生寮

本学には，前橋地区に養心寮，桐生地区に啓真寮の 2 寮がある。



学生寮は、学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

### 2.10.1 養心寮入寮者数

平成 26 年度の養心寮入寮者数（定員は男子 74 人，女子 62 人，合計 139 人，寄宿料月額 4,300 円）は，延入居者数が 1,616 人で，入居率は 99.0%である。なお，男子部屋数は 77 室であるが，入居不可室が 3 室あるため，74 室を定員とした。

### 2.10.2 啓真寮入寮者数

平成 26 年度の啓真寮入寮者数（定員は男子のみで 102 名，寄宿料月額 5,900 円）は，延入居者数が 786 人で，入居率は 64.2%である。なお，平成 27 年度に大規模改修工事を実施するため，平成 27 年 3 月末をもって入寮生全員が退寮した。

## 2.11 生活支援施設

本学では，学生生活の利便性を確保し，経済面の支援を図るために荒牧地区，昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており，群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を，売店では，書籍，日用品，旅行鞆等を市価より安く提供している。

### 2.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	447席 (ホール内 405 席, 外 42 席)	286席 (ホール内 264 席, 外 22 席)	558席 (ホール内 438 席, 外 20 席, 桐園 100 席)
営業時間	11:00～14:00 17:30～19:30	11:00～14:00	11:00～14:00 17:30～19:30 桐園 11:00～14:00
年間営業日数	247日	240日	240日
年間利用者数	123,042人	50,475人	147,576人
提供メニュー数	50以上	30以上	60以上

### 2.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～18:00	8:30～18:00	9:30～18:00
年間営業日数	242日	240日	240日
年間利用者数	174,166人	136,741人	189,297人

## 2.12 課外活動施設

本学には、荒牧、昭和、桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり、体育の授業の他、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

### 2.12.1 体育施設

・荒牧キャンパス

#### 陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ実施の場として使用している。

#### サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。なお、サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置してある。サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

#### テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

#### 野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明も設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウィル及び医学部準硬式野球部が主に使用している。

#### プール

プールは、50メートル8コースで、6月～8月に使用している。水泳部が主として使用している。

#### 第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどにより使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

#### 第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどにより使用している。なお、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

#### 武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用す

る他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、レスリング部が主として使用している。

#### 弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

#### 馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。なお、飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

#### ・昭和キャンパス

##### 体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の二階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主に使用している。

#### 弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

#### ・桐生キャンパス

##### 菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

#### テニスコート

テニスコートは全天候型コート3面（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主に使用している。

なお、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

#### プール

プールは、25メートル7コースで、6月～8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

#### 体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部が主に使用している。

## 弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

### 2.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

#### ミュージズホール

ミュージズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

#### 集会室

3室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主に茶道部が使用している。

### 2.12.3 課外活動共用施設

#### ・荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり北棟は主に運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の効いた部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

#### ・昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており1階、2階、3階に各6部屋（計18室）あり、1階には音楽演奏に向く防音の効いた部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

#### ・桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の効いた部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用されている。

### 2.12.4 合宿所

#### ・荒牧キャンパス

4部屋あり、大きさは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

#### ・桐生キャンパス

4部屋あり、大きさは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

## 2.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

### 2.13.1 学生団体

平成 26 年度のクラブ・サークルは、資料のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4 年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6 年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

### 2.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

- ・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成 26 年 11 月 8 日（土）～9 日（日）に開催し、来場者数は 8,641 人であった。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成 26 年 10 月 17 日（金）～19 日（日）に開催し、来場者数は、3,500 人以上（詳細不明）であった。
- ・太田キャンパスは、平成 26 年 7 月 20 日（日）に太田市祭りに併せて、大学祭として参加し開催した。

なお、医学祭は隔年開催のため、実施していない。

### 2.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区 14 大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成 26 年度は、新潟大学が主管校として、長岡技術科学大学、信州大学の 3 大学が担当して行われ、平成 26 年 8 月 15 日（金）～8 月 31 日（日）の日程で全 17 種目が開催され、各大学が担当した競技は以下のとおりである。

新潟大学担当：バスケットボール、剣道、卓球、硬式野球、サッカー、体操、柔道

長岡技術科学大学担当：テニス、水泳、弓道

信州大学担当：準硬式野球、ラグビー、バレーボール、バドミントン、空手道、陸上競技、ソフトテニス

群馬大学が好成績（3 位以上）を収めた競技は以下の通りである。

- ・優勝：空手道（自由）
- ・準優勝：ラグビー B
- ・第 3 位：柔道、テニス（女子）

### 2.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成 26 年度は、NHK 前橋放送局と連携して実施した「NHK 大学セミナー」としても実施したことも含め、合計 3 回に渡り実施した。内容は以下の通りである。

第 1 回

- ・「交通事故の実態について」
- ・「防犯・サイバー犯罪対策について（護身術指導含む）」

第 2 回

- ・「チームをまとめる秘訣とは」（「NHK 大学セミナー」としても実施）

- ・「若年層が被害に合いやすい悪徳商法の紹介とその対処－SNSでの注意点－」
- 第3回
- ・「飲酒のマナー」
  - ・「応急手当講習会（実技指導）」

## 2.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

### 2.14.1 北軽井沢研修所

本研修所は、本学指導教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山榎2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建のモダンな建物となっている。

収容人員は15人で居室は3、研修室1、炊事施設等が完備されている。開所時期は、5月1日から10月15日までで、施設運営費は、1人1日1,000円、食事は自炊となっている。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設運営費の他に施設使用料1人1日40円が必要となる。

平成26年度延利用者数

群馬大学所属者	その他	総数
247人	47人	294人

### 2.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することができる。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

なお、消費税引き上げに伴い、食事料金の改定を行った。

草津セミナーハウス使用料金表（平成26年度）

区分	(1) 地区国立大学教職員・学生	(2) (1)以外の者
運営費	1,500円(2,000円)	1,900円(2,400円)
施設使用料	(2)の者のみが負担(毎年4月1日決定)	
食事	朝食 480円	昼食 520円 夕食 1,020円

(1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。

(2) ( )内の数字は10月1日から4月30日までの運営費である。

- (3) 地区国立大学の教職員及び学生以外が利用する場合は施設運営費の他に施設使用料1人1日100円が必要となる。
- (4) 既納の運営費及び施設使用料は還付しない。ただし、使用日の7日前までの取り消しについては、運営費の70%を還付する。

平成26年度利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総数
3,791人	2,671人	6,462人

## 2.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を開設している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

### 2.15.1 進路状況及び主な就職先

平成26年度の学生の進路状況等は、資料のとおりである。

### 2.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

学生支援センター就職支援部会主催による就職対象学年及び低学年に向けた就職ガイダンスは、次のとおりである。

- 1) 一般企業向け就職ガイダンス・各種セミナー  
(全34回、参加延人数：2,284人)
- 2) 公務員関係就職ガイダンス  
(全6回、参加延人数：308人)
- 3) 1・2年生向けガイダンス  
(全2回、参加延人数：73人)
- 4) インターンシップ関係説明会及び成果報告会  
(全9回、参加延人数：1,065人)
- 5) 職務適性診断テスト等  
(全6回、参加延人数：367人)

### 2.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区に3名及び桐生地区に1名、太田地区に1名のキャリアカウンセラーを配置し、面接形式によるカウンセリングを実施した。さらに、ハローワークの協力により、就職未内定者のための個別相談会を実施した。

- 1) 利用件数：470件
- 2) 主な相談・指導内容
  - ・就職活動への指導助言
  - ・職業適性・自己分析の指導助言
  - ・エントリーシートの添削指導助言
  - ・面接試験の指導助言

#### 2.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置している。
- 2) 各種企業情報データの検索（求人件数：1,687 件）
- 3) 職業適性診断検査の利用（利用件数：27 件）
- 4) 就職関連書籍・ガイダンス開催ビデオの充実（貸出可）
- 5) キャリアサポート通信の発行（月 1 回）により学生への就職情報の提供を実施している。
- 6) 求人情報、カウンセリングの予約状況等について、ツイッターによる情報発信を行っている。

#### 2.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 2) 体験型インターンシップを推進すると共に各機関、企業、施設等において学生が実務経験を積むことができる環境を整備した。
  - ・企業紹介説明会参加者：418 人
  - ・実習事前講座参加者：292 人
  - ・実習参加者：301 人
  - ・インターンシップ終了後の成果報告会参加者：265 人なお、実習期間中に職員による受入先訪問を行い、インターンシップ充実の支援体制を整えた。
- 3) 「模擬面接の指導」、「小論文の作成技術の訓練」、「エントリーシート及び履歴書の作成技術の訓練」及び「公務員試験受験のための試験対策セミナーの開催」をした。

#### 2.15.6 就職支援 BOOK の作成・配付

就職支援BOOK「群大生のための就活ノウハウ集」を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

### 2.16 就業力育成支援室

本学では、以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 就業力育成を実施するために就業力育成支援室を設置し、専任教員（教授）、及び兼任教員4名、事務職員2名を配置して、就業力育成支援機能を充実させている。
- 2) 就業力育成のための科目として「キャリア計画」、「キャリア設計」、及び「学びを構築する」を開講している。
- 3) 企業実務家等による就業力育成講演会及び就業力育成セミナーを実施している。
- 4) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として、2年生に「インターンシップI」を開講している。
- 5) 英語教育の充実のため、理工学部においては、2年次での英語（2単位）を1年次に集中（計4単位）して行うとともに、プレースメントテストによる習熟度別クラス編制を実施している。
- 6) 学びの履歴、アンケート等は、電子的に記録し、自身の学びを振り返ることのできるキャリアデザインポートフォリオシステムを利用している。

これらの取り組みは、平成24年度に採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充实体制整備事業」として、各大学や地域産業界と協働して、学生の社会的・職業的自立を促す教育を継続して推進している。



## 2.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度及び平成25年度に実施した。また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し学生支援への活用を図った。

なお、平成30年度に4回目の学生生活実態調査を実施する予定である。

## 2.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、平成25年度からウェブサイトにて掲載しており、今年度も同様にウェブサイトでの掲載となった。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、インターンシップ、生協食堂人気メニュー等である。

## 2.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：19件（学内10件、学外9件）
- ・盗難：5件（被害者9人）
- ・その他迷惑行為、不審者被害、未成年飲酒等不適切な行動等：18件

## 2.20 学生支援センター資料集

資料 2.1.1-2.1.2：平成26年度入学科免除及び入学科徴収猶予実施状況

資料 2.2.1-2.2.2：平成26年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料 2.4.1：日本学生支援機構奨学生数（平成26年10月1日現在）

資料 2.6.1：平成26年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期、後期）

資料 2.8.1：平成26年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料 2.8.2：平成26年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料 2.9.1：平成26年度通学証明書発行枚数，学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料 2.13.1：平成26年度クラブ・サークル一覧

資料 2.15.1：平成26年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

## 2.20 学生支援センター資料集

## 平成26年度入学科免除実施状況

## 平成26年度入学科徴収猶予実施状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学
教育学部	1	0	1	0
社会情報学部	1	0	1	0
医学部	0	0	0	0
理工学部(工学部)	6	0	6	0
学部合計	8	0	8	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0	0
教育学研究科(修士課程)	9	0	9	0
教育学研究科(専門職学位課程)	0	0	0	0
社会情報学研究科	4	0	4	0
医学系研究科(生命医科学専攻)	2	1	3	1
保健学研究科(博士前期課程)	6	0	6	0
理工学部(工学研究科)	82	4	86	5
大学院修士課程の計	103	5	108	6
医学系研究科(医科学専攻)	5	5	10	4
保健学研究科(博士後期課程)	1	0	1	0
理工学部(工学研究科)	3	1	4	1
大学院博士課程の計	9	6	15	5
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	0
合計	120	11	131	17

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学
教育学部	4	0	4	0
社会情報学部	1	0	1	0
医学部	0	0	0	0
理工学部(工学部)	5	0	5	0
学部合計	9	0	9	0
総合理工学科(夜間主)	1	0	1	0
教育学研究科(修士課程)	1	0	1	0
教育学研究科(専門職学位課程)	0	0	0	0
社会情報学研究科	1	0	1	0
医学系研究科(生命医科学専攻)	1	0	1	0
保健学研究科(博士前期課程)	1	0	1	0
理工学部(工学研究科)	7	0	7	0
大学院修士課程の計	11	0	11	0
医学系研究科(医科学専攻)	3	0	3	0
保健学研究科(博士後期課程)	0	0	0	0
理工学部(工学研究科)	0	0	0	0
大学院博士課程の計	3	0	3	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	0
合計	34	0	34	0

## 平成26年度授業料免除実施状況

	免除申請者数(人)		免除許可者数(人)		合計(延べ人数)	
	前期	後期	判定	前期		後期
教育学部	112	114	全額免除 226	71	72	143
			半額免除 27	27	27	54
社会情報学部	62	61	全額免除 123	42	44	86
			半額免除 86	12	11	23
医学部	45	41	全額免除 86	22	23	45
			半額免除 140	9	11	20
保健学科	69	71	全額免除 140	37	40	77
			半額免除 41	21	20	41
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	279	276	全額免除 555	154	166	320
			半額免除 1130	73	90	163
学部の計	567	563	全額免除 1130	326	345	671
			半額免除 301	142	159	301
総合理工学科(夜間主)	10	14	全額免除 24	5	9	14
			半額免除 6	3	3	6
教育学研究科 (修士課程)	16	12	全額免除 28	8	7	15
			半額免除 8	4	4	8
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額免除 0	0	0	0
			半額免除 0	0	0	0
社会情報学研究科	10	9	全額免除 19	7	8	15
			半額免除 3	3	0	3
医学系研究科 (生命科学専攻)	6	7	全額免除 13	3	6	9
			半額免除 44	1	0	1
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	19	25	全額免除 319	6	11	17
			半額免除 423	8	8	16
大学院修士課程の計	161	158	全額免除 319	104	106	210
			半額免除 423	41	39	80
医学系研究科 (医科学専攻)	23	24	全額免除 47	13	15	28
			半額免除 17	9	8	17
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	8	10	全額免除 18	4	4	8
			半額免除 53	3	4	7
大学院博士課程の計	27	26	全額免除 53	25	23	48
			半額免除 118	1	2	3
特別支援教育特別専攻科	58	60	全額免除 0	42	42	84
			半額免除 0	13	14	27
合計	847	848	全額免除 1695	501	534	1035
			半額免除 442	215	227	442

## 平成26年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数(人)		猶予許可者数(人)		合計(延べ人数)	
	前期	後期	判定	前期		後期
教育学部	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
社会情報学部	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
医学部	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
保健学科	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
学部の計	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
医学系研究科 (生命科学専攻)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
大学院修士課程の計	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
大学院博士課程の計	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0
合計	0	0	全額猶予 0	0	0	0
			半額猶予 0	0	0	0

## 平成26年度日本学生支援機構奨学生数（学部・研究科別内訳）

平成26年10月1日現在(人)

学部・研究科	区分		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計		
	学部	研究科	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	計
学部	教育学部	教育学部	38	50	28	44	36	48	31	41					133	183	316
		社会学部	28	22	21	24	24	28	24	24	33					97	107
	医学部	医学部	9	11	13	14	13	19	17	23	18	22			87	107	194
		保健学科	36	39	37	40	38	37	23	41					134	157	291
	工学部	昼間コース				1	110	131	88	146					198	278	476
		夜間主コース					3	6	5	5					8	11	19
	理工学部	理工学部	134	105	111	144									245	249	494
	学部計		245	227	210	267	224	269	188	289	19	18	16	22	902	1092	1994
	専攻科	特別支援教育特別専攻科													0	0	0
		教育学研究科	修士課程	9		11										20	0
専門職学位課程					3										3	0	3
社会学部		学研科	1		1										2	0	2
	修士課程	2	3	5										7	3	10	
大学院	保健学研究科	博士課程			1		3	1	1	1				5	2	7	
		博士前期課程	4	1	12	4									16	5	21
	工学研究科	博士後期課程													0	0	0
		博士前期課程			1	1									1	1	2
理工学府	博士後期課程					6	1							6	1	7	
	博士前期課程	124	48	99	23									223	71	294	
大学院計		6	1	3										9	1	10	
大学院計		146	53	136	28	9	2	1	1	0	0	0	0	292	84	376	

※一人の学生が一種と二種を併用賞与している場合もあるので、延べ人数である。

総計 2,370

## 平成26年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

	教育学部	社会情報学部	医学部			理工学部（工学部）			合計
			医学科	保健学科	計	昼	夜	計	
1年生 対象者数	名 225	名 106	名 115	名 163	名 278	名 559	名 559	名 1,168	
欠席者数						3	3	3	
						0.5%	0.5%	0.3%	
2年生 対象者数	232	103	136	168	304	574	574	1,213	
欠席者数	2	6	1		1	3	3	12	
	0.9%	5.8%	0.7%		0.3%	0.5%	0.5%	1.0%	
3年生 対象者数	226	125	127	176	303	579	31	610	
欠席者数	2		3		3	15	2	17	
	0.9%		2.4%		1.0%	2.6%	6.5%	2.8%	
合計 対象者数	683	334	378	507	885	1,712	31	1,743	
欠席者数	4	6	4		4	21	2	23	
	0.6%	1.8%	1.1%		0.5%	1.2%	6.5%	1.3%	

※ 学生数は、平成26年5月1日現在

※ 理工学部は主に1～2年生が理工学部生，3年生は工学部生（他の資料も同様）

※ 理工学部（工学部）2～3年生は欠席2回以上を欠席者とする。

※ 欠席者数下段は、欠席率

## 平成 26 年度 学部 1 ～ 3 年次生欠席状況調査一覧（後期）

	教育学部	社会情報学部	医学部			理工学部（工学部）			合計
			医学科	保健学科	計	昼	夜	計	
1 年 生 対象者数	名 225	名 106	名 115	名 163	名 278	名 557	名	名 557	名 1,166
欠席者数		1		1	1	19		19	21
	0.0%	0.9%	0.0%	0.6%	0.4%	3.4%		3.4%	1.8%
2 年 生 対象者数	230	103	136	168	304	572		572	1,209
欠席者数	2	5	1	2	3	10		10	20
	0.9%	4.9%	0.7%	1.2%	1.0%	1.7%		1.7%	1.7%
3 年 生 対象者数	225	125	127	176	303	578	31	609	1,262
欠席者数	1	1	13	0	13	24	3	27	42
	0.4%	0.8%	10.2%	0.0%	4.3%	4.2%	9.7%	4.4%	3.3%
合 計 対象者数	680	334	378	507	885	1,707	31	1,738	3,637
欠席者数	3	7	14	3	17	53	3	56	83
	0.4%	2.1%	3.7%	0.6%	1.9%	3.1%	9.7%	3.2%	2.3%

※ 学生数は、平成26年11月1日現在

※ 理工学部は主に1～2年生が理工学部生，3年は工学部生（他の資料も同様）

※ 理工学部（工学部）2～3年生は欠席2回以上を欠席者とする。

※ 欠席者数下段は、欠席率

## 平成26年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

(平成27年3月31日現在)  
(人)

学部	学部名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
教育学部	教育学部	225	0	2	1	0	0	0	228
	社会情報学部	93	1	31	0	0	0	0	125
医学部	医学部	104	14	0	0	0	0	0	118
	保健学科	152	0	6	0	0	0	0	158
工学部・理工学部	計	256	14	6	0	0	0	0	276
	昼間コース	487	9	31	4	0	0	16	547
	夜間主コース	31	0	2	0	0	0	0	33
	計	518	9	33	4	0	0	16	580
合計	1,092	24	72	5	0	0	16	1,209	

(平成27年3月31日現在)  
(人)

大学院・専攻科	研究科名	1年	2年	3年	4年	計
教育学研究科	教育学研究科	42	1	0	0	43
	社会情報学研究科	9	0	0	0	9
医学研究科	修士課程	30	2	0	0	32
	博士課程	14	0	0	0	14
保健学研究科	博士前期課程	27	0	0	0	27
	博士後期課程	3	0	0	0	3
理工学部・工学研究科	計	74	2	0	0	76
	博士前期課程	235	3	0	0	238
特別支援教育特別専攻科	博士後期課程	11	1	0	0	12
	計	246	4	0	0	250
合計		380	7	0	0	387

## 平成 26 年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	5	2	5	4	0	16	0	16
昭和地区	2	0	1	8	0	11	0	11
桐生地区	6	0	1	1	6	14	3	17
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	13	2	7	13	6	41	3	44



資料2.9.1

## 平成26年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
589	400	78	29	162	26	41	0	1,325

## 平成26年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	209	841	589	28	1,865	61	1,151	4,744
昭和地区	307	645	1,030	179	3,397	28	1,257	6,843
桐生地区	167	499	295	15	1,473	20	323	2,792
太田地区	3	6	0	0	0	0	0	9
合計	686	1,991	1,914	222	6,735	109	2,731	14,388

## 平成 26 年度 クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	青竹	○				文化部
2	アドバンス	○				文化部
3	アニメーション研究会			○		文化部
4	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
5	E. S. S(English Speaking Society)	○				文化部
6	囲碁・将棋部		○			文化部
7	泉の会	○				文化部
8	映画研究会	○	○			文化部
9	S.R.C部	○	○	○	○	文化部
10	SCC(science cooking circle)			○		文化部
11	E∞gg		○			文化部
12	エレクトーン部		○			文化部
13	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部
14	折紙研究会"Origin"	○	○	○		文化部
15	音楽研究会			○		文化部
16	気象天文研究部	○	○	○		文化部
17	Guit's		○			文化部
18	クラシックギター部	○				文化部
19	グリークラブ	○		△		文化部
20	軽音楽部		○			文化部
21	国際医療ボランティアの会(FORS)		○			文化部
22	混声合唱団	○		○		文化部
23	コントラクト・ブリッジサークル	○				文化部
24	茶道部	○				文化部
25	GA研究会	○				文化部
26	GMA	○				文化部
27	G. K. オールスターズ			○		文化部
28	CG研究会	○				文化部
29	写真部(荒牧)	○		○		文化部
30	写真部(昭和)		○			文化部
31	写真部(桐生)			○		文化部
32	書道部	○				文化部
33	進化するサルのだれでもわかる科学教室	○				文化部
34	吹奏楽団	○	○	○	○	文化部
35	生協経営研究会	○				文化部
36	政治研究会	○				文化部
37	聖書研究会		○	○		文化部
38	0から始めるゲーム制作会	○				文化部
39	ダンスサークル(医学部)		○			文化部
40	たんぼぼ	○				文化部
41	TRPG研究会	○				文化部
42	てふてふ	○				文化部
43	でんでんむし	○	○			文化部
44	天文部		○			文化部
45	東洋医学研究会		○			文化部
46	ド学連(MD-PhD勉強会)		○			文化部
47	AAA☆KIDS		○			文化部
48	Pastel Plan	○				文化部
49	ピアノ部		○			文化部
50	PCDC	○				文化部
51	Pico		○			文化部
52	美術愛好会		○			文化部
53	Beyond	○				文化部

## 平成 26 年度 クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
54	ビリヤード部		○			文化部
55	ファンタスティック手芸部	○				文化部
56	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
57	Fore-Bridge Orchestra(FOB)		○			文化部
58	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
59	FLOW Orchestra & Chorus	○	○			文化部
60	Voice Cream	○	○	○		文化部
61	漫画研究部	○		○		文化部
62	マンドリン・ソサエティ	○	○	○		文化部
63	民間伝承研究会	○				文化部
64	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
65	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
66	モダンジャズ研究会(理工学部)			○		文化部
67	野外教育研究会	○				文化部
68	八木節同好会			○		文化部
69	野草を食べる会		○			文化部
70	夢のわたらせ なないろ号		○			文化部
71	落語・コント研究会	○		○		文化部
72	ラジオ同好会			○		文化部
73	LAMP	○				文化部
74	LEADS		○			文化部
75	√Root	○	○	○	○	文化部
76	YMCAクラブ	○	○	○		文化部
77	R. F. C	○	○	○	○	運動部
78	合気道部	○	○	○		運動部
79	アウイル	○		○		運動部
80	アメリカンフットボール部	○				運動部
81	エスケープ	○				運動部
82	Et's		○			運動部
83	El Bolos		○			運動部
84	オリエンテーリング部	○				運動部
85	空手道部	○		○		運動部
86	環境プロセススポーツ同好会			○		運動部
87	弓道部	○		○		運動部
88	弓道部(医学科)		○			運動部
89	弓道部(保健学科)		○			運動部
90	クライミング部	△		○		運動部
91	群馬CRAFT	○				運動部
92	Get's		○			運動部
93	剣道部	○	○	○		運動部
94	剣道部(医学部)	○	○			運動部
95	硬式テニス部	○		○		運動部
96	硬式テニス部(医学部)		○			運動部
97	硬式野球部	○				運動部
98	COSMIC BOX			○		運動部
99	ゴルフ部(医学部)		○			運動部
100	サイクリング部	○		○		運動部
101	サイクリング部(医学部)医輪		○			運動部
102	サッカー部(全学)	○		○		運動部
103	サッカー部(医学部)		○			運動部
104	サバゲーサークル			○	○	運動部
105	G.M.R(各種スポーツ)			○		運動部

## 平成 26 年度 クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
106	G☆バンビーズ(旧:夜間バスケ)			○		運動部
107	自動車部	○	○	○	○	運動部
108	柔道部(荒牧)	○		○		運動部
109	柔道部(理工学)			○		運動部
110	準硬式野球部(荒牧)	○				運動部
111	準硬式野球部(医学部)	○	○			運動部
112	杖道部		○			運動部
113	少林寺拳法部	○		○		運動部
114	水泳部	○	○	○		運動部
115	スキー部(全学)	○	○	○	○	運動部
116	スキー部(医学部)		○			運動部
117	Seven Stars	○				運動部
118	ソフトテニス部	○		○		運動部
119	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部
120	体操部	○	○	○	○	運動部
121	大東流合気武術部	○				運動部
122	卓球部	○		○		運動部
123	卓球部(医学部)		○			運動部
124	ダンス部	○				運動部
125	ツバサFCコーチングスタッフ	○				運動部
126	バイク部			○		運動部
127	馬術部	○				運動部
128	バスケットボール部	○				運動部
129	バスケットボール部(医学部)		○			運動部
130	バスケットボール部(理工学部)			○		運動部
131	バドミントン部	○		○		運動部
132	バドミントン部(医学部)		○			運動部
133	バレーボール部(全学)	○				運動部
134	バレーボール部(医学科)		○			運動部
135	バレーボール部(保健学科)		○			運動部
136	ハンドボール部	○				運動部
137	B-STYLE	○		○		運動部
138	Vit'z		○			運動部
139	FAST BREAK	○				運動部
140	フィールドホッケー部	○		○		運動部
141	V. B. C. 桐生			○		運動部
142	フットサルサークル(医学部)	○				運動部
143	フリースタイルバスケ・フットボールサーク	○	○	○	○	運動部
144	po'aloma			○		運動部
145	ボウリング愛好会	○	○	○		運動部
146	borderless	○				運動部
147	メモリアルテニス部	○				運動部
148	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
149	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
150	Rough	○		○		運動部
151	陸上競技部	○		○		運動部
152	陸上競技部(医学部)	○	○			運動部
153	レスリング部	○				運動部
154	Let's Met's		○			運動部
155	レンタルカートレーサーズ				○	運動部
156	ONE WAY	○				運動部
157	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部

## 平成26年度学部卒業生の進路状況（9月卒業を含む）

H26卒 平成27年5月1日現在

区分	卒業年度	卒業者数 (A)	進学者数					就職者数										就職活動中	その他 (D)	就職率 (E) $E=C/(A+B+D)$ ×100			
			大学院・専攻科	他大学学部等	研究生等	各種専修学校等	留学	計 (B)	業種別内訳						計 (C)								
									教員			医療機関	一般企業	公務員		自営業	左欄以外 の人等の						
									小	中	高										特別支援 その他		
学部	教育学部	222	30	0	1	1	0	32	1	74	52	11	4	1	0	14	20	1	6	184	0	6	100.0
	社会情報学部	130	3	0	2	1	6	0	0	0	0	0	0	0	3	85	19	0	6	113	5	6	95.8
医学部	医学科	114	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	105	0	6	100.0
	保健学科	161	20	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	122	9	7	0	1	139	1	1	99.3
工学部	昼間コース	547	313	2	2	1	0	318	0	0	0	2	0	0	2	176	33	4	1	218	4	7	98.2
	夜間主コース	25	3	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	14	1	1	0	18	1	3	94.7
計	H26	1,199	372	2	3	4	1	382	1	74	52	14	4	1	233	298	80	6	14	777	11	29	98.6

① その他(D)欄は、留学生の帰国、各種試験準備者、家事従事、不明である。

# 平成 26 年度 学部卒業生の就職先

青字は、県内就職先

## 【教育学部】

### ■教育

〈教育委員会〉

群馬県教育委員会(学校事務)

〈幼稚園〉

渋川市立かに石幼稚園

〈小学校〉

群馬大学附属小学校 渋川市 太田市 前橋市 伊勢崎市 高崎市 富岡市 館林市  
藤岡市 桐生市 榛東村 安中市 玉村町 沼田市 川場村 大泉町 嬬恋村 明和町 邑  
楽町 みなかみ町 熊谷市 君津市 さとえ学園 銚田市

〈中学校〉

群馬大学附属中学校 桐生市 前橋市 みどり市 高崎市 藤岡市 太田市 渋川市  
富岡市 伊勢崎市 館林市 玉村町 吉岡町 千代田町 吾妻町 沼田市 草津町 大泉町  
神流町 佐野市 坂戸市 水戸市 栃木市 浜松市 伊東市

〈特別支援学校〉

群馬県 茨城県

〈高等学校〉

群馬県

### ■国家公務

国立教育政策研究所

### ■地方公務

太田市役所  
高崎市役所  
玉村町役場  
足利市役所

伊勢崎市役所  
富岡市役所  
安中市役所  
杉並区

前橋市役所  
沼田市役所  
桐生市役所  
裾野市役所

### ■その他法人等

NPO法人群大クラブ  
社会福祉法人 コロロ舎

国立赤城青少年交流の家  
笑顔あしかが

### ■企業

(株)東和銀行  
群馬県信用組合  
エディ・バウアーショップ  
(有)前橋アカデミー  
筑波銀行

(株)セディナ  
ARIGATO COMPANY (株)  
(株)スウィンスイミングスクール  
(株)KGT  
損保ジャパン日本興亜

(財)群馬県信用保証協会  
(株)桃源堂  
フジランゲージスクール日本語学校  
(株)アルカンシエル

## 【社会情報学部】

### ■国家公務

防衛省

### ■地方公務

群馬県  
伊勢崎市役所  
館林市役所  
新座市役所  
名寄市役所

前橋市役所  
渋川市役所  
栃木県警察  
吉川市役所  
中野区役所

みどり市役所  
富岡市役所  
新潟市役所  
須賀川市役所

### ■医療・福祉業

黒沢病院  
群馬中央医療生活協同組合

富岡総合病院  
社会福祉法人 雄勝福祉会

(株)ぐんま厚生会

### ■その他法人等

JA北群渋川  
群馬県信用保証協会

群馬県民共済生活協同組合

全国共済農業協同組合連合会群馬県支部

### ■企業

(株)群馬銀行  
(株)高崎共同計算センター  
(株)フレックス  
コンピュータロン(株)  
しののめ信用金庫  
東日本旅客鉄道(株)高崎支社  
トヨタ部品群馬共販(株)  
(株)浅野製版所  
J-ANGLE PRESS  
(株)KDDIエポルバ  
(株)きちり  
(株)関東マツダ  
(株)商工組合中央金庫  
(株)日宣メディックス  
(株)デーリー東北新聞社  
(株)ブリングアップ史  
サンポウ(株)  
(株)マツモトキヨシ甲信越販売  
(株)マイワーク  
(株)ユニバース  
日本郵便(株)  
東京センチュリーリース(株)  
東芝テック(株)  
三井住友海上あいおい生命保険  
富士通エフサス(株)  
野村證券

(株)東和銀行  
(株)とりせん  
(株)ホンダカーズ群馬中央  
システム・アルファ(株)  
サンデン・システムエンジニアリング(株)  
富士エンジニアリング(株)  
アイコミュニケーション(株)  
(株)イシクラ  
starlecs(株)  
(株)サウザンドクレイン  
(株)ザ・ワークス  
(株)コメット  
(株)カワチ薬品  
(株)ビジョナリータンク  
(株)東邦銀行  
(株)日本旅行  
近畿日本ツーリスト(株)  
(株)ベーシック  
(株)武蔵野銀行  
(株)湘南ゼミナール  
損保ジャパン日本興亜(株)  
日本情報産業(株)  
積水ハウス(株)  
東日本旅客鉄道(株)  
リコージャパン(株)  
山形県商工会連合会

(株)総合PR  
(株)ナブアシスト  
(株)ヤマニ熱工業  
(株)両毛システムズ  
群馬三菱自動車販売(株)  
上越印刷工業(株)  
(株)カルテット コミュニケーションズ  
(株)TKC  
(株)アイキューブ  
(株)サンシャインシティ  
(株)キューブ  
(株)かんぼ生命保険  
(株)ティージー情報ネットワーク  
(株)スタジオアリス  
(株)栃木銀行  
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング  
キャスレーコンサルティング(株)  
ケーブルテレビ(株)  
清原(株)  
日本生命保険相互会社  
日本住研(株)  
農林中央金庫  
セコム トラスト システムズ(株)  
ビークス(株)  
日本エス・エイチ・エル(株)

【医学部 医学科】

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	伊勢崎市民病院	富岡総合病院
群馬中央総合病院	高崎総合医療センター	済生会前橋病院
前橋赤十字病院	藤岡総合病院	前橋協立病院
太田記念病院	日高病院	東京医科歯科大学附属病院
東京大学医学部附属病院	順天堂大学医学部附属病院	慶応義塾大学病院
多摩総合医療センター	自治医科大学附属病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
JR東京総合病院	NTT東日本関東病院	国立奈良総合医療センター
埼玉心会病院	千葉市立青葉病院	横浜市立市民病院
虎ノ門病院	公立学校共済組合関東中央病院	横浜市立みなと赤十字病院
三楽病院	亀田総合病院	新松戸中央総合病院
小諸厚生総合病院	上尾中央総合病院	神戸市医療センター
赤穂中央病院	川崎協同病院	川崎市立川崎病院
大原総合病院	東京女子医大病院	国立病院機構災害医療センター
名古屋第一赤十字病院	日本赤十字社医療センター	木沢記念病院
都立駒込病院		

【医学部 保健学科】

■地方公務

前橋市役所	群馬県庁	桐生市役所
大泉町役場	さいたま市	福島県立医科大学

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院	群馬県立心臓血管センター	前橋協立病院
群馬中央総合病院	前橋赤十字病院	イムス太田中央総合病院
桐生厚生総合病院	北関東循環器病院	伊勢崎福島病院
大島病院	富岡総合病院	日高病院
はんな・さわらび療育園	黒沢病院	くすの木病院
善衆会病院	公立七日市病院	群馬リハビリテーション病院
希望の家療育病院	榛名荘病院	群馬整枝療護園
訪問看護ステーションふれあい	老年病研究所附属病院	福井循環器病院
東京大学医学部附属病院	慶応義塾大学病院	自治医科大学附属病院
佐久総合病院	青森県立中央病院	茨城県厚生農業協同組合病院
かごはら病院	足利日赤病院	磐田市立総合病院
LE在宅・施設訪問看護ステーション	河北総合病院	川崎協同病院
関東労災病院	北原国際病院	杏林大学医学部附属病院
検診センター ヘルチェック	甲府共立診療所	国際親善総合病院
小諸厚生総合病院	埼玉医科大学総合医療センター	昭和大学江東豊洲病院
聖路加国際病院	順天堂大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院
佐久穂町立千曲病院	静清リハビリテーション病院	西南医療センター病院
筑波大学附属病院	虎ノ門病院	日本医科大学附属病院
名古屋大学附属病院	東京都立小児総合医療センター	新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院
長野県健康づくり事業団	名古屋徳洲会総合病院	津山第一病院
吉田産婦人科小児科病院	三井記念病院	初台リハビリテーション病院
本多病院うららく		

■企業

(株)アルプ	PL東京健康管理センター	LSIメディエンス
たすく(株)	ハイブリッドエナジー	(株)ビー・エム・エル
(株)大日本住友製薬	(株)アイロム	福島県保健衛生協会



## 【工学部】(旧学科)

### 〔昼間コース〕

#### ■教育

桐生商業高等学校

#### ■地方公務

群馬県  
みどり市役所  
館林市役所  
明和町役場  
静岡県  
浜松市役所  
川上村役場

前橋市役所  
伊勢崎市役所  
甘楽町役場  
東京都  
静岡県警  
秩父市役所  
大田原高等学校

高崎市役所  
桐生市役所  
中之条町役場  
栃木県  
本庄市役所  
東松山市役所

### 〔夜間コース〕

#### ■地方公務

太田工業高等学校

#### ■国家公務

陸上自衛隊

## 【工学部 応用化学・生物化学科】

#### ■その他法人等

医療法人 徳真会グループ

#### ■企業

(株)ミツバ  
(株)アプロ  
(株)柴田合成  
(株)ユニクロ  
(株)マンナンライフ  
正田醤油(株)  
ユー・コーポレーション(株)  
(株)アウトソーシングテクノロジー  
(株)ザイエックスアカウントングパートナー  
(株)日立パワーソリューションズ  
(株)ライスアイランド  
(株)五光宇都宮店  
イオンフードサプライ(株)  
(株)MAGIファーム  
クリナップ(株)  
コカ・コーライーストジャパンプロダクツ(株)  
杉田エース(株)  
東芝ロジティクス(株)  
北海道電力(株)  
リコーインダストリアルソリューションズ(株)  
レゴリス(株)

環境技研(株)  
(株)荻野商店  
(株)新進  
カネコ種苗(株)  
(株)両毛システムズ  
手島精管(株)  
岡部工業(株)  
(株)北日本銀行  
(株)東洋クオリティワン  
(株)平和  
(株)化研  
hakkai(株)  
大塚製薬インドネシア  
(株)小松プロセス  
ケアサポート(株)  
シーケーエンジニアリング(株)  
第一屋製パン(株)  
戸田中央医科グループ  
三井食品(株)  
森乳業(株)  
協同乳業(株)

(株)原田  
(株)ジーシーシー  
(株)田村屋  
(株)コスメ・ニスト  
群馬セキスイハイム(株)  
東邦工業(株)  
(株)CIJネクスト  
(株)共立メンテナンス  
(株)ハーベス  
(株)マッシュビューティラボ  
(株)関越物産  
アツギ(株)  
(株)IIM  
(株)東京測器研究所  
興和(株)  
新幹線メンテナンス東海(株)  
東芝三菱電機産業システム(株)  
ニプロ(株)  
佐野信用金庫  
英弘精機(株)  
北良(株)

## 【工学部 機械システム工学科】

### ■企業

矢島工業(株)	柳田鉄工所	(株)山田製作所
(株)太陽技研	(株)NTTファシリティーズ中央	(株)アルプス技研
(株)オーエスピー	(株)ジーテクト	(株)プログレステクノロジーズ
(株)メイテックフィルダーズ	(株)小林製作所	(株)東光高岳
PANASONICSマレーシア工業	日高精機(株)	ヤマハ発動機(株)
日新電機(株)	ヤマハモーターエンジニアリング(株)	本田技研工業(株)
三菱電機エンジニアリング(株)	イハラサイエンス(株)	ファナック(株)
(株)システムサービス		

## 【工学部 環境プロセス工学科】

### ■企業

太田都市ガス(株)	(株)チャーム	(株)ヤマト
カンサン(株)	(株)ホーマック	(株)メッセージ
(株)富士通システムズ・イースト	SIIクリスタルテクノロジー(株)	カシュー(株)
(株)テクノ菱和	セントラルスポーツ(株)	中村商店(株)
日本オイルエンジニアリング(株)	富士フィルムオプティクス(株)	

## 【工学部 社会環境デザイン工学科】

### ■企業

河本工業(株)	(株)ジェイアイエヌ	佐田建設(株)
(株)林工組	いであ(株)	(株)日水コン
(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	(株)松永建設	木内建設(株)
東京コンサルタンツ(株)	東京電力(株)	富貴沢建設(株)
三井住友建設(株)	三谷セキサン(株)	前田工業(株)
日本道路(株)		

## 【工学部 電気電子工学科】

### ■その他法人等

(財)関東電気保安協会

### ■企業

(株)ミツバ	群馬電機(株)	白十字(株)
太陽誘電(株)	(株)ジーテクト	(株)ケーヒン
日立工機(株)	(株)エーアンドディ	パイオニア(株)
ルネサスエレクトロニクス(株)	横河電子機器(株)	日本アイビーエム(株)
日本サーモスタット(株)	チモロ(株)	

## 【工学部 情報工学科】

### ■企業

(株)ジーシーシー	(株)ナカヨ通信機	(株)ナブアシスト
(株)高崎共同計算センター	藤田エンジニアリング(株)	リード(株)
群馬銀行	(株)ユー・コーポレーション	日本エクス・クロン(株)
杉原エス・イー・アイ(株)	(株)エヌジェーケー	(株)ヴァレオジャパン
(株)リンクバル	(株)レジェンドアプリケーションズ	(株)第一情報システムズ
ネットビジョンシステムズ(株)	ユニアデックス(株)	横河ソリューションサービス(株)
デジタルプロセス(株)	日本郵便(株)	中央システム(株)
沼津信用金庫	山京(株)	

## 【工学部 生産システム工学科】

### 〔昼間コース〕

### ■企業

サンデン(株)	(株)ユタカ製作所	(株)岡本工作機械製作所
三恵技研工業(株)	ヨシモトポール(株)	(株)PFU
(株)アウトソーシングテクノロジー	(株)ヴァレオジャパン	(株)ジーテクト
(株)ヒシヌママシナリー	(株)ビジュアルリサーチ	住友生命保険相互会社
シグマテック(株)	日本精工(株)	野口精機(株)

### 〔夜間主コース〕

### ■企業

(株)タイワパーツ	サンデン(株)	本島総合病院
新富士化成薬(株)	(株)沖データ	(株)キーテクノロジー
明電興産(株)	中央キャリアネット(株)	三菱鉛筆(株)
谷村電機精機(株)	シャプトン(株)	(株)ビューズ
亀田建築	日本サーモスタット	(株)ジーテクト

## 3 学生受入センター

### 3.1 はじめに

学生受入センターは平成18年4月に発足された組織で、センターにはセンター長(理事(教育・企画・国際交流担当)、副学長)と副センター長、兼任教員(各学部の入試又は広報担当委員会の委員長)がいる。センターの運営については、学生受入センター運営委員会が設置されている。また、下部組織として入試部会・広報部会を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容は、入学者選抜方法に係わる改善に関する事、学生募集に係る広報活動及び大学入試センター試験に関する事等(以下、「入試業務等」という)である。当該入試業務等の事務は、入学試験委員会と連携を図るほか、学生受入課が各学部の入試担当係と連携を図り業務を遂行している。平成26年度の主な入試業務等の事項は、次のとおりである。

### 3.2 オープンキャンパス等

本学の教育研究及び大学生活の現状を、具体的に分かりやすく伝える場として、また、受験生の進路決定に資することを目的として全学のオープンキャンパス「群馬大学オープンキャンパス」と各学部が開催する「学部別オープンキャンパス」を実施し、群馬県内の全高等学校(99校)と全中学校(172校)、東北・関東・中部地方の平成24年度から26年度の入学試験において志願者のあった高等学校(891校)に案内した結果、延べ7,618名の参加者があった。

#### 3.2.1 群馬大学オープンキャンパス

平成26年8月2日(土)～3日(日)に、荒牧キャンパスで主に高校1,2年生を対象とした群馬大学オープンキャンパスを開催した。1日目は医学部(医学科・保健学科)・理工学部、2日目は教育学部・社会情報学部を対象とした大学紹介・学部説明を行い、延べ3,152名の参加者があった。

なお、当日実施したアンケート調査では、91.5%の参加者から進路選択の役に立った旨の回答が得られたこと等から、本行事の意義を確認することができた。

#### 3.2.2 学部等オープンキャンパス

群馬大学オープンキャンパスのほか、主に高校3年生を対象とした教育学部、社会情報学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部がそれぞれオープンキャンパスを開催した。各学部とも、学部説明、在校生の体験発表、模擬授業等を行い、延べ4,466名の参加者があった。

### 3.3 学生募集に係わる広報活動

#### 3.3.1 出前説明会、出張模擬授業及び大学見学

出前説明会については、群馬県内の全高校等(99校)、東北・関東・中部地方の過去3年間で出願があった高校(891校)に案内し、学部等との日程調整を行い14の高等学校で実施した。

また、49の高等学校で模擬授業を実施し、大学見学を希望する26の高等学校が来学し、生徒等に対し学部説明や構内を案内した。

### 3.3.2 進学相談会

受験者等との個別相談の機会を設けるため、関東地区の会場を重点的に、延べ 100 会場の進学相談会に参加（資料参加含む）し、延べ 2,000 名以上の受験生、保護者等に対し入試広報を行った。

### 3.3.3 ホームページ広報

本学ホームページを活用し、受験者等への情報発信を種々行っている。入学者選抜に関する要項や学生募集要項の発表、受験状況の公表のほか、平成 25 年度からは試験問題及び解答例・評価のポイント、群馬大学入学者選抜における受験上の配慮内容、次年度以降の入試の変更点を公表している。

また、大手の受験産業関連企業が運営する進学情報ウェブサイトに入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

### 3.3.4 高等学校等の教員を対象とした説明会

高等学校等の進路指導担当等の先生方に、「高等学校等の教員を対象とした入学試験に関する大学説明会」を開催した。群馬県内の全高等学校（99 校）、東北、関東（群馬県を除く）、中部地方の平成 24 年度から平成 26 年度入学試験において志願者のあった高等学校（891 校）に案内した結果、46 校 80 名の教員が参加した。

## 3.4 広報戦略の立案

平成 25 年度に作成した本学の広報活動の基本方針である「群馬大学学生募集に係わる広報戦略」について改善事項をとりまとめた「群馬大学学生募集に係る広報の改善」を作成し、いわゆる 2018 年問題に向け、効率的かつ有効な広報を大学一丸となって行っていくことを確認した。

## 3.5 入学者の追跡調査

入試の状況、各種アンケート及び入学後の成績等、入学者の追跡調査結果については、平成 26 年 12 月に入学者選抜方法研究報告書を作成し、次年度以降の入試改革に役立てることとした。

## 3.6 その他

文部科学省からの「平成 27 年度大学入学者選抜実施要項」において、「災害等の不測の事態への対応」が明記されたこと、平成 26 年 2 月の大雪被害や、平成 23 年 3 月の東日本大震災による後期日程試験の対応を踏まえ、平成 26 年 10 月に「群馬大学入学試験に係る危機管理対応マニュアル」の初版を作成した。

平成 25 年度に取りまとめた「群馬大学入学者選抜改善に関する検討課題」について、各学部からの修正・追加事項に基づき更新を行い、また、第 3 期中期目標・中期計画の策定、国の動向を見据えたアドミッション・ポリシーの見直し等による入試制度の改善について対応を実施した。

### 資料

1. 平成 26 年度入試広報について
2. 平成 26 年度群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数
3. 平成 26 年度群馬大学オープンキャンパス (8/2.3) アンケート結果（抜粋）

# 平成26年度入試広報について

資料1

## 1. 群馬大学オープンキャンパス

開催日	会場	主な対象者	主催
8月2日(土)、3日(日)	荒牧キャンパス	高校1、2年生	学生受入センター

## 2. 各学部オープンキャンパス

開催日	イベント名	主な対象者	主催
7月19日(土)	社会情報学部オープンキャンパス	高校2、3年生	社会情報学部
7月21日(月・海の日)	教育学部オープンキャンパス	高校2、3年生	教育学部
7月26日(土)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部
7月27日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部
7月29日(火)	医学部医学科オープンキャンパス	高校2、3年生	医学科
8月8日(金)	医学部保健学科オープンキャンパス	高校2、3年生	保健学科
9月21日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2、3年生	理工学部

## 3. 高等学校等の教員を対象とした入学試験に関する大学説明会

開催日	会場・ 参加高等学校数・参加者数	主な対象者	主催
7月25日(金)	荒牧キャンパス・ 46高等学校 80人	進路指導担当教諭等	学生受入センター

## 4. 出前説明会

開催日	会場	主な対象者	主催
4月～3月	古河第一高校外13校	高校生、教諭	学生受入センター

## 5. 出張模擬授業

開催日	会場	主な対象者	主催
4月～3月	桐生南高校外48校	高校生、教諭	学生受入センター

## 6. 進学相談会

開催日	会場	主な対象者	主催
4月～3月	本庄高校外会場99会場	高校生、保護者、教諭	学生受入センター

## 7. 高校訪問

訪問日	訪問先高校	主な対象者	主催
4月～3月	下館第一高校外116校	進路指導教諭	理工学部

## 8. 群馬大学見学等

見学日	回数	主な見学者	対応
4月～3月	野沢南高校外25校	高校生、教諭	学生受入センター、 各学部

※説明会等の件数は学生受入課へ申込みがあり、対応した件数(学部直接の申込み分は除く)

## 平成26年度群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

(単位:人)

区 分	開 催 日	参 加 者		
		26年度	25年度	比較増△減
群馬大学 オープンキャンパス	8月2日(土)	1,586	1,928	△ 342
	8月3日(日)	1,566	1,592	△ 26
小 計		3,152	3,520	△ 368
教育学部 オープンキャンパス	7月21日(月)	748	628	120
社会情報学部 オープンキャンパス	7月19日(土)	301	228	73
医学部医学科 オープンキャンパス	7月29日(火)	324	334	△ 10
医学部保健学科 オープンキャンパス	8月8日(金)	1,038	676	362
理工学部 オープンキャンパス (桐生キャンパス)	7月26日(土)	829	780	49
	7月27日(日)	785	861	△ 76
	9月21日(日)	441	278	163
小 計		2,055	1,919	136
合 計		7,618	7,305	313

## オープンキャンパス各学部・各種説明会参加者報告書

○ 8月3日(日)

## ① 午前の部

(単位:人)

説明会	区分	教室名	申込者数	参加者数		
				生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午前	GB155	595	459	153	612
社会情報学部説明会	午前	教育学部C204	289	230	93	323
大学概要説明会	第1回	GA302	381	93	26	119
	第2回			12	6	18
	第1回	GA308		71	42	113
	第2回			47	22	69
入試説明会	第1回	GB101		27	9	36
	第2回			61	41	102
留学等説明会	第1回	GB154		43	9	52
女子高校生説明会	第1回			107	15	122
学生生活説明会	第1回	ミュージックホール	2	8	10	
	第2回		5	13	18	
合計(延べ人数)			1,265	1,157	437	1,594

## ② 午後の部

(単位:人)

説明会	区分	教室名	申込者数	参加者数		
				生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午後	GB155	379	236	103	339
社会情報学部説明会	午後	教育学部C204	88	54	23	77
大学概要説明会	第3回	GA302	216	34	18	52
	第4回			20	14	34
	第3回	GA308		18	6	24
	第4回			0	0	0
入試説明会	第1回	GB101		12	13	25
	第2回			25	16	41
留学等説明会	第2回	GB154		39	8	47
女子高校生説明会	第2回			82	18	100
学生生活説明会	第3回	ミュージックホール	1	5	6	
	第4回		3	16	19	
合計(延べ人数)			683	524	240	764

	申込実人数	参加実人数
合計	1,497	1,566

クイズラリー参加者:162



## 平成26年度群馬大学オープンキャンパス(8/2, 3)アンケート結果(抜粋)

### 1. 参加状況

#### (1) 学部別参加状況

※学部の区分は、申込受付時の学部別説明会申込者数及び当日の説明会参加者数による。

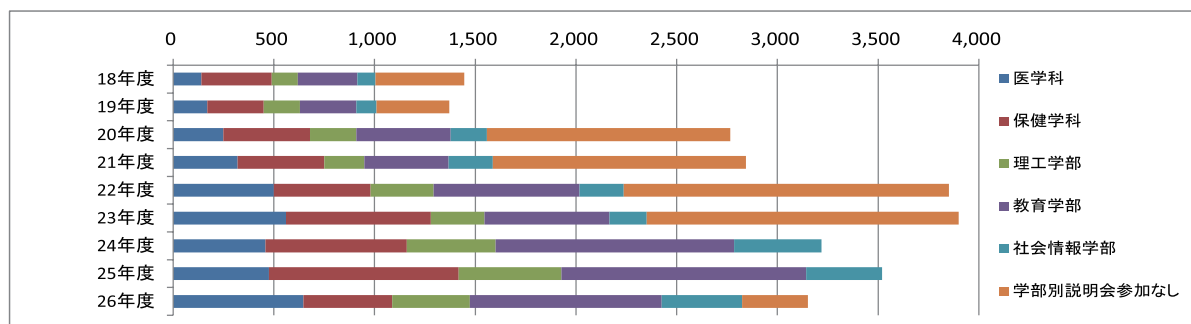
##### ①学部別参加者数、申込者数に対する参加割合

	医学科	保健学科	理工学部	教育学部	社会情報学部	合計
申込者数(A)	775	522	413	974	377	3,061
参加者数(B)	647	441	386	951	400	2,825
参加率(%) (B/A*100)	83.5	84.5	93.5	97.6	106.1	92.3

##### ②【経年比較】学部別 参加者数

年度	学部・学科						学部別説明会参加なし	全体
	医学科	保健学科	理工学部	教育学部	社会情報学部	学部別説明会参加なし		
18年度	140	350	130	295	90	440	1,445	
19年度	170	280	180	280	100	362	1,372	
20年度	250	430	230	468	180	1,208	2,766	
21年度	320	430	200	417	220	1,257	2,844	
22年度	500	480	313	724	220	1,614	3,851	
23年度	560	720	265	621	185	1,548	3,899	
24年度	459	702	440	1,184	433	0	3,218	
25年度	476	942	510	1,215	377	0	3,520	
26年度	647	441	386	951	400	327	3,152	

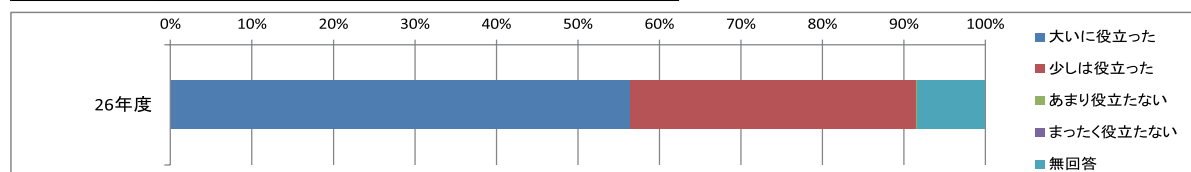
※平成24, 25年は必ずいずれかの学部説明会に参加する方式で行った。



### 2. オープンキャンパス参加者の感想等

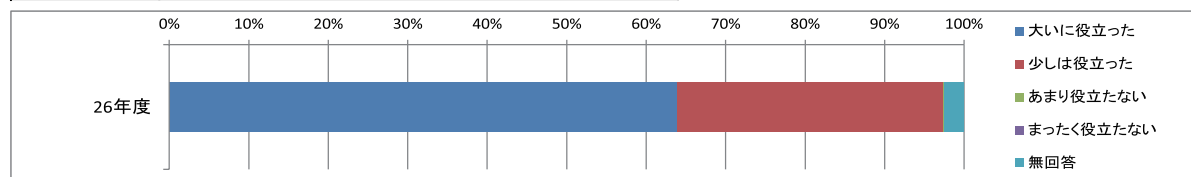
#### (1) 参加した説明会等は進路選択の役に立ちますか

回答項目	大いに役立った	少しは役立った	あまり役立たない	まったく役立たない	無回答
26年度	359	224	1	0	53



#### (2) 配付した資料は進路選択の役に立ちますか

回答項目	大いに役立った	少しは役立った	あまり役立たない	まったく役立たない	無回答
26年度	407	213	1	0	16



<備考> ①アンケート対象者 : 群馬大学オープンキャンパス参加者 (参加者数 : 3,152名)  
 ②アンケート回答者数 : 637名  
 ③回答率 : 総回答者数 (637) / アンケート対象者数 (3,152) × 100 = 20.2 (%)

## 4 健康支援総合センター

### 4.1 はじめに

健康支援総合センターは、学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図るため、健康診断をはじめ、その事後措置と指導助言、身体的及び精神的な健康相談、感染症予防、健康に係る調査及び研究を行っている。

健康支援総合センターの活動は、第1期、第2期中期計画に従い、着実に発展をしてきているが、大学を取り巻く環境が変化していく中で、更なる進展が必要であり、配置されている医療職が絶対的に不足している。この状況に対しては、第1期中期計画で改善されるべき課題であったが、第2期中期計画として引き継がれ進行中である。

今回は、平成26年度の健康支援総合センターの活動を報告する。

平成26年度は副センター長を務めていた内科医が定年退職となり、平成25年度に赴任していた教授職の精神科医がその職を兼任することとなった。また内科医の欠員を補充するため女性医師が講師として赴任し常勤医師体制が一新された。

そこで、平成26年度第1回の健康支援総合センター運営委員会において、今後は時代の要請に応じ、①教職員の健康管理、特にメンタルヘルス対策を人事労務課と協力して推進する（平成27年12月に施行となる改正労働安全衛生法；ストレスチェック制度に備える）、②学内の連携を強化し、学生のメンタルヘルス支援拡充を図る。さらに、障害学生支援室との協力を高める（平成28年4月に施行される障害者差別解消法に備える）、③学外の医療・教育関係機関との連携を進め、地域貢献の一助を担う、といった方針を確認した。

### 4.2 平成26年度年間業務実施概要

平成26年度に新規に実施した事項は、下記の4項目である。

- ①荒牧キャンパスにおいて、カウンセラー（学外臨床心理士）によるカウンセリング時間をさらに増やすことで学生への便宜を向上させた。
- ②発達障害の可能性のある学生への支援策について、障害学生支援室のスタッフとの連携を深め、特に桐生キャンパスへの巡回を増やした。
- ③人事労務課と協力し、教職員の健康管理における産業医体制を拡充した。
- ④「健康支援総合センターの運営に関する申し合わせ」を定め、昭和地区、桐生地区での業務運営体制について明文化した。

それぞれについて、詳しく報告する。

- 1) 荒牧キャンパスにおけるカウンセラーによるカウンセリング対応回数及び曜日の拡充  
荒牧キャンパスでは、平成26年度までカウンセラー1名による週1日のカウンセリングが行われていたが、希望者が増加し、かつ発達障害傾向が疑われる者が増加してきたことから、平成25年度の途中から週3時間、発達障害を専門とするカウンセラーを1名追加した。しかし、それでも希望者が多く、平成26年度は週4時間に時間数を増やした。
- 2) 発達障害学生への支援強化  
障害学生支援室に発達障害学生への修学支援に関するワーキング・グループを設置して綿密な連携を取る体制が強化された。平成27年1月には、発達障害の治療に関する県内第一人者である精神科医師を講師として、当センターと障害学生支援室の共催で発達障害の学生への対応に関するシンポジウムを開催した。また、その内容に関して理工学部教員への説明会を同時期に実施し、桐生キャンパスでの体制を強化した。
- 3) 産業医業務に関しては人事労務課が統括しているが、平成25年度途中から荒牧・上沖・若宮地区に関しては健康支援総合センター 医師2名（内科、精神科）が兼務する体制をとっている。昭和地区は医学部専任教員である医師1名が兼務しており、桐生・

太田地区は学外の医師会医師に依頼している。平成 26 年度はこれらの産業医の意見を集約するための産業医部会が発足し、副センター長が統括産業医に任命された。

4) 従来、昭和地区学生健康相談室に非常勤看護師が 2 名（日替わり）、桐生地区保健室に常勤看護師が 1 名が配置され保健活動を行っていたが、指揮系統を明確にするためそれぞれ、昭和健康支援室、桐生健康支援室と分室化した。

また、これらの連携を円滑にするため、3 キャンパスに設置されたテレビ会議システムを活用した。

## 4.3 学生定期健康診断

### 4.3.1 学生定期健康診断状況

平成 26 年度の学生定期健康診断は、資料 1 に示す日程で実施した。

学生定期健康診断は、医学部附属病院から延べ 28 名（桐生地区派遣の医師を含む）の医師の派遣の協力を得て実施した。また、検査及び診察補助を目的に看護師を前橋地区の健康診断に延べ 35 名、学外機関へ派遣依頼した。

### 4.3.2 学生定期健康診断受診状況

受検状況は、資料 2 に示すとおりである。学部学生の受検率は前橋地区では全体で 85.0%（数値は「血圧測定・尿検査・内科診察」を示す。以下同様）、桐生地区では全体で 89.5%と極めて良好である。この受検率は全国的にもトップレベルである。学部別では教育学部 97.9%，社会情報学部 91.2%，医学部医学科 83.0%，医学部保健学科 96.7%，理工学部 1 年 98.7%，理工学部昼間 2 年以上 90.3%，工学部夜間主 73.0%の受検率であった。

1 年生だけを見ると教育学部 99.6%，社会情報学部 100%，医学部医学科 96.5%，医学部保健学科 99.4%，理工学部 98.7%とほぼ全員が例年と同様に受検した。

大学院生の受検率は、医学系研究科の受検率が 22.1%，保健学研究科の受検率が 20.5%と例年以上に極端に低値であった。医学系研究科の院生は医療機関に就業している社会人が多く、所属先の医療機関で健康診断を受けている可能性もあるが、今後、実質的受検率を上げることが望まれる。

医学系研究科には外国人留学生が多く、彼らは他の医療機関での受検の機会もなく、以前に感染性肺結核症の発生をみたので、クオンティフェロン TB 検査をして結核感染のチェックをしている。しかし、発症の判定には胸部レントゲン検査が欠かせないため、大学院生の外国人留学生の指導教員から本人に、受診をするように指導をしている。

### 4.3.3 健康診断時における精神保健調査

#### (1) 新入生の精神保健調査

入学時に提出された新入生版メンタルヘルス質問票により要面接者をスクリーニングし、センター精神科医を中心に、非常勤臨床心理士及び附属病院精神科医師 10 名により、診断的面接を実施した。対象は、各学部新入生、大学院新入生（医学系研究科生、保健学研究科生、理工学府生を除く）、特別支援教育特別専攻科新入生及び編入生である。

結果は資料 3 のとおり。

#### (2) 在校生の精神保健調査

健康診断時に提出された在校生版メンタルヘルス質問票により要面接者をスクリーニングし、センター精神科医を中心に、非常勤臨床心理士により、診断的面接を実施した。対象は、荒牧・昭和・桐生・太田地区の新入生を除くすべての学生（在校生）である。結果は資料 3 のとおり。

#### (3) 質問内容

平成 25 年度に改訂されたメンタルヘルス質問票（新入生版 37 項目、在校生版 22 項目）

を今年度も用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴、発達障害支援希望について調べ、面接の可否を判定した。

#### (4) 結果の分析

要面接者は、新入生においては昨年度の3.0%から3.5%と微増し、在校生においては2.0%から2.1%とほぼ同じであった。

年度により若干の差はあるが、メンタルヘルス不調の中核群の抽出は堅持されていると考えられる。

#### 4.3.4 学生特殊健康診断の実施

特殊健康診断の受診対象者は、「常時使用する労働者」であり、教職員、非常勤職員であるが、学生も教員等と同様の環境下にあることから特殊健康診断の対象とすることが必要であると考えられる。このことから、平成26年度より「特殊健康診断を受診している教員の研究室に配属している工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」、「作業環境測定結果が、第二及び第三管理区域であった研究室に配属している工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」を対象に同健康診断を実施している。

その結果、受診者260名中、異常なし237名、要経過観察者8名、要精密検査者は15名であった。要精密検査の学生には、医療機関を受診し検査を受けるよう指導した。

## 4.4 外国人留学生健康診断状況

外国人留学生の特別健康診断を毎年11月頃に行っているが、平成21年度からは結核感染の有無を検査するクオンティフェロンTB検査を実施している。

受検率及び検査結果を資料4に示す。

陽性者、擬陽性者に対しては、4月に胸部レントゲン検査を受けて異常が無い者については毎年必ず胸部レントゲン検査を受けるように指導し、それ以外の者は医療機関を紹介している。

## 4.5 ウイルス性疾患抗体検査

本学医学部では新入生全員に対し、附属病院での臨床実習を安全に行うために、平成18年度から麻疹、風疹、水痘、ムンプス（流行性耳下腺炎）、B型肝炎に対する抗体価測定を行い、陰性者にはワクチンの接種を実施している。B型肝炎ワクチン接種は医学部の委嘱により健康支援総合センターが行っている。資料5に示すようにワクチン接種前のB型肝炎ウイルス抗体陽性者は3.7%であった。

## 4.6 健康支援総合センター利用者等

健康支援総合センターで行った健康相談の人数、件数、内容について報告する。

### 4.6.1 利用者数

健康支援総合センターの利用件数を所属学部別に分類した結果を資料6に示す。荒牧キャンパス所属以外の学生数は荒牧キャンパスに来ている時に利用した者の数である。年間延べ1,197名の利用があり、前橋地区の学生の約3人に1人が利用したことになる。大学の保健施設としては十分に機能している状態と判断される。

### 4.6.2 利用件数

利用件数を健康相談、精神保健相談、健康診断書の発行の3つに分類し月別に集計した結

果を資料7に示す。

この表の「健康相談」には、応急処置も含まれている。

健康診断書は、各キャンパスから自動発行されるようになったこと及び就職時の提出が義務づけられなくなったことから、健康支援総合センターからの発行数は激減している。しかし、様式が決められている健康診断書については手書きで発行しており、その数は130通であった。

学校保健安全法に定められている健康診断で行う検査項目以外の検査項目について記入を求められる診断書については、健康支援総合センターでは作成できないので、所属学部の担当部署を通して別の医療機関で作成してもらうように指導している。

#### 4.6.3 疾病領域別利用者数

疾患領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料8に示す。精神科が483名、呼吸器系が191名と、圧倒的に多数である。呼吸器系疾病はほとんどがいわゆる風邪である。精神科は前年から大幅に増加しており、身近な問題に関するカウンセラーによる心理相談、より複雑な背景に関する精神科医の診断的面接及び精神療法、さらには重度に至る前の早期医療機関受診、というトリアージの流れが確立されつつあることを示している。

#### 4.6.4 医療機関紹介の診療科分類

健康支援総合センターから他の医療機関へ紹介した患者を資料9に示す。精神科を含めてのべ156回の紹介をしている。前年に比べて大幅に増加しており、重篤な疾患に至るリスクを持つ学生が増えてきていることがわかる。

#### 4.6.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計し、資料10に示す。合計997日分を処方した。前年に比べて大幅に増加している。解熱・消炎・鎮痛剤、感冒剤が多数を占めている。また、現在向精神薬については扱っていない。

#### 4.6.6 常備薬使用数

上記の内容を使用薬剤毎に月毎に集計して資料11に示す。錠剤は1錠、軟膏等外用薬は1本、1瓶を1単位として算定した。総合計2,406単位中で感冒剤であるPL顆粒が832単位と圧倒的に多い。次が漢方剤411単位で、これらのほとんどは主に上気道感染症に使用したものである。

### 4.7 からだの健康相談・こころの健康相談

#### 4.7.1 からだの健康相談・こころの健康相談

健康相談を「からだの健康相談」と「こころの健康相談」に分けて集計した結果を資料12に示す。

この表では「こころの健康相談」は健康支援総合センター内での利用者数（主に荒牧、昭和キャンパス）を示し、精神科医によるものを「医師」、臨床心理士によるものを「カウンセラー」と表した。

精神科医による「メンタルヘルス相談」と臨床心理士による「カウンセリング」は共通する面もあるが目的の異なるものであるため、両者を区別して集計した。

また、「カウンセラー紹介」は健康支援総合センターのカウンセラーへの紹介をさす。

さらに健康支援総合センターでは産婦人科医による「レディースクリニック」を定期的で開催しており、その利用数も示してある。

救急転送は6件であった。

#### 4.7.2 こころの健康相談者数

健康支援総合センター内で行ったこころの健康相談者数を資料 13 に示す。

なお、学生支援センターが毎年 2 回行っている、学生の欠席状況調査の結果、担当教員から精神科医との面談が必要と判断された者に対して精神科医がメンタルヘルス相談を行っており、本人が来所した事例ではその数を含めている。ただし、上記の数には含まれないが、学生本人ではなく、家族や担当教員との面談や電話・メール相談が年々増加している。

今後とも、こころの健康相談者数は増加することが予測され、メンタルヘルス相談時間、カウンセリング時間の増加は避けられないと判断される。

### 4.8 学外臨床心理士による心理カウンセリング数

この業務は、平成 19 年度から荒牧、昭和、桐生の 3 キャンパスで開始され、その後、平成 21 年から太田キャンパスを含めて、全 4 キャンパスで実施している。利用者数は資料 14 のとおりである。開設時間は、荒牧では週 1.5 日、昭和では週 1 日、桐生では週 1.5 日、太田では隔週 3 時間となっている。

昨年度に比し利用者数や利用回数は 40%～50%と大幅に増加し、かつ、対応の難しい相談が増えている。

なお、教職員に対するカウンセリングは、年間に 32 回もあり、前年度に比べて倍増している。今後は大学として教職員のメンタルヘルスへのシステムティックな取り組みが必要であり、たとえば外部機関（EPA）や学外カウンセラーを利用したサポートを構築する必要がある。

### 4.9 教員による教養教育への参加等教育への参加状況

健康支援総合センターの教員は教養教育の講義を担当している。具体的には健康学原論の中で前期に内科医、精神科医がそれぞれ 90 分の講義を 5 回行っている（同一内容を全新生入生に対して）。

内科医は「からだからのサインに気づく」と題して大学生に必要となる傷病対策についての講義を行い、精神科医は「精神の健康」をテーマに発達障害を含めたメンタルヘルス不調全般について講義を行っている。

また、3 月には学務部主催の第 32 回クラブ・サークルリーダーシップ研修会において、精神科医が「飲酒とタバコ 健康に関するルールとマナー」題し、60 分間の講演を行った。

精神科医は、医学部非常勤講師として医学科 3 年生臨床行動科学講義「心の健康を保つには」（1 コマ）を行い、また公衆衛生学の実地見学（群馬産業保健総合支援センター）の講義を 1 コマ行った。

### 4.10 教員による健康管理に関する調査研究業務

平成 25-27 年度文部科学省科研費

「学校現場の日常的活動の中で実施できる児童生徒の自殺予防プログラムの開発と応用」  
（課題番号 25350837 基盤研究（C） 研究代表者 竹内一夫）

### 4.11 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の会議を主催した。

1) 第 21,22 回 健康支援総合センター運営委員会

議題は各健康支援総合センター運営委員会次第（資料 15）のとおりである。

運営委員会の議題については、平成 19 年度より健康支援総合センターから審議希望事項を各学部呼びかけて募っている。なお、第 22 回健康支援総合センター運営委員会で決定された業務内容が平成 27 年度の業務として実施される。

- 2) 平成 26 年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会「発達障害～児童思春期から成人期へ～」（講師 溝口健介 医療法人喜志会ケンクリニック理事長）（平成 27 年 1 月 12 日）
- 3) 群馬県内大学等保健管理担当者会議（9 月 30 日，1 月 21 日）

群馬県内の大学，短期大学，高専の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席により開催した。

#### 第 12 回群馬県内大学等保健管理担当者会議

9 月 30 日に荒牧キャンパスで開催，14 校 16 名が参加した。

全国大学保健管理研究集会等各種研究会の報告，「健康ミニガイド 2015」について協議した。

「学生健康診断の検査項目について」，「メンタルヘルスチェックの実施に関して」など情報を交換した。

#### 第 13 回群馬県内大学等保健管理担当者会議

1 月 21 日に荒牧キャンパスで開催し，18 校 19 名が参加した。

全国大学保健管理研究集会等各種研究会の報告，「健康ミニガイド 2015」について協議した。

健康支援総合センター講師による「感染症について」の講義をうけ，「健康診断の事後指導について」など情報を交換した

## 4.12 平成 26 年度健康支援総合センター運営委員会委員

平成 26 年度の健康支援総合センター運営委員会の委員は健康支援総合センター運営委員会名簿（資料 16）のとおりである。

## 4.13 健康支援総合センターの全国会議等出席

下記の全国会議等に健康支援総合センターの教職員が出席した。全国会議等への出席は，組織の機能の維持，発展を図るための研修，情報交換として必須である。

- 1) 第 5 回 全国大学保健管理協会総会  
副センター長が出席，発表 開催地：京都 6 月 6 日～7 日
- 2) 第 52 回 全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会  
副センター長，講師，看護師が出席 開催地：東京 8 月 28 日～29 日
- 3) 第 52 回 全国大学保健管理研究集会  
副センター長が出席，発表 開催地：東京 9 月 3 日～4 日
- 4) 平成 26 年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会  
副センター長がセンター長の代理で出席 開催地：東京 9 月 5 日
- 5) 第 36 回全国大学メンタルヘルス研究会  
副センター長が出席 開催地：京都 12 月 10～12 日

## 4.14 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- 1) 教育学部体育大会
- 2) 社会情報学部スポーツ大会
- 3) 群馬大学オープンキャンパス

- 4) 荒牧祭
- 5) 教育学部, 社会情報学部推薦入学試験
- 6) 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験
- 7) 大学入試センター試験
- 8) 個別学力検査(前期, 後期)
- 9) 学位記授与式

#### 4.15 出版・広報活動

平成 26 年度は下記の出版, 広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド 2014 ～よりよいキャンパスライフを送るために～」を発行した。  
先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が健康についての意識や知識を高めてもらうことを目的に共同で作成した冊子であり, 新入生全員に(1,300部)配布した。
- 2) 「群馬大学大学教育・学生支援機構報告書 健康支援総合センター」の平成 25 年度の原稿を作成して提出した。
- 3) 学生全員に健康支援総合センター案内と自己管理用の携帯用カードを作成し配布した。
- 4) 依頼原稿「産業看護」(メディカ出版) 2014 年第 4 号 54-58p 「働く女性のライフスタイルと仕事のストレスとの関連～調査データから見た支援のポイント～」(群馬大学・竹内一夫)
- 5) 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」出演 (群馬大学・竹内一夫)  
2015 年 1 月 9 日(金)「職場における成人 ADHD (注意欠如・多動性障害)」
- 6) 共著「シンプル衛生・公衆衛生学 2014」(南江堂), 2014 年, 東京。

#### 4.16 社会貢献活動

健康支援総合センターの教員は, 専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

##### 精神科医

各種外部委員, コンサルテーション, 嘱託医

平成 26 年度 群馬産業保健総合支援センター相談員

平成 26 年度 群馬県立健康科学大学非常勤講師

平成 26 年度 群馬大学医学部非常勤講師(公衆衛生学, 精神医学)

平成 26 年度 群馬地方労働審議会委員

平成 26 年度 第 1 回前橋オクトーバーフェスト実行委員会顧問, など

そのほか医師会, 看護協会, 労働基準協会連合会, 私学振興会, 高校などの要請に応じて, 各種講演や講義を行った。

##### 内科医

嘱託医

平成 26 年度 渋川看護専門学校非常勤講師

#### 4.17 その他の活動

- 1) 荒牧事業場安全衛生委員会への出席  
産業医を兼務している講師が毎月 1 回出席し, 職場巡視報告を行った。
- 2) 若宮事業場安全衛生委員会への出席  
産業医を兼務している副センター長が 2 回出席した(含・職場巡視)。
- 3) 上沖事業場安全衛生委員会への出席



- 産業医を兼務している副センター長が年1回出席した（含・職場巡視）。
- 4) 荒牧事業場の事務局の職場巡視  
産業医を兼務している講師が原則的に月1回（年に10回）行った。職場巡
  - 5) 第1回産業医部会が3月に開かれ、精神科医、内科医が出席した。
  - 6) 人事労務課からの依頼を受け、若宮事業場と上沖事業場の職場健診における医師診察を行った。

#### 4.18 キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーは、平成22年6月から桐生キャンパスに配置され、担当教員からの連絡が付かない状態の学生、休学中の学生など大学との関係が取れていない学生を担当の教員に結びつける作業を行った。対象学生は担当教員及び担当カウンセラーから依頼のあった者とした。平成26年度は18名の学生への対応の要求が出された。依頼した教員からは良好な評価を得ているので、今後とも更なる介入の工夫と技術の向上を図りながら経験を蓄積することにより機能の向上をめざしたいと考えている。

#### 4.19 健康維持・向上相談員の活動

本事業は、平成23年10月から開始され、昭和キャンパスに週に19時間（毎日正午から午後4時まで（金曜日は3時まで））看護師を健康維持・向上相談員として配置した。

病院の感染制御部が行う医学部学生へのインフルエンザワクチン接種時の医師への補佐や学生へのカウンセラーの誘導、週末に受診できる医療機関の情報提供、休養ベッドの効果的な利用について、健康維持・向上相談員は効果的に機能している。

#### 4.20 健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性

平成19年度の報告書の中で、解決可能事項として下記の4項目が挙げられており、その進捗状況について報告する。

- 1) 学生の定期健康診断時の胸部レントゲン撮影経費は、健康支援総合センター経費からでなく、実費の全額を大学が直接支払う方式とする。
- 2) 桐生キャンパスでの学外臨床心理士による実施時間の増加
- 3) 昭和キャンパスへの医療職の配置
- 4) 外国人留学生の感染性肺結核対策の徹底

1) については、胸部レントゲン検査経費を含めた前年度の実績に応じた健康診断経費が健康支援総合センターの予算として配分されるようになって実質的に解決できた。

2) については、平成22年度から隔週に半日ではあるがキャンパス・ソーシャルケースワーカーを配置し、平成23年度からは毎週に拡大すること、及び平成24年度からの学外カウンセラーの時間の拡大をすることで大きな進展をした。しかし、発達障害学生対策も加わり、桐生キャンパスにおけるメンタルヘルス対策は抜本的な解決には至っておらず、今後の課題として後述する。

3) については、平成23年10月から昭和キャンパスに週に19時間（4時間4日間、3時間が1日）看護師を「健康維持・向上相談員」として配置することができ、ほぼ解決した。

4) については、平成21年度に開始された。入学した留学生に対してクオンティフェロンTB検査を毎年行うことで問題が全面的に解決された。

前述の2)の課題については、前述したようにこの数年間に大きな進展が見られた。しかし、将来的には、桐生キャンパスに常駐する精神科医を新たに配置すべきである。カウンセラーは業務の性質上、関われる対象が原則的に学生に限定されているので、学生の単位の認

定などに関わる事柄に対して、担当の教員へは直接には関われないことも多い。また、非常勤であるため関わられる時間に制限がある。そのため、どうしても教員との間に、学生の病態をよく把握している精神科医の仲立ちが必要なことが、ここ数年の経験で明らかになってきた。日常的な配置が困難であれば、週に半日3回程度の配置を目指すのが具体的な解決策である。今後、桐生キャンパスにおける精神科医の新たな配置の必要性を健康支援総合センター運営委員会に提案し審議していきたい。

## 4.21 健康支援総合センター資料集

- 資料 1 : 平成 26 年度前橋地区学生定期健康診断日程表  
平成 26 年度桐生・太田地区学生定期健康診断日程表
- 資料 2 : 平成 26 年度学生定期健康診断受検状況（前橋地区）  
平成 26 年度学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）
- 資料 3 : 平成 26 年度精神保健調査
- 資料 4 : 平成 26 年度外国人留学生健康診断結果
- 資料 5 : 平成 26 年度医学部 1 年ウイルス性疾患（麻疹，風疹，水痘，流行性耳下腺炎）  
抗体価検査 他
- 資料 6 : 平成 26 年度利用人数
- 資料 7 : 平成 26 年度利用件数
- 資料 8 : 平成 26 年度疾病領域別利用者数
- 資料 9 : 平成 26 年度医療機関紹介の診療科分類
- 資料 10 : 平成 26 年度薬剤別使用数（処方日数による）
- 資料 11 : 平成 26 年度常備薬使用数
- 資料 12 : 平成 26 年度からだの健康相談・こころの健康相談の対応内容
- 資料 13 : 平成 26 年度こころの健康相談者数・こころの健康相談内容
- 資料 14 : 平成 26 年度カウンセラー相談利用状況
- 資料 15 : 第 21 回（平成 26 年度第 1 回）健康支援総合センター運営委員会次第 他
- 資料 16 : 平成 26 年度健康支援総合センター運営委員会委員名簿

## 4.21 健康支援総合センター資料集

資料1

### 平成 26 年度 前橋地区学生定期健康診断日程表

受付時間 実施日	午 前		午 後		対象数(概数) 3,850名
	9:00～10:15 (75分)	10:15～11:30 (75分)	13:00～14:15 (75分)	14:15～16:00 (105分)	
4. 1(火) ※全学 オリエンテーション	医学部(医学科・保健学科)4年		社会情報学部2年	社会情報学部3年	午前775名 午後405名
	医学部医学科5年				
	大学院(医学系, 保健学)2～4年		社会情報学部4年		合計1,175名
	医学部医学科6年				
4. 2(水)	医学部保健学科1年 (検査・理学・作業) 【ワクチン接種用採血あり】	医学部保健学科1年 (看護) 【ワクチン接種用採血あり】	医学部医学科1年 【ワクチン接種用採血あり】		午前440名 午後270名 + α
	医学部医学科2年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】		社会情報学部1年		
	医学部保健学科3年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】		社会情報学部3年次編入生		合計710名 + α
	大学院(医学系, 保健学)1年		大学院(社会情報学)1～2年		
	医学部医学科2年		予備日		
4. 3(木) ※入学式	教育学部2年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		教育学部3年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		午前360名 午後330名
	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)		
	教育学部4年 (国語・社会・英語) (数学・理科・技術) (音楽・美術・保健体育) (家政・教育・教育心理・ 障害児教育)				合計690名
4. 4(金) ※学部別 オリエンテーション	教育学部1年 (国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)		医学部医学科3年	医学部保健学科2年 (看護)	午前405名 午後350名
	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)				
	特別支援教育特別専攻科		医学部保健学科3年 (検査・理学・作業)	医学部保健学科3年 (看護)	合計755名
	大学院(教育学)1～2年				
医学部保健学科2年 (検査)	医学部保健学科2年 (理学・作業)				
4. 7(月)	理工学部1年 (機械知能システム) (環境創生) (化学・生物化学) (電子情報)				午前200名 + α 午後320名
	(総合理工)		(総合理工)		
	予備日				合計520名 + α

※ 健康診断項目: 既往歴. 身体計測. 血圧測定. 検尿. 胸部X線撮影. 内科診察. アンケート

※ 健康診断会場: 健康支援総合センター

- 1) 原則として割り当てられた日程で健康診断を受けてください。都合の悪い方は、予備日を利用して受けてください。
- 2) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。
- 3) 学部第1年次生の健康診断日程については、当該年度の教養教育授業時間割により、同一健康診断日の範囲内で変更する場合があります。
- 4) 1年生の学籍番号は、全学オリエンテーションのときに書面で配付します。追加合格のある講座等については検討します。
- 5) 理工学部総合理工学科(フレックス制)1年生で、夜間開講科目を履修する学生は、桐生キャンパスで実施する健康診断を受けることも出来ます。

○4/1(火)全学共通オリエンテーション(予定)

○4/3(木)入学式(予定)

○4/4(金)学部別オリエンテーション(予定)

○医学科1・2年生は第1土・日曜日が合宿研修、医学科5年生は第1金・土曜日は合宿研修。

## 平成26年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表

キャンパス	検査項目	実施日	時間	対象	対象数(概数) 2,620人
桐生 キャンパス	胸部X線撮影・検尿	4/15(火)	9:00～11:30 13:00～16:00	昼間学生 大学院生 <small>総理工学科(夜間開講 科目履修学生)</small>	2,350人
		4/16(水)			
		4/17(木)			
	内科診察・計測	4/22(火)	13:00～17:00	昼間学生 大学院生 <small>総理工学科(夜間開講 科目履修学生)</small>	
		4/23(水)			
		4/24(木)			
		4/25(金)			
太田 キャンパス	全項目	5/14(水)	18:15～19:30	夜間主学生	70人
		5/15(木)	10:10～12:00	昼間学生 大学院生	200人

- ・クラスごとの実施割振りは、平成26年度前期授業時間割表により決定する。
- ・授業の空き時間を活用し、全ての実施時間が授業と重なった場合は休講措置とする。

### 1) 健康診断項目

- 4月15日～17日 胸部X線撮影・検尿・アンケート
- 4月22日～25日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察
- 5月14日・15日 胸部X線撮影・検尿・既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・アンケート

### 2) 健康診断会場

- 4月 桐生キャンパス1号館4階
- 5月 太田キャンパス教室

## 平成 26 年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学部合計	3,323	3,112	93.7%	3,112	93.7%
大学院等の合計	556	187	33.6%	184	33.1%
<b>合計</b>	<b>3,879</b>	<b>3,299</b>	<b>85.0%</b>	<b>3,296</b>	<b>85.0%</b>

対象者数は平成26年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に、教育学部研究生2名・交換留学生11名、社会情報学部研究生4名・交換留学生6名、医学部研究生1名が受検した。

## &lt;学部学生&gt;

		対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
			受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学部	1年	225	224	99.6%	224	99.6%	
	2年	230	226	98.3%	226	98.3%	
	3年	223	216	96.9%	216	96.9%	
	4年	237	230	97.0%	230	97.0%	
	<b>合計</b>	<b>915</b>	<b>896</b>	<b>97.9%</b>	<b>896</b>	<b>97.9%</b>	
社会情報学部	1年	106	106	100.0%	106	100.0%	
	2年	103	93	90.3%	93	90.3%	
	3年	125	116	92.8%	116	92.8%	
	4年	145	122	84.1%	122	84.1%	
	<b>合計</b>	<b>479</b>	<b>437</b>	<b>91.2%</b>	<b>437</b>	<b>91.2%</b>	
医学部	医学科	1年	113	109	96.5%	109	96.5%
		2年	130	114	87.7%	114	87.7%
		3年	126	85	67.5%	85	67.5%
		4年	119	77	64.7%	77	64.7%
		5年	106	97	91.5%	97	91.5%
		6年	117	108	92.3%	108	92.3%
	<b>合計</b>	<b>711</b>	<b>590</b>	<b>83.0%</b>	<b>590</b>	<b>83.0%</b>	
	保健学科	1年	163	162	99.4%	162	99.4%
		2年	165	162	98.2%	162	98.2%
		3年	172	157	91.3%	157	91.3%
		4年	163	160	98.2%	160	98.2%
	<b>合計</b>	<b>663</b>	<b>641</b>	<b>96.7%</b>	<b>641</b>	<b>96.7%</b>	
	理工学部	1年	555	548	98.7%	548	98.7%
<b>学部合計</b>	<b>3,323</b>	<b>3,112</b>	<b>93.7%</b>	<b>3,112</b>	<b>93.7%</b>		

## &lt;大学院学生&gt;

		対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
			受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育学研究科	修士課程	1年	30	28	93.3%	28	93.3%
		2年	26	22	84.6%	22	84.6%
	専門職学位課程	1年	14	14	100.0%	14	100.0%
		2年	16	4	25.0%	4	25.0%
教育学部特別支援教育特別専攻科		9	9	100.0%	9	100.0%	
<b>合計</b>		<b>95</b>	<b>77</b>	<b>81.1%</b>	<b>77</b>	<b>81.1%</b>	
社会情報学研究科	修士課程	1年	13	7	53.8%	7	53.8%
		2年	18	10	55.6%	10	55.6%
	<b>合計</b>	<b>31</b>	<b>17</b>	<b>54.8%</b>	<b>17</b>	<b>54.8%</b>	
医学系研究科	修士課程	1年	14	13	92.9%	13	92.9%
		2年	10	7	70.0%	7	70.0%
	博士課程	1年	68	21	30.9%	20	29.4%
		2年	63	9	14.3%	8	12.7%
		3年	56	12	21.4%	12	21.4%
		4年	87	4	4.6%	3	3.4%
<b>合計</b>	<b>298</b>	<b>66</b>	<b>22.1%</b>	<b>63</b>	<b>21.1%</b>		
保健学研究科	博士前期課程	1年	35	14	40.0%	14	40.0%
		2年	49	10	20.4%	10	20.4%
	博士後期課程	1年	11	3	27.3%	3	27.3%
		2年	12	0	0.0%	0	0.0%
		3年	25	0	0.0%	0	0.0%
	<b>合計</b>	<b>132</b>	<b>27</b>	<b>20.5%</b>	<b>27</b>	<b>20.5%</b>	
<b>大学院等の合計</b>		<b>556</b>	<b>187</b>	<b>33.6%</b>	<b>184</b>	<b>33.1%</b>	

## 平成 26 年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿		
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	
理工学部・工学部	昼 間	2年	562	508	90.4	526	93.6	
		3年	570	490	86.0	499	87.5	
		4年	562	531	94.5	537	95.6	
		昼間計	1,694	1,529	90.3	1,562	92.2	
	夜 間 主	3年	30	24	80.0	24	80.0	
		4年	33	22	66.7	22	66.7	
		夜間計	63	46	73.0	46	73.0	
	学部合計		1,757	1,575	89.6	1,608	91.5	
	理工学府・工学研究科	修 士	1年	336	322	95.8	323	96.1
			2年	323	302	93.5	302	93.5
修士計			659	624	94.7	625	94.8	
博 士		1年	22	12	54.5	13	59.1	
		2年	28	14	50.0	14	50.0	
		3年	40	19	47.5	20	50.0	
		博士計	90	45	50.0	47	52.2	
大学院合計		749	669	89.3	672	89.7		
合 計			2,506	2,244	89.5	2,280	91.0	

※対象者数は4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は小数点第二位を四捨五入

## 平成26年度 精神保健調査

### (1) 新入生の精神保健調査

	対象学生数	要面接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	271	12	4.4%	7	2	3	1	0	1
社会情報学部	134	3	2.2%	1	1	0	0	0	0
医 学 部	286	4	1.4%	3	0	1	1	1	0
理工・工学部	563	25(1)	4.4%	10	1	5	4	0	0
合 計	1,254	44(1)	3.5%	21	4	9	6	1	1

注：（ ）は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:40名(3.2%)

### (2) 在校生の精神保健調査

	対象学生数	要面接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	664	11	1.7%	8	2	4	2	0	0
社会情報学部	319	7	2.2%	5	2	1	1	1	0
医 学 部	969	18(1)	1.9%	7	0	3	2	2	0
理工・工学部	2,144	50(3)	2.3%	20	3	8	6	2	1
合 計	4,096	86(4)	2.1%	40	7	16	11	5	1

注：（ ）は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※過去1年間に精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:70名(1.7%)

## 平成26年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去、感染性結核症の学生が3名発生し、すべて外国人留学生であった。  
 そのため、第8回健康支援総合センター運営委員会（平成21年8月3日開催）において、  
 外国人留学生に対しクオンティフェロンTB（結核感染診断マーカー検査）を特別健康診断項目として行うことが決定された。

### 1. 受検状況

	対象者数	受検者	
		人数	%
教育学部	15	15	100%
社会情報学部	9	9	100%
医学部	19	19	100%
理工学部	47	47	100%
国際教育・研究センター	0	0	
合計	90	90	100%

対象者：学部および大学院1年生、学部3年次編入生、平成26年4月以後に入学した研究生・聴講生・特別研究学生・特別聴講学生

### 2. クオンティフェロンTBゴールド検査結果

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		疑陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	15	15	100%	0	0%	0	0%
社会情報学部	9	8	88.9%	1	11.1%	0	0%
医学部	19	15	78.9%	3	15.8%	1	5.3%
理工学部	47	43	91.5%	3	6.4%	1	2.1%
国際教育・研究センター	0						
合計	90	81	90.0%	7	7.8%	2	2.2%

※今年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率 0%

陽性者は医療機関を紹介し、疑陽性者は今年度の健康診断（胸部レントゲン検査）で異常がなかったため、毎年健康診断をうけるよう促した。

#### 【参考資料：過去3年間の留学生健康診断結果】

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		疑陽性(±)		医学部1年 クオンティフェロンTB ゴールド検査 陽性率	
		人数	%	人数	%	人数	%		
平成23年度	103	81	78.6%	10	9.7%	12	11.7%	平成23年度	1.6%
平成24年度	94	81	86.2%	9	9.6%	4	4.3%	平成24年度	0%
平成25年度	102	90	88.2%	12	11.8%	0	0.0%	平成25年度	0%

### 3. メンタルヘルス質問票による精神保健調査

	受検者数	問題なし		要面接者数		面接結果			
		人数	%	人数	%	問題なし	随時の 相談を 推奨	継続相談	医療機関紹介
教育学部	15	14	93.3%	1	6.7%	0	0	1	0
社会情報学部	9	7	77.8%	2	22.2%	0	1	0	0
医学部	19	17	89.5%	2	10.5%	0	0	0	2
理工学部	47	47	100.0%	0	0.0%	0	0	0	0
国際教育・研究センター	0	0		0					
合計	90	85	94.4%	5	5.6%	0	1	1	2

要面接者5名中4名は当センター教授が面接し、1名は11月末に面接予定。



### 平成26年度 医学部1年ウイルス性疾患(麻疹,風疹,水痘,流行性耳下腺炎)抗体価検査

検査項目	受検者数	陰性		陽性	
		人数	%	人数	%
麻疹抗体	269	35	13.0%	234	87.0%
風疹抗体	269	12	4.5%	257	95.5%
水痘抗体	269	10	3.7%	259	96.3%
流行性耳下腺炎抗体	269	52	19.3%	217	80.7%

～備考～

- ・1種のウイルスに対して抗体価陰性者は78名(29.0%)
- ・2種のウイルスに対して抗体価陰性者は14名(5.2%)
- ・3種のウイルスに対して抗体価陰性者は3名(1.1%)

\* 学科別内訳

学 科	検査項目	受検者数	陰性		陽性	
			人数	%	人数	%
医 学 科	麻疹抗体	107	16	15.0%	91	85.0%
	風疹抗体	107	2	1.9%	105	98.1%
	水痘抗体	107	6	5.6%	101	94.4%
	流行性耳下腺炎抗体	107	21	19.6%	86	80.4%
保健学科	麻疹抗体	162	19	11.7%	143	88.3%
	風疹抗体	162	10	6.2%	152	93.8%
	水痘抗体	162	4	2.5%	158	97.5%
	流行性耳下腺炎抗体	162	31	19.1%	131	80.9%

### 平成26年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド検査

受検者数	陰性		陽性		判定保留	
	人数	%	人数	%	人数	%
265	266	100.4%	0	0.0%	1	0.4%

### 平成26年度 医学部1年B型肝炎ワクチン接種状況

(1) B型肝炎抗体価検査結果(4月)

受検者数	結果			
	陰性		陽性	
	人数	%	人数	%
270	260	96.3%	10	3.7%

(2) B型肝炎ワクチン接種

接種対象者数	接種人数			副作用	
	1回目(6月)	2回目(7月)	3回目(12月)	人数	症状
257	257	257	254	0	

## 平成26年度 利用人数

所属学部等		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	43	61	35	45	14	8	92	58	21	24	14	17	432
	社会情報学部	22	15	19	24	6	2	19	16	20	16	6	6	171
	医学部	22	15	13	21	0	1	8	11	6	1	0	2	100
	理工学部	28	60	49	33	4	8	38	20	14	13	11	12	290
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医学部	18	14	17	26	5	13	15	13	11	10	16	11	169
桐生・太田キャンパス	工学部	3	2	5	2	2	3	5	5	3	2	2	1	35
合計		136	167	138	151	31	35	177	123	75	66	49	49	1,197
教職員		6	4	8	4	1	8	5	5	5	7	3	7	63
合計		142	171	146	155	32	43	182	128	80	73	52	56	1,260

## 平成26年度 利用件数

## 【学生】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康相談	88	127	88	84	10	11	74	54	41	31	8	12	628
精神保健相談	31	41	53	61	22	25	41	35	34	33	41	31	448
健康診断書発行	18	0	0	6	1	0	62	34	0	2	0	6	129
合計	137	168	141	151	33	36	177	123	75	66	49	49	1,205

## 【教職員】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康相談	2	4	3	1	0	3	1	1	4	4	2	2	27
精神保健相談	4	0	5	3	1	5	4	4	1	3	1	4	35
健康診断書発行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	6	4	8	4	1	8	5	5	5	7	3	7	63

## 平成26年度 疾病領域別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	呼吸器系	36	29	21	23	1	0	24	16	16	15	3	7	191
	消化器系	3	8	4	4	0	0	6	6	7	1	1	0	40
	腎臓系	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	内分泌・代謝系	1	20	5	3	0	0	8	3	1	0	0	0	41
	その他	7	14	13	16	4	4	8	6	3	3	0	2	80
精神科		35	41	58	64	23	30	45	39	35	36	42	35	483
外科・整形外科		21	31	23	14	1	4	19	9	7	4	5	4	142
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
泌尿器科		2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
耳鼻咽喉科		2	2	5	4	0	0	0	2	0	1	0	0	16
眼科		1	5	4	1	0	2	1	1	1	5	0	0	21
皮膚科		10	15	10	13	2	1	5	9	7	4	0	1	77
歯科・口腔外科		0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
産婦人科		7	4	4	5	2	0	4	1	3	2	0	0	32
合計		125	172	149	149	33	44	120	94	80	71	52	49	1,138

## 平成26年度 医療機関紹介の診療科分類

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	呼吸器系	2	2	2	2	1	0	0	0	0	1	1	0	11
	消化器系	1	3	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	11
	腎臓系	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	内分泌・代謝系	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	その他	1	1	2	1	0	4	3	1	0	2	0	1	16
精神科		2	3	3	2	0	1	4	1	1	0	2	1	20
外科・整形外科		8	9	10	4	0	0	4	2	1	1	1	0	40
脳神経外科		0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6
眼科		1	3	2	1	0	2	1	1	1	0	0	0	12
皮膚科		5	0	2	4	0	1	1	3	2	0	0	0	18
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
産婦人科		2	2	2	1	0	0	2	1	2	1	0	0	13
合計		24	24	28	21	1	10	16	13	7	5	5	2	156

## 平成26年度 薬剤別使用数（処方日数による）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗 生 剤	16	6	8	9	0	0	4	0	0	0	0	0	43
解 熱 ・ 消 炎 ・ 鎮 痛 剤	20	52	20	14	4	0	23	11	2	1	3	3	153
感 冒 剤	77	48	27	15	0	0	46	25	17	18	5	6	284
鎮 咳 剤	/	/	/	11	0	0	17	6	2	3	0	0	39
去 痰 剤	/	/	/	12	0	0	15	6	2	5	0	2	42
漢 方 剤	0	32	35	11	0	0	7	3	26	17	0	6	137
鎮 痙 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健 胃 剤 ・ 抗 潰 瘍 剤	7	13	2	5	0	0	13	6	11	4	0	0	61
整 腸 剤	3	9	0	6	0	0	9	9	8	2	0	0	46
止 瀉 剤	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
鎮 吐 剤	5	6	0	3	1	0	3	7	5	0	0	0	30
抗 ア レ ル ギ ー 剤	0	8	4	2	0	0	2	3	6	0	0	5	30
精 神 安 定 剤	0	0	0	0	0	0	/	/	/	/	/	/	0
含 嗽 剤	0	4	2	2	0	0	1	1	1	0	0	1	12
口 腔 内 塗 布 剤	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
外 用 副 腎 皮 質 ホ ル モ ン 剤	3	8	4	5	0	0	1	4	3	3	0	0	31
外 用 抗 生 剤	0	1	1	2	0	1	0	1	0	0	1	0	7
外 用 抗 ウ イ ル ス 剤	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
外 用 保 湿 剤	0	2	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	6
外 用 消 炎 剤	8	17	9	3	2	1	8	5	6	2	1	2	64
点 眼 薬	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5
合 計	142	210	113	103	7	2	150	87	90	58	10	25	997

## 平成26年度 常備薬使用数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
抗 生 剤	ケ フ レ ッ ク ス	24	24	60	24	0	0	12	0	0	0	0	0	144	159
	ク ラ ビ ッ ト	8	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
解熱・消炎・鎮痛剤	ボ ル タ レ ン	7	12	6	3	0	0	0	3	0	0	0	9	40	229
	カ ロ ナ ー ル	39	24	1	12	0	0	22	7	0	0	3	0	108	
	ロ キ ソ ニ ン	0	36	20	9	4	0	4	1	6	1	0	0	81	
	イ ブ 錠 ( 市 販 )	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感 冒 剤	P L 顆 粒	231	134	81	45	0	0	138	75	41	54	15	18	832	832
鎮 咳 剤	フ ス タ ゾ ー ル	/	/	/	33	0	0	45	18	6	9	0	0	111	111
去 痰 剤	ム コ ダ イ ン	/	/	/	36	0	0	39	18	6	15	0	6	120	120
漢 方 剤	葛 根 湯	/	30	45	12	0	0	9	0	24	33	0	9	162	411
	小 青 竜 湯	/	66	60	21	0	0	12	9	54	18	0	9	249	
鎮 痙 剤	ブ ス コ パ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健胃剤・抗潰瘍剤	セ ル ベ ッ ク ス	17	39	0	13	0	0	29	18	33	12	0	0	161	161
整 腸 剤	ラ ッ ク ビ ー	9	27	0	18	0	0	27	21	24	6	0		132	132
止 瀉 剤	ロ ペ ミ ン	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
鎮 吐 剤	プ リ ン ペ ラ ン	5	18	0	3	1	0	3	15	13	0	0	0	58	58
抗アレルギー剤	ア レ ロ ッ ク	0	12	6	2	0	0	4	6	12	0	0	7	49	49
精 神 安 定 剤	セ ル シ ン	0	0	0	0	0	0	/	/	/	/	/	/	0	0
含 嗽 剤	イ ソ ジ ン ガ ー グ ル	0	4	2	2	0	0	1	1	1	0	0	1	12	12
口 腔 内 塗 布 剤	デ ス パ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
外用副腎皮質ホルモン剤	ロ コ イ ド 軟 膏	0	3	2	1	0	0	1	0	3	2	0	0	12	31
	リ ン デ ロ ン V G	2	5	2	4	0	0	0	4	0	1	0	0	18	
	デルモベートクリーム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
外 用 抗 生 剤	ア ク チ ア ム 軟 膏	3	1	1	2	0	1	0	1	0	0	1	0	10	10
外用抗ウイルス剤	アラセナー A 軟膏	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9
外 用 保 湿 剤	ヒルドイドソフト軟膏	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6
	白 色 ワ セ リ ン	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	5	
外 用 消 炎 剤	ヤクバンテープ	8	17	9	2	/	/	/	/	/	/	/	/	36	36
	ロキソニンテープ	/	/	/	1	2	1	8	5	6	2	1	2	28	28
点 眼 薬	タリビット点眼薬	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	5
合 計		362	464	296	251	7	2	355	202	230	156	20	61	2,406	2,406

## 平成26年度 からだの健康相談・こころの健康相談の対応内容

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ	3	7	11	10	1	0	3	4	5	6	2	1	53	
	肥満治療	0	17	5	3	0	0	4	2	0	0	0	0	31	
	レディースクリニック	2	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	7	
	外傷処置	4	4	5	8	0	2	2	3	0	0	1	1	30	
	検査	3	5	3	4	1	1	5	1	0	0	0	1	24	
	投薬	53	61	41	38	4	2	43	32	28	21	3	9	335	
	休養ベッド使用	7	8	3	5	2	1	3	4	2	0	0	1	36	
	健康・保健用器具貸し出し	3	4	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	12	
	医療機関紹介	21	21	25	18	1	7	12	12	6	4	2	1	130	
	救急転送	1	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	6	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	8	9	14	8	3	3	6	8	5	7	6	11	88
		カウンセラー紹介	1	1	0	0	0	0	0	1	0	2	3	2	10
		医療機関紹介	2	0	3	1	0	1	2	1	1	0	2	1	14
	カウンセラー	カウンセリング	23	32	39	53	19	22	35	27	29	26	35	20	360
		精神科医(当センター)紹介	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
		医療機関紹介	0	3	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	6
合計		131	175	154	152	33	39	119	96	76	66	57	49	1,147	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4	
	肥満治療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レディースクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外傷処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	検査	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	
	投薬	1	4	1	0	0	0	1	0	3	3	1	0	14	
	休養ベッド使用	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	
	健康・保健用器具貸し出し	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	医療機関紹介	1	0	0	1	0	2	0	0	0	1	1	0	6	
	救急転送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	4	0	4	3	1	3	4	2	0	0	1	2	24
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	カウンセラー	カウンセリング	0	0	1	0	0	2	0	2	1	3	0	2	11
		精神科医(当センター)紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		6	4	9	4	1	8	6	5	6	9	4	6	68	

※「こころの相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。



## 平成26年度 こころの健康相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	4	18	12	21	11	5	6	7	7	7	8	6	112
	社会情報学部	4	4	8	10	2	0	8	8	10	9	4	1	68
	医学部	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7
	理工学部	9	8	15	12	3	4	7	5	4	7	11	11	96
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医学部	9	9	12	17	4	12	15	10	10	8	16	10	132
桐生キャンパス	工学部	2	2	5	1	2	3	5	5	3	2	2	1	33
合 計		31	41	53	61	22	25	41	35	34	33	41	31	448
教 職 員		4	0	5	3	1	5	4	4	1	3	1	4	35
合 計		35	41	58	64	23	30	45	39	35	36	42	35	483

## 平成26年度 こころの健康相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	10	6	7	11	5	6	12	14	11	11	9	8	110
対人関係	11	10	6	17	9	8	12	8	10	8	11	7	117
心体の不調	11	22	31	29	6	11	19	14	12	13	20	19	207
修学	3	3	6	3	1	2	2	1	1	3	1	1	27
その他	1	1	10	4	2	3	0	2	1	1	1	0	26
合 計	36	42	60	64	23	30	45	39	35	36	42	35	487

## 平成26年度 カウンセラー相談利用状況

## ～学生～

## カウンセリング人数

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数
荒牧地区	10	6	16	10	13	2	18	2	11	0	5	0	12	2	9	0	10	0	14	0	13	2	8	0	139	24
昭和地区	9	5	5	1	5	1	10	3	3	0	6	0	7	1	7	1	6	0	5	1	7	1	4	0	74	14
桐生地区	9	6	12	3	18	9	16	6	8	2	12	2	16	4	15	4	15	0	13	2	11	1	16	3	161	42
太田地区	0	0	2	1	3	1	3	1	3	0	1	0	4	1	1	0	3	1	1	0	1	0	1	0	23	5
合計	28	17	35	15	39	13	47	12	25	2	24	2	39	8	32	5	34	1	33	3	32	4	29	3	397	85

新規受付者数は内数（H23新規受付数は統計を取っていないため不明）

## カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	13	23	28	36	15	10	21	17	21	19	22	15	240
昭和地区	10	9	11	17	4	12	14	10	8	7	13	5	120
桐生地区	16	21	33	29	12	22	25	23	24	20	19	23	267
太田地区	0	2	4	4	3	2	5	2	3	1	2	1	29
合計	39	55	76	86	34	46	65	52	56	47	56	44	656

## カウンセリング動機内訳

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数	人数	新規受付者数
心理性格	10	5	8	3	19	8	19	1	9	1	11	0	20	0	21	1	18	0	18	0	14	1	14	0	181	20
対人関係	12	5	18	1	20	2	24	4	14	1	16	1	20	1	10	1	12	1	9	1	15	0	10	1	180	19
心体の不調	7	3	21	7	20	3	33	6	7	0	12	1	14	3	14	3	21	0	12	2	20	2	12	1	193	31
修学影響心理等	11	4	8	2	12	0	7	1	2	0	5	0	9	4	5	0	4	0	8	0	4	1	7	1	82	13
その他	1	1	3	2	8	0	3	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	3	0	1	0	28	3
合計	41	18	58	15	79	13	86	12	34	2	46	2	65	8	52	5	56	1	47	3	56	4	44	3	664	86

新規受付者数は内数

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

## ～職員～

## カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	1	0	0	2	0	2	1	2	0	2	10
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
桐生地区	3	1	1	3	1	1	2	2	1	2	0	2	19
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	2	3	1	3	2	4	2	5	0	4	30

## カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	1	0	0	2	0	2	1	2	0	2	10
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
桐生地区	3	1	1	3	1	1	2	3	1	2	0	3	21
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	2	3	1	3	2	5	2	5	0	5	32

## カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
対人関係	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	6
心体の不調	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
修学影響心理等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	2	3	1	2	2	4	1	3	0	3	23
合計	3	1	2	3	1	3	2	5	2	5	0	5	32

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

## 第 21 回（平成 26 年度第 1 回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成 26 年 7 月 7 日(月) 14 時 00 分 ～

2 場 所 学務部会議室（大学会館 1 階）

3 議 題

○ 協議事項

- (1) 平成 27 年度学生定期健康診断日程（案）について 【資料 1】
- (2) 群馬大学健康支援総合センターの運営に関する申し合わせ（案）について 【資料 2】
- (3) その他

○ 報告事項

- (1) 健康支援総合センターの講師（保健管理担当）の就任について
- (2) 今後の健康支援総合センター業務計画について 【資料 3】
- (3) 平成 26 年度学生定期健康診断受検状況について 【資料 4】
- (4) 平成 26 年度精神保健調査結果について 【資料 5】
- (5) 平成 26 年度健康支援総合センター相談体制について 【資料 6】
- (6) 平成 26 年度カウンセラー等の配置状況について 【資料 7】
- (7) 平成 25 年度カウンセラーの相談利用状況について 【資料 8】
- (8) 平成 25 年度昭和地区健康維持・向上相談員の利用数について 【資料 9】
- (9) 平成 25 年度桐生地区キャンパスソーシャル・ケースワーカー  
の相談利用状況について 【資料 10】
- (10) 平成 25 年度特殊健康診断結果について 【資料 11】
- (11) その他

## 第22回（平成26年度第2回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成26年12月1日（月）14時00分～

2 場 所 大学会館1階会議室

3 議 題

○ 協議事項

(1)平成27年度健康支援総合センター業務計画（案）について 【資料1】

(2)その他

○ 報告事項

(1)平成27年度学生定期健康診断における附属病院医師の派遣依頼について 【資料2】

(2)平成26年度計画に係る実施状況調書（中間調査）について 【資料3】

(3)平成26年度外国人留学生特別健康診断結果について 【資料4】

(4)平成26年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会開催について 【資料5】

(5)第52回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会，第52回全国 【資料6】

大学保健管理

研究集会及び平成26年度国立大学法人保健管理施設協議会報告について

(6)第12回群馬県内大学等保健管理担当者会議報告について 【資料7】

(7)第52回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健・看護分科会運営 【資料8】

委員会報告について

(8)平成26年度カウンセラー，キャンパスソーシャル・ケースワーカーと理

工学部学生支援担当教員等との懇談会について 【資料9】

(9)その他

## 平成26年度 健康支援総合センター運営委員会委員名簿

(任期:平成26年4月1日～平成28年3月31日)

平成26年4月1日現在

部 局 等	職 名	氏 名	備 考	備考
センター長・委員長	理事 副学長(教育・国際交流担当)	石 川 治	7112 osamuish@	1号委員
副センター長	健康支援総合センター教授	竹 内 一 夫	7162 ktakeuchi@	2号委員
健康支援総合センター	健康支援総合センター講師	宮 崎 博 子	7162 hrkmiyazaki@	3号委員
教育学部	学生支援委員長	上 條 隆	7328 kamijo@	4号委員
社会情報学部	学生委員長	前 田 泰	7495 maeda@si.	4号委員
医学系研究科	教務部会長	小 山 徹 也	7980 oyama@	4号委員
保健学研究科	厚生補導専門委員長	篠 崎 博 光	8970 h_shinozaki@	4号委員
理工学府	国際交流・学生支援委員会委員長	山 田 功	1563 yamada@.	4号委員
事務局	総務部長	下 敷 領 強	7002 tssr@jimu.	5号委員
事務局	学務部長	道 見 明 彦	7121 michimi@jimu.	5号委員

### 関係職員

部 局 等	職 名	氏 名	備 考	備考
健康支援総合センター	看護師	八重樫 聡 子	<a href="mailto:yaegashi@jimu">yaegashi@jimu</a>	7161
教育学部	教務係長	須 藤 忠 義	<a href="mailto:tsuto@jimu">tsuto@jimu</a>	7223
社会情報学部	教務係長	鈴 木 透	<a href="mailto:t-suzu48@jimu">t-suzu48@jimu</a>	7404
昭和地区事務部	学事・学生支援係長	楯 正 樹	<a href="mailto:m-tate@jimu">m-tate@jimu</a>	7796
理工学部	学生支援係長	船 田 博	<a href="mailto:fun@jimu">fun@jimu</a>	1023
理工学部	看護師	小野里 清 美	<a href="mailto:knozato@jimu">knozato@jimu</a>	1044
総務部	人事労務課	田 中 博 文	<a href="mailto:h-tanaka@jimu">h-tanaka@jimu</a>	7023
学務部	学生支援課長	戸 澤 勲	<a href="mailto:tozawa-i@jimu">tozawa-i@jimu</a>	7135
学務部	学生支援課副課長(学生支援担当)	若 林 博 夫	<a href="mailto:h-waka@jimu">h-waka@jimu</a>	7136
学務部	学生支援係長	吉 田 潔	<a href="mailto:k-yosida@jimu">k-yosida@jimu</a>	7138